令和６年度
香川県医療的ケア児等にかかる
実態調査結果報告書

令和７年３月

香川県障害福祉課

目　次

第１章　『香川県医療的ケア児等にかかる実態調査』の実施要領

１．調査目的 2

２．調査概要

（１）香川県医療的ケア児等にかかる実態調査 2

（２）医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査 2

（３）医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査 2

第２章　『香川県医療的ケア児等にかかる実態調査』の結果

１．算定患者

（１）医療機関における算定患者の有無 4

（２）算定患者の人数 5

（３）算定患者の状況（複数回答） 6

第３章　『医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査』の結果

１．医療的ケアを必要とするご本人

（１）本人のこと 13

（２）現在行っている医療的ケア（複数回答） 15

（３）本人が所持している障害者手帳等（複数回答） 17

（４）本人の主な日中の居場所（複数回答） 18

（５）本人が夜間に過ごす場所 20

２．医療的ケアを行う方

（６）自宅で医療的ケアを行う方 22

（７）主たる介護者の介護等負担の現状 25

３．訪問診療・訪問看護の利用

（８）訪問診療・訪問看護の利用 40

４．障害福祉サービス等の利用

（９）障害福祉サービス等の利用状況 44

（１０）サービスや支援に関する希望（自由記述） 50

５．就園・就学

（１１）就園・就学 51

（１２）就園・就学に関する意見（自由記述） 59

（１３）将来の介護の意向 60

（１４）親同士の「交流の場」 62

６．災害時の対策

（１５）災害時の対策について（複数回答） 63

（１６）災害時の非常用電源 64

（１７）災害対策に関する意見 65

７．コロナ等新興感染症

（１８）コロナ等新興感染症流行以降、気にかけていること（複数回答） 66

８．香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」等

（１９）香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」 67

（２０）香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」への意見（自由記述） .. 68

（２１）医療的ケアを必要とする方やご家族への支援策などの意見（自由記述） .. 69

第４章　『医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査』の結果

１．医療的ケア児等に対するサービス提供の実施状況
（１）事業種別 71
（２）事業所の所在地 71
（３）医療的ケア児等やその支援方法 71
（４）医療的ケア児等支援者または医療的ケア児等コーディネーターの有無 72
（５）医療的ケア児等に対する支援の実施の有無 73
（６）医療的ケアを実施している児等の人数 76
（７）事業運営の工夫（複数回答） 77
（８）事業運営の課題（複数回答） 78
（９）医療的ケア児等の支援の検討（複数回答） 79
（１０）医療的ケアを実施していない理由（複数回答） 80
２．介護職員による医療的ケアの実施
（１１）医療的ケアを実施できる介護職員 81
（１２）介護職員が研修を受講する際の課題（複数回答） 82
（１３）介護職員による医療的ケア児等への支援に関する研修に対する意見（自由記述） 83
３．看護師による医療的ケア児への支援の実施
（１４）看護師による医療的ケア児等への支援 84
（１５）看護師による医療的ケア児等への支援の推進（複数回答） 85
（１６）看護師による医療的ケア児等への支援に関する意見（自由記述） 86
４．コロナ等新興感染症
（１７）コロナ等新興感染症への対策（複数回答） 87
（１８）コロナ等新興感染症への課題（複数回答） 88
（１９）コロナ等新興感染症に関する意見（自由記述） 89
５．災害対策
（２０）事業所の災害対策（複数回答） 90
（２１）災害時の対策や不安（自由記述） 91
６．香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」
（２２）香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」 92
（２３）香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」の取組み（複数回答） .. 92
（２４）医療的ケア児等の支援に関する質問・意見・要望（自由記述） 93

第５章　参考資料

１．アンケート調査票
（１）香川県医療的ケア児等にかかる実態調査 95
（２）医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査 96
（３）医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査 124

第１章

『香川県医療的ケア児等にかかる実態調査』の実施要領

第1章 『香川県医療的ケア児等にかかる実態調査』の実施要領

１．調査目的

人工呼吸器を装着しているなど、日常生活を営むために医療的ケアを要する状態にある障害児者（以下「医療的ケア児等」という。）に対して適切な支援を行うにあたり、本県の医療的ケア児等に係る現状を把握するための調査を行いました。

対象は、地域で生活する下記医療的ケア（★）を要する患者です。なお、小児科が引き続き診ている成人やグループホーム居住者も含みます。ただし、年齢が４０歳以上の方（令和６年３月３１日時点）、気管支喘息、糖尿病のみ、あるいは両者の合併のみの患者、睡眠時無呼吸症候群のみの患者は除外します。

★医療的ケアとは下記を行うものを指します。
a. 口、鼻からの吸引　b. エアウェイ挿入　c. 気管切開（喉頭分離術を含む） d. 在宅酸素　e. 人工呼吸器装着（NPPV を含める）　f. 経管栄養（口からの経管栄養、経鼻栄養、胃瘻、腸瘻）　g. 導尿　h. 中心静脈栄養、腹膜透析、人工肛門

２．調査概要

（１）香川県医療的ケア児等にかかる実態調査

調査対象：香川県内の医療的ケア児等にかかる医療機関等

調査方法：県内医療機関に FAX を送付し、回答がない医療機関には電話による回答依頼を実施。
なお、本調査においては 40 歳未満の成人も対象とすることから「在宅患者訪問診療料」を追加している。

調査期間：令和６年７月 16 日～令和６年７月 31 日

回収率等：

調査対象数	有効回収数	有効回収率
865医療機関	690医療機関	79.8%

（２）医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査

調査対象：香川県内の医療的ケア児等の主たる介護者等

調査方法：県内の障害福祉サービス事業所等（訪問看護事業所を含む）や特別支援学校に周知を依頼し、スマートフォンやインターネットから回答

調査期間：令和６年 10 月 29 日～令和６年 12 月 16 日

有効回答数：77 人

（３）医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査

調査対象：香川県内の障害福祉サービス事業所等（訪問看護事業所を含む）

調査方法：スマートフォンやインターネットから回答

調査期間：令和６年 10 月 29 日～令和６年 12 月 16 日

有効回答数：158 事業所

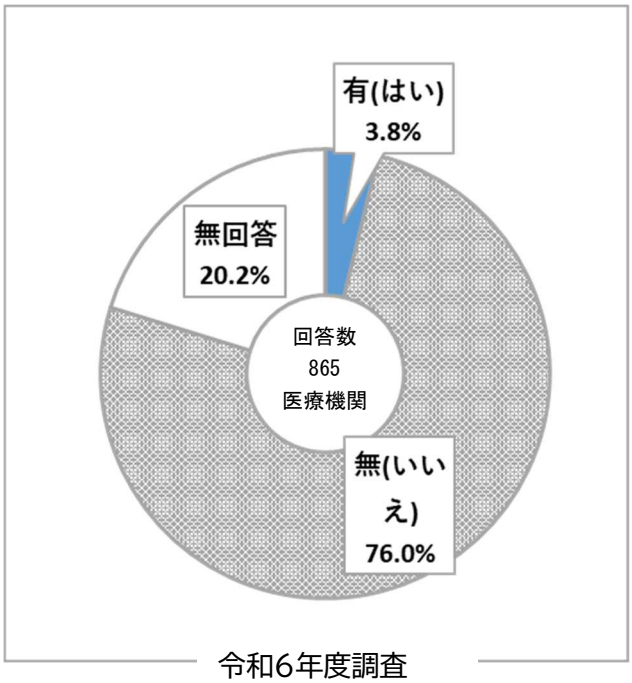
第２章

『香川県医療的ケア児等にかかる実態調査』の結果

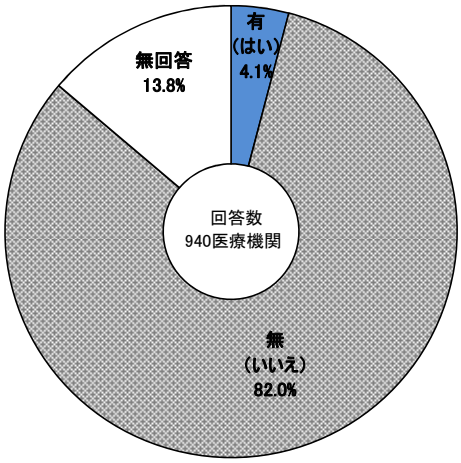
第2章 『香川県医療的ケア児等にかかる実態調査』の結果

１．算定患者

（１）医療機関における算定患者の有無



令和6年度調査



参考:平成 30 年度調査

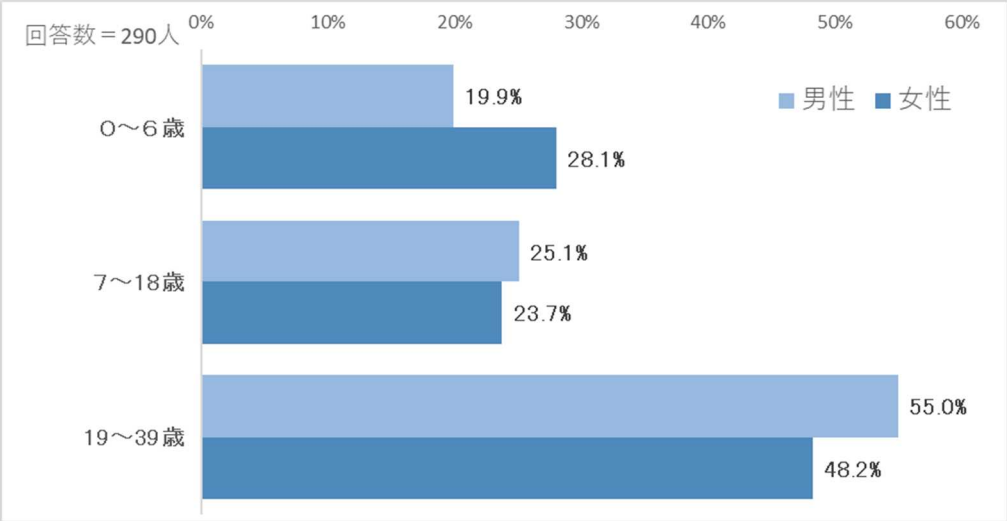
算定患者の有無について、「有（はい）」が 3.8%、「無（いいえ）」が 76.0%となっている。

【表の見方】 上段=回答数（医療機関） 下段=比率		全体	有（はい）	無（いいえ）	無回答
全体		865	33	657	175
		100.0%	3.8%	76.0%	20.2%
医療機関の種別	病院	86	20	65	1
		100.0%	23.6%	76.0%	0.4%
	診療所（高松）	377	8	297	72
		100.0%	2.1%	78.8%	19.1%
	診療所（小豆）	17	-	6	11
		100.0%	-	35.3%	64.7%
	診療所（西讃）	87	0	66	21
		100.0%	0.0%	75.9%	24.1%
	診療所（中讃）	223	4	166	53
		100.0%	1.8%	74.4%	23.8%
	診療所（東讃）	75	1	57	17
		100.0%	1.3%	76.0%	22.7%

令和 6 年度調査

（２）算定患者の人数

【表の見方】 上段=回答数（医療機関） 下段=比率		全体	0～6歳	7～18歳	19～39歳
全体		290	69	71	150
		100.0%	23.8%	24.5%	51.7%
性別	男性	151	30	38	83
		100.0%	19.9%	25.1%	55.0%
	女性	139	39	33	67
		100.0%	28.1%	23.7%	48.2%



令和６年度調査

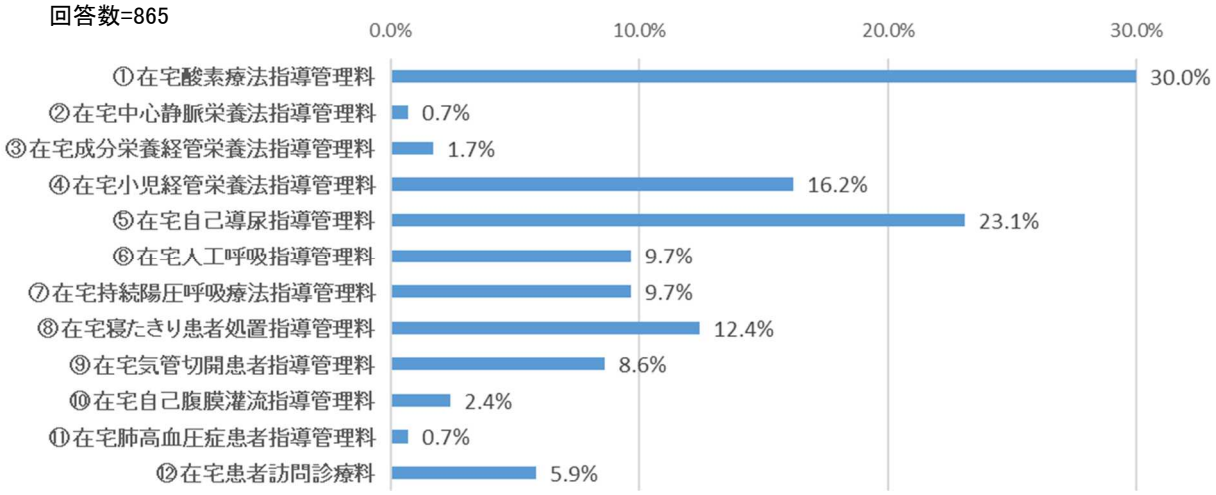
算定患者の人数について、「0～6歳」は69人、「7～18歳」は71人、「19～39歳」は150人となっている。香川県の医療的ケア児等の人数は 290 人、0～18 歳の医療的ケア児の人数は140人となっている（平成３０年度調査では、医療的ケア児者の人数：355人、0～18歳の医療的ケア児の人数：160人）。

性別にみると、男性は151人、女性は139人となっている。

【表の見方】 上段=回答数（医療機関） 下段=比率	全体	0～6歳	7～18歳	19～39歳
全体	355	82	78	195
	100.0%	23.1%	22.0%	54.9%

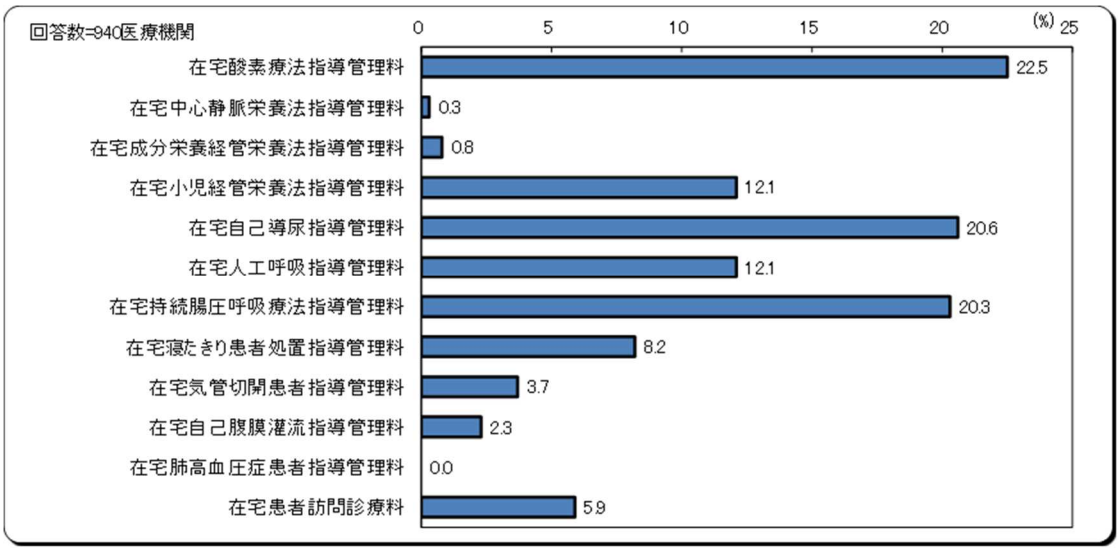
参考:平成30年度調査

（３）算定患者の状況（複数回答）



令和６年度調査

令和５年度に在宅指導管理料を算定している患者（令和６年３月３１日時点で４０歳未満）について、「在宅酸素療法指導管理料」が 30.0%と最も多く、次いで「在宅自己導尿指導管理料」が 23.1%、「在宅小児経管栄養法指導管理料」が 16.2%となっている。



参考:平成 30 年度調査

【表の見方】 上段=回答数（人） 下段=比率		全体	※在宅療養指導料											
			①在宅酸素療法指導管理料	②在宅中心静脈栄養法指導管理料	③在宅成分栄養経管栄養法指導管理料	④在宅小児経管栄養法指導管理料	⑤在宅自己尿導管理料	⑥在宅人工呼吸指導管理料	⑦在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料	⑧在宅寝たきり患者処置指導管理料	⑨在宅気管切開患者指導管理料	⑩在宅自己腹膜灌流指導管理料	⑪在宅肺高血圧症患者指導管理料	⑫在宅患者訪問診療料
全体		290	87	2	5	47	67	28	28	36	25	7	2	17
		-	30.0%	0.7%	1.7%	16.2%	23.1%	9.7%	9.7%	12.4%	8.6%	2.4%	0.7%	5.9%
年齢別	0歳～6歳	69	38	-	2	27	7	6	-	-	8	1	-	1
		-	55.1%	-	2.9%	39.1%	10.1%	8.7%	-	-	11.6%	1.4%	-	1.4%
	7歳～18歳	71	26	-	2	19	15	11	1	9	9	-	-	2
		-	36.6%	-	2.8%	26.8%	21.1%	15.5%	1.4%	12.7%	12.7%	-	-	2.8%
	19歳～39歳	150	23	2	1	1	45	11	27	27	8	6	2	14
		-	15.3%	1.3%	0.7%	0.7%	30.0%	7.3%	18.0%	18.0%	5.3%	4.0%	1.3%	9.3%
性別	男	151	51	-	3	21	30	15	24	20	15	4	-	9
		-	33.8%	-	2.0%	13.9%	19.9%	9.9%	15.9%	13.2%	9.9%	2.6%	-	6.0%
	女	139	36	2	2	26	37	13	4	16	10	3	2	8
		-	25.9%	1.4%	1.4%	18.7%	26.6%	9.4%	2.9%	11.5%	7.2%	2.2%	1.4%	5.8%
医療機関の種別	病院	271	85	1	5	46	64	27	23	36	25	6	2	7
		-	31.4%	0.4%	1.8%	17.0%	23.6%	10.0%	8.5%	13.3%	9.2%	2.2%	0.7%	2.6%
	診療所（高松）	12	2	-	-	1	3	-	5	-	-	1	-	3
		-	16.7%	-	-	8.3%	25.0%	-	41.7%	-	-	8.3%	-	25.0%
	診療所（小豆）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	診療所（西讃）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	診療所（中讃）	5	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	5
		-	-	20.0%	-	-	-	20.0%	-	-	-	-	-	100.0%
	診療所（東讃）	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0%

令和６年度調査

年齢別に在宅指導管理料を算定している患者を比較してみると、０歳～6 歳と７歳～18 歳では「在宅酸素療法指導管理料」がそれぞれ 55.1%、36.6%と最も多く、19 歳～39 歳では「在宅自己導尿指導管理料」が 30.0%と最も多い。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 在宅酸素療法指導管理料	(2) 在宅中心静脈栄養法指導管理料	(3) 在宅成分栄養経管栄養法指導管理料	(4) 在宅小児経管栄養法指導管理料	(5) 在宅自己導尿指導管理料	(6) 在宅人工呼吸指導管理料	(7) 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料	(8) 在宅寝たきり患者処置指導管理料	(9) 在宅気管切開患者指導管理料	(10) 在宅自己腹膜灌流指導管理料	(11) 在宅肺高血圧症患者指導管理料	(12) 在宅患者訪問診療料
全体		355	80	1	3	43	73	43	72	29	13	8	－	21
		100.0	22.5	0.3	0.8	12.1	20.6	12.1	20.3	8.2	3.7	2.3	－	5.9
年齢別	0～6歳	82	49	－	－	20	6	9	－	－	2	－	－	3
		100.0	59.8	－	－	24.4	7.3	11.0	－	－	2.4	－	－	3.7
	7～18歳	78	15	－	－	22	21	7	6	8	5	－	－	4
		100.0	19.2	－	－	28.2	26.9	9.0	7.7	10.3	6.4	－	－	5.1
	19～40歳未満	195	16	1	3	1	46	27	66	21	6	8	－	14
		100.0	8.2	0.5	1.5	0.5	23.6	13.8	33.8	10.8	3.1	4.1	－	7.2
性別	男	222	45	1	2	17	37	31	64	13	10	3	－	16
		100.0	20.3	0.5	0.9	7.7	16.7	14.0	28.8	5.9	4.5	1.4	－	7.2
	女	133	35	－	1	26	36	12	8	16	3	5	－	5
		100.0	26.3	－	0.8	19.5	27.1	9.0	6.0	12.0	2.3	3.8	－	3.8
医療機関の種別	病院	314	77	1	2	43	68	42	47	28	12	8	－	14
		100.0	24.5	0.3	0.6	13.7	21.7	13.4	15.0	8.9	3.8	2.5	－	4.5
	診療所（高松）	9	2	－	1	－	3	1	－	－	－	－	－	4
		100.0	22.2	－	11.1	－	33.3	11.1	－	－	－	－	－	44.4
	診療所（小豆）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	診療所（西讃）	6	1	－	－	－	－	－	4	1	－	－	－	－
		100.0	16.7	－	－	－	－	－	66.7	16.7	－	－	－	－
	診療所（中讃）	24	－	－	－	－	2	－	19	－	1	－	－	3
		100.0	－	－	－	－	8.3	－	79.2	－	4.2	－	－	12.5
	診療所（東讃）	2	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－
		100.0	－	－	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－

参考:平成 30 年度調査

全体（0～39歳） 【表の見方】 上段=回答数（人） 下段=比率			全体	※在宅療養指導料											
				①在宅酸素療法指導管理料	②在宅中心静脈栄養法指導管理料	③在宅成分栄養経管栄養法指導管理料	④在宅小児経管栄養法指導管理料	⑤在宅自己尿管理指導料	⑥在宅人工呼吸器管理指導料	⑦在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料	⑧在宅寝たきり患者処置指導管理料	⑨在宅気管切開患者指導管理料	⑩在宅自己灌流指導管理膜流料	⑪在宅肺高血圧症患者指導管理料	⑫在宅患者訪問診療料
全体			290	87	2	5	47	67	28	28	36	25	7	2	17
			-	30.0%	0.7%	1.7%	16.2%	23.1%	9.7%	9.7%	12.4%	8.6%	2.4%	0.7%	5.9%
障害福祉圏域別	大川圏域		20	4	-	1	3	5	-	2	1	1	-	-	3
			-	20.0%	-	5.0%	15.0%	25.0%	-	10.0%	5.0%	5.0%	-	-	15.0%
		さぬき市	12	2	-	-	2	4	-	1	1	1	-	-	1
			-	16.7%	-	-	16.7%	33.3%	-	8.3%	8.3%	8.3%	-	-	8.3%
		東かがわ市	8	2	-	1	1	1	-	1	-	-	-	-	2
			-	25.0%	-	12.5%	12.5%	12.5%	-	12.5%	-	-	-	-	25.0%
	小豆圏域		10	5	-	-	1	3	2	2	-	2	-	-	1
			-	50.0%	-	-	10.0%	30.0%	20.0%	20.0%	-	20.0%	-	-	10.0%
		小豆島町	5	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
			-	60.0%	-	-	-	-	-	20.0%	-	-	-	-	20.0%
		土庄町	5	2	-	-	1	3	2	1	-	2	-	-	-
			-	40.0%	-	-	20.0%	60.0%	40.0%	20.0%	-	40.0%	-	-	-
	高松圏域		145	46	1	2	28	27	14	19	21	15	5	-	5
			-	31.7%	0.7%	1.4%	19.3%	18.6%	9.7%	13.1%	14.5%	10.3%	3.4%	-	3.4%
		高松市	136	45	1	2	25	26	14	17	19	14	5	-	4
			-	33.1%	0.7%	1.5%	18.4%	19.1%	10.3%	12.5%	14.0%	10.3%	3.7%	-	2.9%
		三木町	9	1	-	-	3	1	-	2	2	1	-	-	1
			-	11.1%	-	-	33.3%	11.1%	-	22.2%	22.2%	11.1%	-	-	11.1%
		直島町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中讃東圏域		24	8	1	-	3	3	2	1	3	2	-	1	5
			-	33.3%	4.2%	-	12.5%	12.5%	8.3%	4.2%	12.5%	8.3%	-	4.2%	20.8%
		坂出市	9	4	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	3
			-	44.4%	-	-	-	11.1%	-	-	11.1%	-	-	11.1%	33.3%
		宇多津町	5	1	1	-	1	1	-	-	1	1	-	-	1
			-	20.0%	20.0%	-	20.0%	20.0%	-	-	20.0%	20.0%	-	-	20.0%
		綾川町	10	3	-	-	2	1	2	1	1	1	-	-	1
			-	30.0%	-	-	20.0%	10.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	-	-	10.0%
	中讃西圏域		68	17	-	2	10	22	8	2	7	3	1	1	2
			-	25.0%	-	2.9%	14.7%	32.4%	11.8%	2.9%	10.3%	4.4%	1.5%	1.5%	2.9%
		丸亀市	39	8	-	1	8	13	4	1	6	-	-	-	1
			-	20.5%	-	2.6%	20.5%	33.3%	10.3%	2.6%	15.4%	-	-	-	2.6%
		善通寺市	19	5	-	1	1	8	3	1	-	1	1	-	1
			-	26.3%	-	5.3%	5.3%	42.1%	15.8%	5.3%	-	5.3%	5.3%	-	5.3%
		琴平町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		多度津町	7	3	-	-	1	1	-	-	1	1	-	1	-
			-	42.9%	-	-	14.3%	14.3%	-	-	14.3%	14.3%	-	14.3%	-
		まんのう町	3	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
			-	33.3%	-	-	-	-	33.3%	-	-	33.3%	-	-	-
	三観圏域		23	7	-	-	2	7	2	2	4	2	1	-	1
			-	30.4%	-	-	8.7%	30.4%	8.7%	8.7%	17.4%	8.7%	4.3%	-	4.3%
		観音寺市	11	2	-	-	2	4	1	-	4	1	1	-	1
			-	18.2%	-	-	18.2%	36.4%	9.1%	-	36.4%	9.1%	9.1%	-	9.1%
		三豊市	12	5	-	-	-	3	1	2	-	1	-	-	-
			-	41.7%	-	-	-	25.0%	8.3%	16.7%	-	8.3%	-	-	-

令和６年度調査

【表の見方】
上段＝回答数(人)
下段＝比率(%)

		全体	(1) 在宅酸素療法指導管理料	(2) 在宅中心静脈栄養法指導管理料	(3) 在宅成分栄養経管栄養法指導管理料	(4) 在宅小児経管栄養法指導管理料	(5) 在宅自己導尿指導管理料	(6) 在宅人工呼吸指導管理料	(7) 在宅持続膀胱圧呼吸療法指導管理料	(8) 在宅寝たきり患者処置指導管理料	(9) 在宅気管切開患者指導管理料	(10) 在宅自己腹膜灌流指導管理料	(11) 在宅肺高血圧症患者指導管理料	(12) 在宅患者訪問診療料
全体		355	80	1	3	43	73	43	72	29	13	8	-	21
		100.0	22.5	0.3	0.8	12.1	20.6	12.1	20.3	8.2	3.7	2.3	-	5.9
障害福祉圏域別	大川圏域	11	1	1	-	-	2	-	5	-	-	-	-	2
		100.0	9.1	9.1	-	-	18.2	-	45.5	-	-	-	-	18.2
	さぬき市	8	1	1	-	-	2	-	2	-	-	-	-	2
		100.0	12.5	12.5	-	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	25.0
	東かがわ市	3	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	小豆圏域	12	2	-	-	-	3	1	3	2	-	1	-	2
		100.0	16.7	-	-	-	25.0	8.3	25.0	16.7	-	8.3	-	16.7
	小豆島町	12	2	-	-	-	3	1	3	2	-	1	-	2
		100.0	16.7	-	-	-	25.0	8.3	25.0	16.7	-	8.3	-	16.7
	土庄町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	高松圏域	120	24	-	3	21	29	11	8	18	9	5	-	10
		100.0	20.0	-	2.5	17.5	24.2	9.2	6.7	15.0	7.5	4.2	-	8.3
	高松市	71	12	-	2	4	18	10	8	9	3	5	-	10
		100.0	16.9	-	2.8	5.6	25.4	14.1	11.3	12.7	4.2	7.0	-	14.1
	三木町	49	12	-	1	17	11	1	-	9	6	-	-	-
		100.0	24.5	-	2.0	34.7	22.4	2.0	-	18.4	12.2	-	-	-
	直島町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中讃東圏域	47	1	-	-	1	3	2	37	2	-	2	-	4
		100.0	2.1	-	-	2.1	6.4	4.3	78.7	4.3	-	4.3	-	8.5
	坂出市	21	1	-	-	1	2	2	16	-	-	-	-	4
		100.0	4.8	-	-	4.8	9.5	9.5	76.2	-	-	-	-	19.0
	宇多津町	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-
		100.0	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	66.7	-	-
	綾川町	23	-	-	-	-	1	-	20	2	-	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	4.3	-	87.0	8.7	-	-	-	-
	中讃西圏域	158	51	-	-	21	35	29	15	6	4	-	-	3
		100.0	32.3	-	-	13.3	22.2	18.4	9.5	3.8	2.5	-	-	1.9
	丸亀市	24	1	-	-	-	6	-	13	1	1	-	-	3
		100.0	4.2	-	-	-	25.0	-	54.2	4.2	4.2	-	-	12.5
	善通寺市	134	50	-	-	21	29	29	2	5	3	-	-	-
		100.0	37.3	-	-	15.7	21.6	21.6	1.5	3.7	2.2	-	-	-
	琴平町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	多度津町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	まんのう町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	三観圏域	7	1	-	-	-	1	-	4	1	-	-	-	-
		100.0	14.3	-	-	-	14.3	-	57.1	14.3	-	-	-	-
	観音寺市	5	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
		100.0	20.0	-	-	-	-	-	80.0	-	-	-	-	-
	三豊市	2	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-

参考:平成 30 年度調査

児童（0～18歳） 【表の見方】 上段=回答数（人） 下段=比率		全体	※在宅療養指導料											
			①在宅酸素療法指導管理料	②在宅中心静脈栄養法指導管理料	③在宅成分栄養経腸栄養法指導管理料	④在宅小児経管栄養法指導管理料	⑤在宅自己導尿管理料	⑥在宅人工呼吸管理料	⑦在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料	⑧在宅寝たきり患者処置指導管理料	⑨在宅気管切開患者指導管理料	⑩在宅自己腹膜灌流指導管理料	⑪在宅肺高血圧症患者指導管理料	⑫在宅患者訪問診療料
全体		140	64	-	4	46	22	17	1	9	17	1	-	3
		-	45.7%	-	2.9%	32.9%	15.7%	12.1%	0.7%	6.4%	12.1%	0.7%	-	2.1%
障害福祉圏域別	大川圏域	10	4	-	-	3	2	-	-	-	1	-	-	-
		-	40.0%	-	-	30.0%	20.0%	-	-	-	10.0%	-	-	-
	さぬき市	7	2	-	-	2	2	-	-	-	1	-	-	-
		-	28.6%	-	-	28.6%	28.6%	-	-	-	14.3%	-	-	-
	東かがわ市	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	66.7%	-	-	33.3%	-	-	-	-	-	-	-	-
	小豆圏域	4	3	-	-	1	1	2	1	-	2	-	-	-
		-	75.0%	-	-	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	-	50.0%	-	-	-
	小豆島町	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	土庄町	2	1	-	-	1	1	2	1	-	2	-	-	-
		-	50.0%	-	-	50.0%	50.0%	100.0%	1	-	100.0%	-	-	-
	高松圏域	69	33	-	2	27	9	9	-	4	9	-	-	2
		-	47.8%	-	2.9%	39.1%	13.0%	13.0%	-	5.8%	13.0%	-	-	2.9%
	高松市	65	32	-	2	24	9	9	-	3	9	-	-	2
		-	49.2%	-	3.1%	36.9%	13.8%	13.8%	-	4.6%	13.8%	-	-	3.1%
	三木町	4	1	-	-	3	-	-	-	1	0	-	-	-
		-	25.0%	-	-	75.0%	-	-	-	25.0%	0.0%	-	-	-
	直島町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中讃東圏域	11	6	-	-	3	1	1	-	1	2	-	-	1
		-	54.5%	-	-	27.3%	9.1%	9.1%	-	9.1%	18.2%	-	-	9.1%
	坂出市	4	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
		-	75.0%	-	-	-	25.0%	-	-	-	-	-	-	25.0%
	宇多津町	3	1	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-
		-	33.3%	-	-	33.3%	-	-	-	33.3%	33.3%	-	-	-
	綾川町	4	2	-	-	2	-	1	-	-	1	-	-	-
		-	50.0%	-	-	50.0%	-	25.0%	-	-	25.0%	-	-	-
	中讃西圏域	33	11	-	2	10	6	5	-	2	1	1	-	-
		-	33.3%	-	6.1%	30.3%	18.2%	15.2%	-	6.1%	3.0%	3.0%	-	-
	丸亀市	16	4	-	1	8	2	2	-	2	-	-	-	-
		-	25.0%	-	6.3%	50.0%	12.5%	12.5%	-	12.5%	-	-	-	-
	善通寺市	11	4	-	1	1	4	2	-	-	-	1	-	-
		-	36.4%	-	9.1%	9.1%	36.4%	18.2%	-	-	-	9.1%	-	-
	琴平町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	多度津町	4	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
		-	50.0%	-	-	25.0%	-	-	-	-	25.0%	-	-	-
	まんのう町	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
		-	50.0%	-	-	-	-	50.0%	-	-	-	-	-	-
	三観圏域	13	7	-	-	2	3	-	-	2	2	-	-	-
		-	53.8%	-	-	15.4%	23.1%	-	-	15.4%	15.4%	-	-	-
	観音寺市	5	2	-	-	2	1	-	-	2	1	-	-	-
		-	40.0%	-	-	40.0%	20.0%	-	-	40.0%	20.0%	-	-	-
	三豊市	8	5	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-
		-	62.5%	-	-	-	25.0%	-	-	-	12.5%	-	-	-

令和６年度調査

成人（19～39歳） 【表の見方】 上段=回答数（人） 下段=比率			全体	※在宅療養指導料											
				①在宅酸素療法指導管理料	②在宅中心静脈栄養法指導管理料	③在宅成分栄養経管栄養法指導管理料	④在宅小児経管栄養法指導管理料	⑤在宅自己尿管理指導料	⑥在宅人工呼吸器管理指導料	⑦在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料	⑧在宅寝たきり患者処置指導管理料	⑨在宅気管切開患者指導管理料	⑩在宅自己膜灌流指導管理料	⑪在宅肺高血圧症患者指導管理料	⑫在宅患者訪問診療料
全体			150 -	23 15.3%	2 1.3%	1 0.7%	1 0.7%	45 30.0%	11 7.3%	27 18.0%	27 18.0%	8 5.3%	6 4.0%	2 1.3%	14 9.3%
障害福祉圏域別	大川圏域		10 -	- -	- -	1 10.0%	- -	3 30.0%	- -	2 20.0%	1 10.0%	- -	- -	- -	3 30.0%
		さぬき市	5 -	- -	- -	- -	- -	2 40.0%	- -	1 20.0%	1 20.0%	- -	- -	- -	1 20.0%
		東かがわ市	5 -	- -	- -	1 20.0%	- -	1 20.0%	- -	1 20.0%	- -	- -	- -	- -	2 40.0%
	小豆圏域		6 -	2 33.3%	- -	- -	- -	2 33.3%	- -	1 16.7%	- -	- -	- -	- -	1 16.7%
		小豆島町	3 -	1 33.3%	- -	- -	- -	- -	- -	1 33.3%	- -	- -	- -	- -	1 33.3%
		土庄町	3 -	1 33.3%	- -	- -	- -	2 66.7%	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	高松圏域		76 -	13 17.1%	1 1.3%	- -	1 1.3%	18 23.7%	5 6.6%	19 25.0%	17 22.4%	6 7.9%	5 6.6%	- -	3 3.9%
		高松市	71 -	13 18.3%	1 1.4%	- -	1 1.4%	17 23.9%	5 7.0%	17 23.9%	16 22.5%	5 7.0%	5 7.0%	- -	2 2.8%
		三木町	5 -	- -	- -	- -	- -	1 20.0%	- -	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	- -	- -	1 20.0%
		直島町	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	中讃東圏域		13 -	2 15.4%	1 7.7%	- -	- -	2 15.4%	1 7.7%	1 7.7%	2 15.4%	- -	- -	1 7.7%	4 30.8%
		坂出市	5 -	1 20.0%	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 20.0%	- -	- -	1 20.0%	2 40.0%
		宇多津町	2 -	- -	1 50.0%	- -	- -	1 50.0%	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 50.0%
		綾川町	6 -	1 16.7%	- -	- -	- -	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	1 16.7%	- -	- -	- -	1 16.7%
	中讃西圏域		35 -	6 17.1%	- -	- -	- -	16 45.7%	3 8.6%	2 5.7%	5 14.3%	2 5.7%	- -	1 2.9%	2 5.7%
		丸亀市	23 -	4 17.4%	- -	- -	- -	11 47.8%	2 8.7%	1 4.3%	4 17.4%	- -	- -	- -	1 4.3%
		善通寺市	8 -	1 12.5%	- -	- -	- -	4 50.0%	1 12.5%	1 12.5%	- -	1 12.5%	- -	- -	1 12.5%
		琴平町	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
		多度津町	3 -	1 33.3%	- -	- -	- -	1 33.3%	- -	- -	1 33.3%	- -	- -	1 33.3%	- -
		まんのう町	1 -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0%	- -	- -	- -
	三観圏域		10 -	- -	- -	- -	- -	4 40.0%	2 20.0%	2 20.0%	2 20.0%	- -	1 10.0%	- -	1 10.0%
		観音寺市	6 -	- -	- -	- -	- -	3 50.0%	1 16.7%	- -	2 33.3%	- -	1 16.7%	- -	1 16.7%
		三豊市	4 -	- -	- -	- -	- -	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	- -	- -	- -	- -	- -

令和６年度調査

第３章

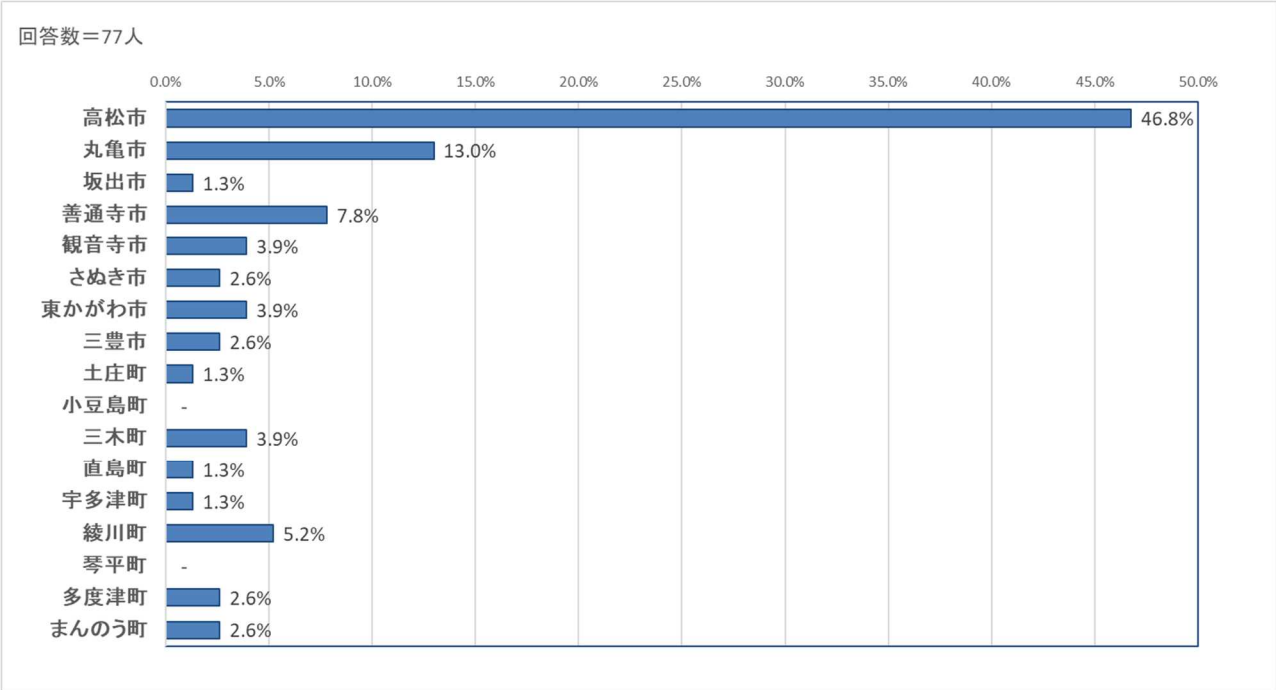
『医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査』の結果

第3章 『医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査』の結果

１．医療的ケアを必要とするご本人

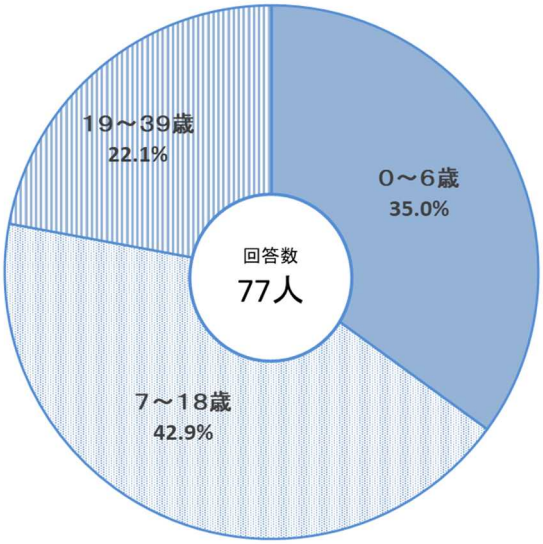
（１）本人のこと

①居住地

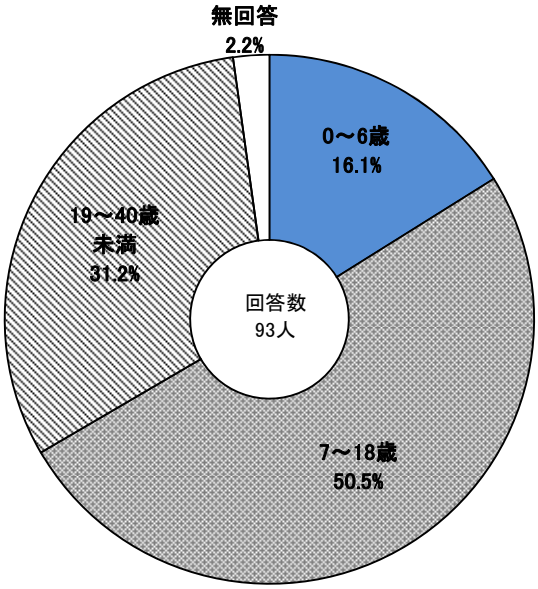


令和６年度調査

②年齢

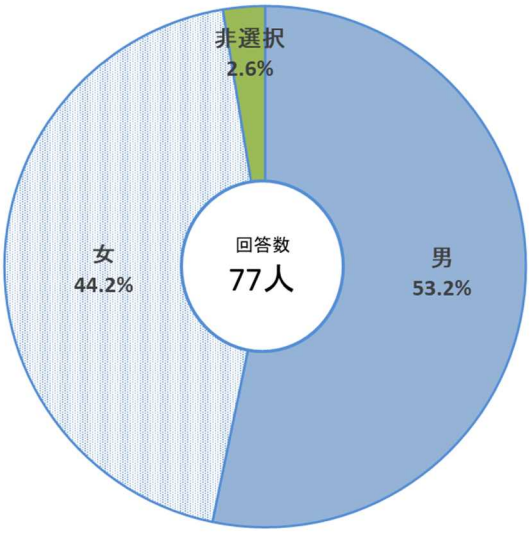


令和６年度調査

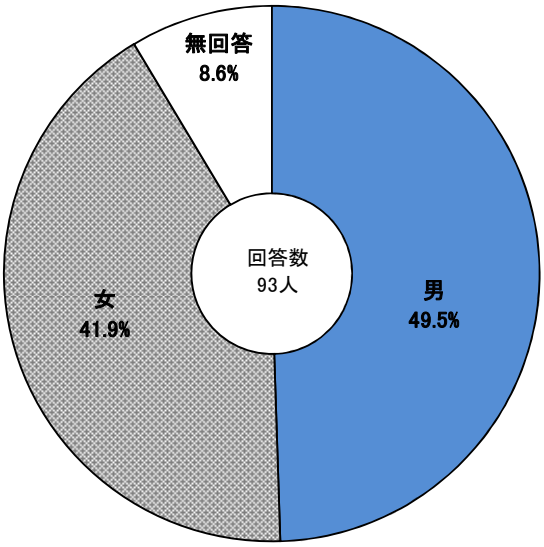


参考:平成 30 年度調査

③性別



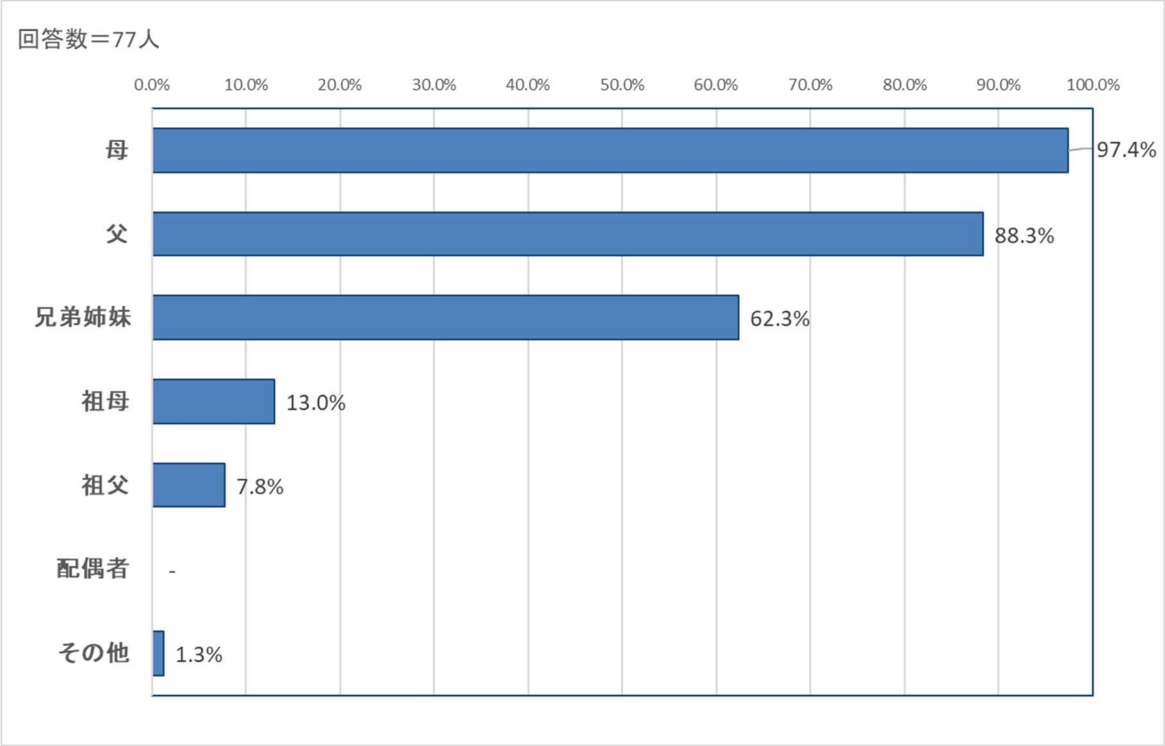
令和６年度調査



参考:平成 30 年度調査

年齢について、「0～6 歳」が 35.0%、「7～18 歳」が 42.9%、「19～39 歳」が 22.1%となっている。性別について、「男」が 53.2%、「女」が 44.2%となっている。

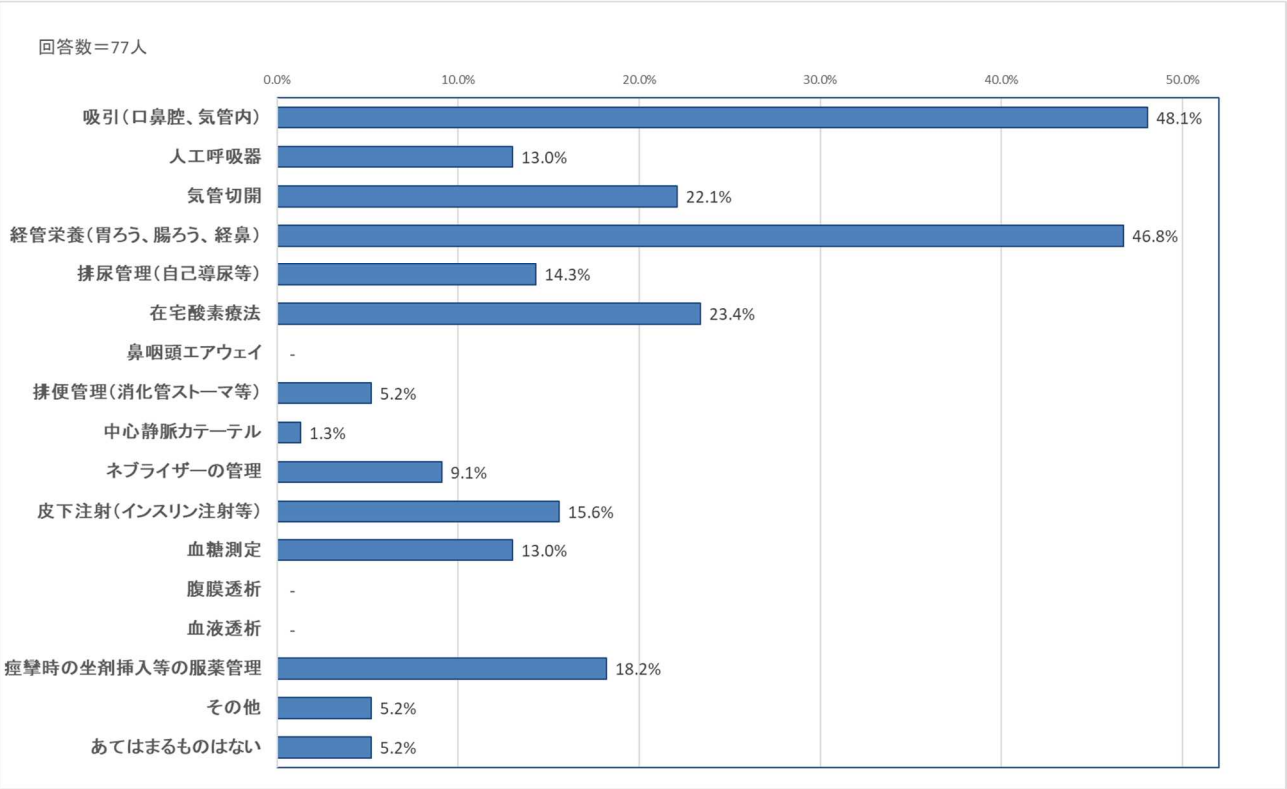
④同居家族



令和６年度調査

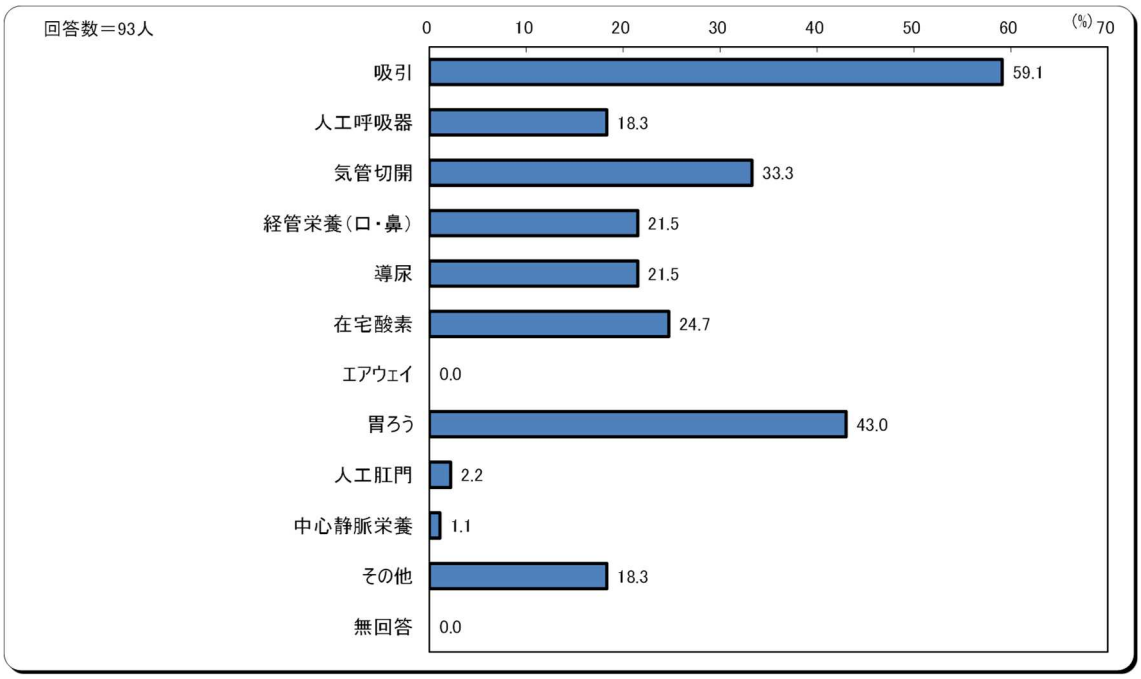
同居家族について、「母」が 97.4%と最も多く、次いで「父」が 88.3%、「兄弟姉妹」が 62.3%となっている。

（２）現在行っている医療的ケア（複数回答）



令和６年度調査

現在行っている医療的ケアについて、「吸引」が 48.1％と最も多く、次いで「経管栄養」が 46.8％、「在宅酸素療法」が 23.4％、「気管切開」が 22.1％となっている。



参考：平成 30 年度調査

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	吸引(口鼻腔、気管内)	人工呼吸器	気管切開	経管栄養(胃ろう、腸ろう、経鼻経管)	排尿管理(自己導尿等)	在宅酸素療法	鼻咽頭エアウェイ	排便管理(消化管ストーマ等)	中心静脈カテーテル	ネブライザーの管理	皮下注射(インスリン注射等)	血糖測定	腹膜透析	血液透析	痙攣時の坐剤挿入等の服薬管理	その他	あてはまるものはない
全体		77	37	10	17	36	11	18	-	4	1	7	12	10	-	-	14	4	4
		-	48.1%	13.0%	22.1%	46.8%	14.3%	23.4%	-	5.2%	1.3%	9.1%	15.6%	13.0%	-	-	18.2%	5.2%	5.2%
全体	0～6歳	27	11	4	6	11	4	8	-	2	-	4	4	3	-	-	4	1	2
		-	40.7%	14.8%	22.2%	40.7%	14.8%	29.6%	-	7.4%	-	14.8%	14.8%	11.1%	-	-	14.8%	3.7%	7.4%
	7～18歳	33	15	3	5	16	5	7	-	1	-	2	7	6	-	-	8	3	1
		-	45.5%	9.1%	15.2%	48.5%	15.2%	21.2%	-	3.0%	-	6.1%	21.2%	18.2%	-	-	24.2%	9.1%	3.0%
	19～39歳	17	11	3	6	9	2	3	-	1	1	1	1	1	-	-	2	-	1
		-	64.7%	17.6%	35.3%	52.9%	11.8%	17.6%	-	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	-	-	11.8%	-	5.9%

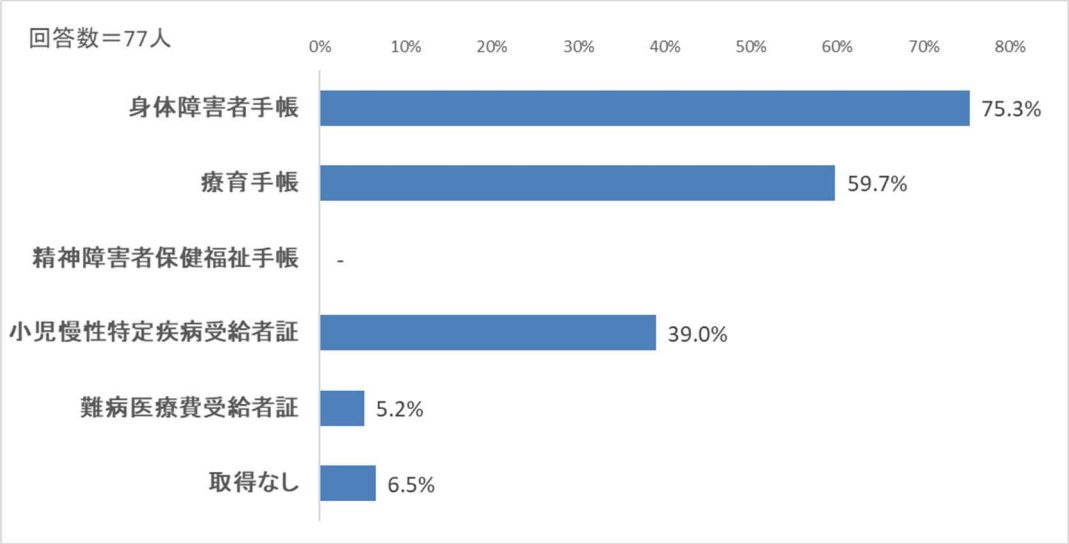
令和６年度調査

年齢別にみると、【0～6 歳】では「吸引」「経管栄養」がともに 40.7%と最も多く、次いで「在宅酸素」が 29.6%となっている。【7～18 歳】では「経管栄養」が 48.5%と最も多く、次いで「吸引」が 45.5%、「痙攣時の座薬挿入等の服薬管理」が 24.2%となっている。【19～39 歳】では「吸引」が 64.7%と最も多く、次いで「経管栄養」が 52.9%、「気管切開」が 35.3%となっている。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 吸引	(2) 人工呼吸器	(3) 気管切開	(4) 経管栄養（口・鼻）	(5) 導尿	(6) 在宅酸素	(7) エアウェイ	(8) 胃ろう	(9) 人工肛門	(10) 中心静脈栄養	(11) その他	無回答
全体		93	55	17	31	20	20	23	－	40	2	1	17	－
		100.0	59.1	18.3	33.3	21.5	21.5	24.7	－	43.0	2.2	1.1	18.3	－
年齢別	0～6歳	15	11	4	9	7	1	9	－	7	1	1	3	－
		100.0	73.3	26.7	60.0	46.7	6.7	60.0	－	46.7	6.7	6.7	20.0	－
	7～18歳	47	23	5	12	9	11	6	－	20	1	－	10	－
		100.0	48.9	10.6	25.5	19.1	23.4	12.8	－	42.6	2.1	－	21.3	－
	19～40歳未満	29	21	8	10	4	7	8	－	13	－	－	3	－
		100.0	72.4	27.6	34.5	13.8	24.1	27.6	－	44.8	－	－	10.3	－

参考:平成 30 年度調査

（３）本人が所持している障害者手帳等（複数回答）



①身体障害者手帳

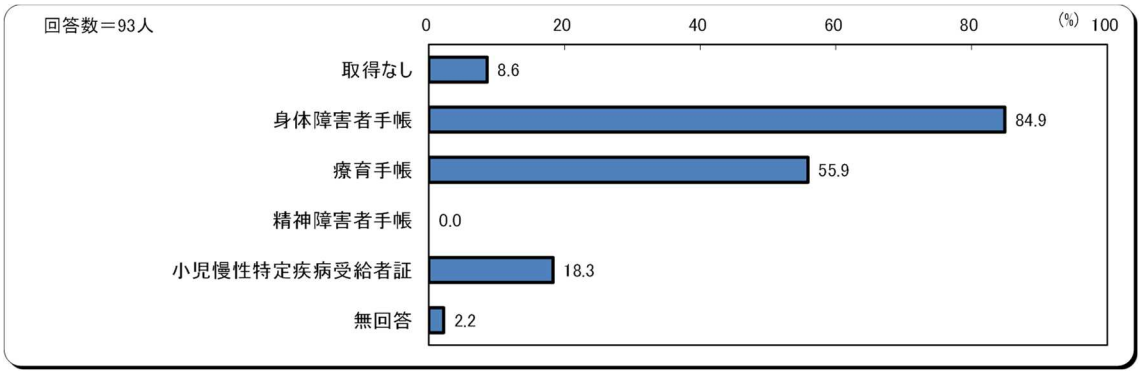
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	1級	2級	3級	4級	5級	6級
全体		58	49	4	2	1	-	2
		100.0%	84.5%	7.0%	3.4%	1.7%	-	3.4%
年齢別	0～6歳	18	14	2	2	-	-	-
		100.0%	77.8%	11.1%	11.1%	-	-	-
	7～18歳	24	22	1	-	-	-	1
		100.0%	91.6%	4.2%	-	-	-	4.2%
	19～39歳	16	13	1	-	1	-	1
		100.0%	81.1%	6.3%	-	6.3%	-	6.3%

②療育手帳

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	マルA	A	マルB	B
全体		46	30	10	1	5
		100.0%	65.2%	21.7%	2.2%	10.9%
年齢別	0～6歳	11	4	6	-	1
		100.0%	36.4%	54.5%	-	9.1%
	7～18歳	23	16	4	1	2
		100.0%	69.6%	17.4%	4.3%	8.7%
	19～39歳	12	10	-	-	2
		100.0%	83.3%	-	-	16.7%

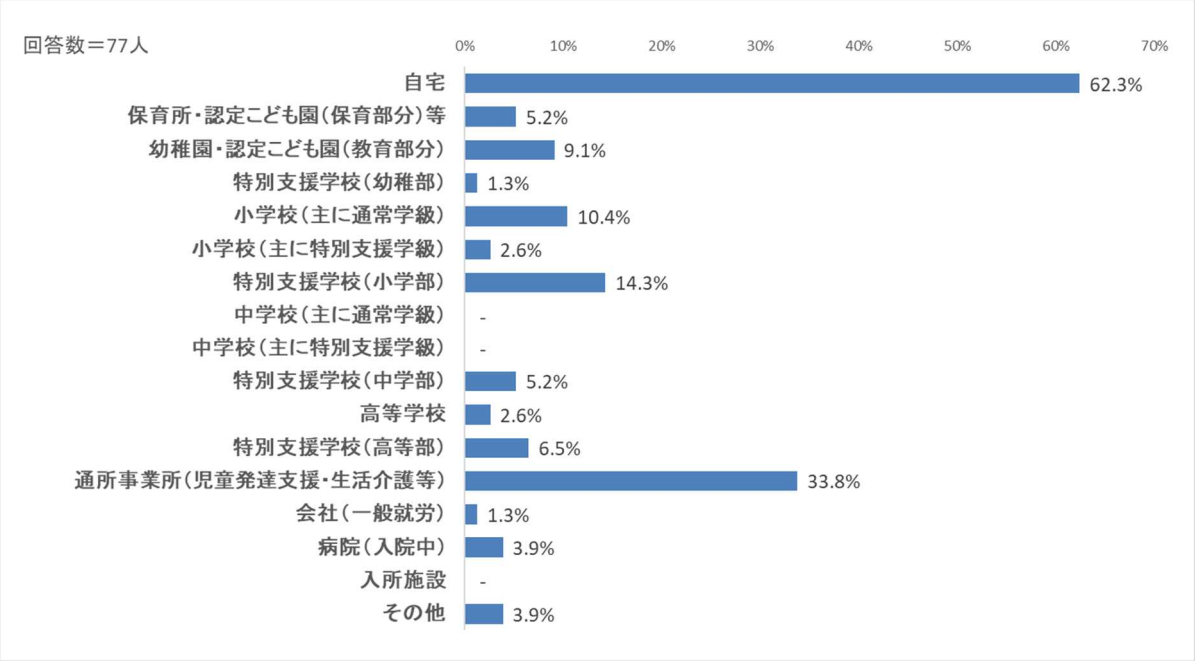
令和６年度調査

本人が所持している障害者手帳等について、「身体障害者手帳」が 75.3%と最も多く、次いで「療育手帳」が 59.7%、「小児慢性特定疾病受給者証」が 39.0%となっている。また、「身体障害者手帳」では「1 級」が 84.5%と最も多く、「療育手帳」では「マルＡ」が 65.2%と最も多くなっている。



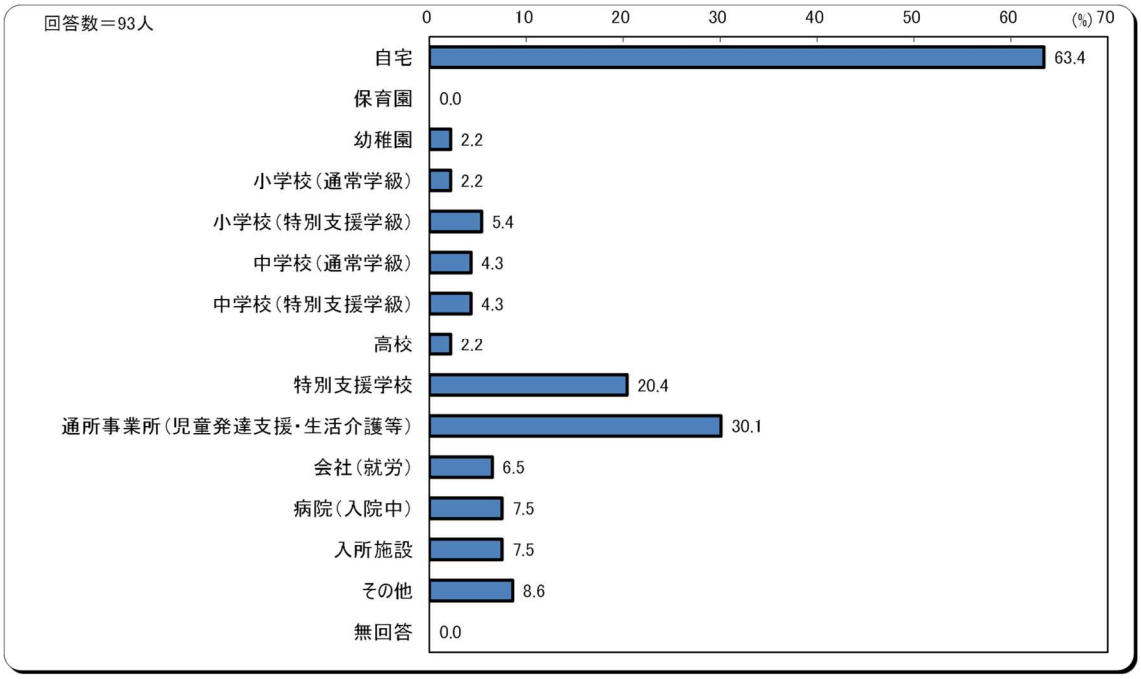
参考:平成 30 年度調査

（４）本人の主な日中の居場所（複数回答）



令和６年度調査

本人の主な日中の居場所については、「自宅」が 62.3%と最も多く、次いで「通所事業所（児童発達支援・生活介護等）」が 33.8%、「特別支援学校」が 14.3%となっている。



参考：平成 30 年度調査

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	自宅	保育所・認定こども園（保育部分）等	幼稚園・認定こども園（教育部分）	特別支援学校（幼稚部）	小学校（主に通常学級）	小学校（主に特別支援学級）	特別支援学校（小学部）	中学校（主に通常学級）	中学校（主に特別支援学級）	特別支援学校（中学部）	高等学校	特別支援学校（高等部）	通所事業所（児童発達支援・生活介護等）	会社（一般就労）	病院（入院中）	入所施設	その他
全体		77	48	4	7	1	8	2	11	-	-	4	2	5	26	1	3	-	3
		-	62.3%	5.2%	9.1%	1.3%	10.4%	2.6%	14.3%	-	-	5.2%	2.6%	6.5%	33.8%	1.3%	3.9%	-	3.9%
年齢別	0～6歳	27	21	4	7	-	3	1	-	-	-	-	-	-	12	-	2	-	1
		-	77.8%	14.8%	25.9%	-	11.1%	3.7%	-	-	-	-	-	-	44.4%	-	7.4%	-	3.7%
	7～18歳	33	16	-	-	1	5	1	11	-	-	4	2	5	3	-	-	-	1
		-	48.5%	-	-	3.0%	15.2%	3.0%	33.3%	-	-	12.1%	6.1%	15.2%	9.1%	-	-	-	3.0%
	19～39歳	17	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	1	1	-	1
		-	64.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	64.7%	5.9%	5.9%	-	5.9%

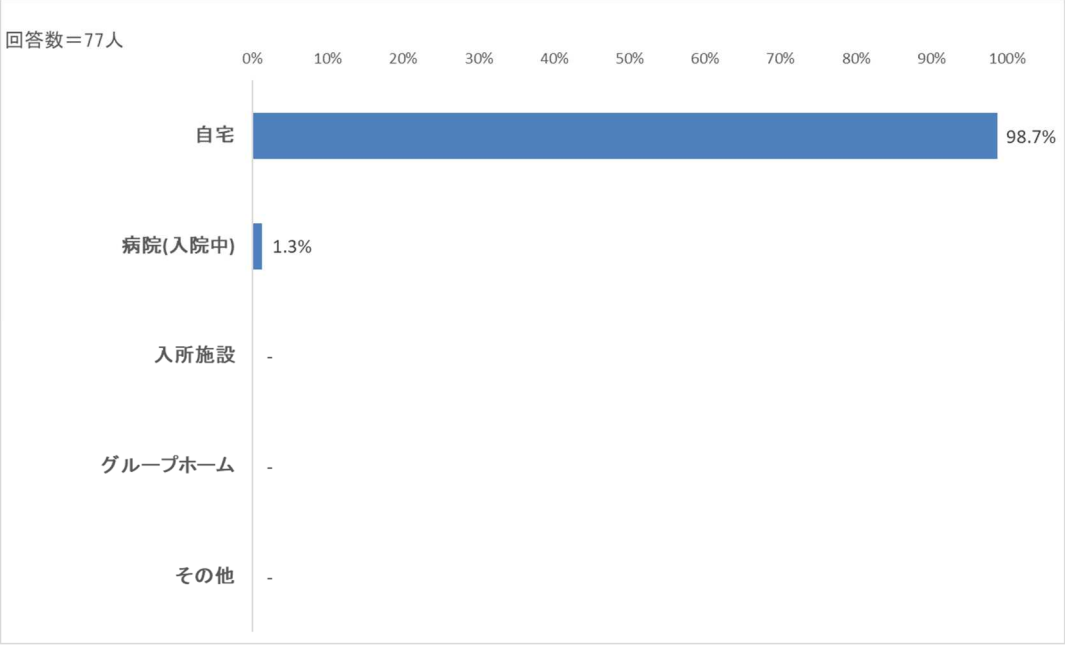
令和６年度調査

年齢別にみると、【0～6 歳】は「自宅」が 77.8%と最も多く、次いで「通所事業所（児童発達支援・生活介護等）」が 44.4%となっている。【7～18 歳】は「自宅」が 48.5%と最も多く、次いで「特別支援学校」が 33.3%となっている。、【19～39 歳】は「自宅」「通所事業所（児童発達支援・生活介護等）」がともに 64.7%と最も多くなっている。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 自宅	(2) 保育園	(3) 幼稚園	(4) 小学校（通常学級）	(5) 小学校（特別支援学級）	(6) 中学校（通常学級）	(7) 中学校（特別支援学級）	(8) 高校	(9) 特別支援学校	(10) 通所事業所（児童発達支援・生活介護等）	(11) 会社（就労）	(12) 病院（入院中）	(13) 入所施設	(14) その他	無回答
全体		93	59	－	2	2	5	4	4	2	19	28	6	7	7	8	－
		100.0	63.4	－	2.2	2.2	5.4	4.3	4.3	2.2	20.4	30.1	6.5	7.5	7.5	8.6	－
年齢別	0～6歳	15	12	－	2	－	－	－	－	－	1	5	－	1	1	2	－
		100.0	80.0	－	13.3	－	－	－	－	－	6.7	33.3	－	6.7	6.7	13.3	－
	7～18歳	47	25	－	－	2	5	4	4	2	18	5	－	6	4	5	－
		100.0	53.2	－	－	4.3	10.6	8.5	8.5	4.3	38.3	10.6	－	12.8	8.5	10.6	－
	19～40歳未満	29	22	－	－	－	－	－	－	－	－	17	5	－	2	1	－
		100.0	75.9	－	－	－	－	－	－	－	－	58.6	17.2	－	6.9	3.4	－

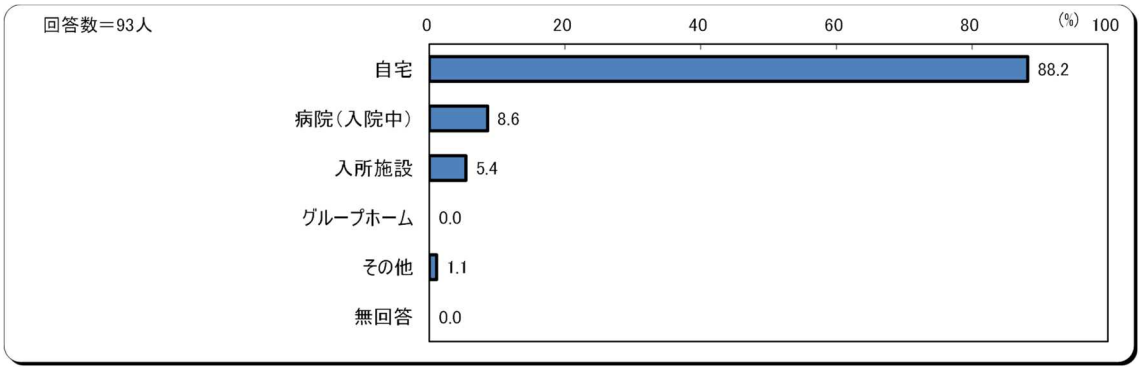
参考：平成 30 年度調査

（５）本人が夜間に過ごす場所



令和６年度調査

本人が夜間に過ごす場所について、「自宅」が 98.7%と最も多く、次いで「病院（入院中）」が 1.3%となっている。



参考:平成 30 年度調査

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	自宅	病院(入院中)	入所施設	グループホーム	その他
全体		77	76	1	-	-	-
		100.0%	98.7%	1.3%	-	-	-
年齢別	0～6歳	27	26	1	-	-	-
		100.0%	96.3%	3.7%	-	-	-
	7～18歳	33	33	-	-	-	-
		100.0%	100.0%	-	-	-	-
	19～39歳	17	17	-	-	-	-
		100.0%	100.0%	-	-	-	-

令和６年度調査

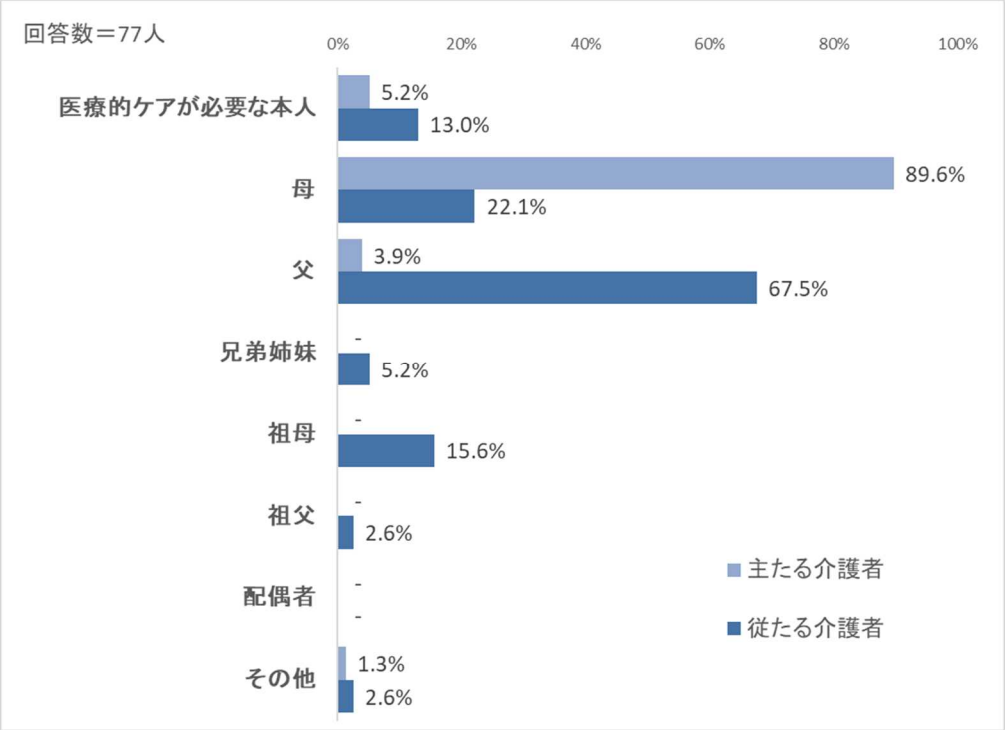
年齢別にみても、「自宅」が【0～6 歳】では 96.3%、【7～18 歳】では 100%、【19～39 歳】では 100%と最も多くなっている。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 自宅	(2) 病院（入院中）	(3) 入所施設	(4) グループホーム	(5) その他	無回答
全体		93	82	8	5	－	1	－
		100.0	88.2	8.6	5.4	－	1.1	－
年齢別	0～6歳	15	13	1	－	－	1	－
		100.0	86.7	6.7	－	－	6.7	－
	7～18歳	47	39	7	3	－	－	－
		100.0	83.0	14.9	6.4	－	－	－
	19～40歳未満	29	28	－	2	－	－	－
		100.0	96.6	－	6.9	－	－	－

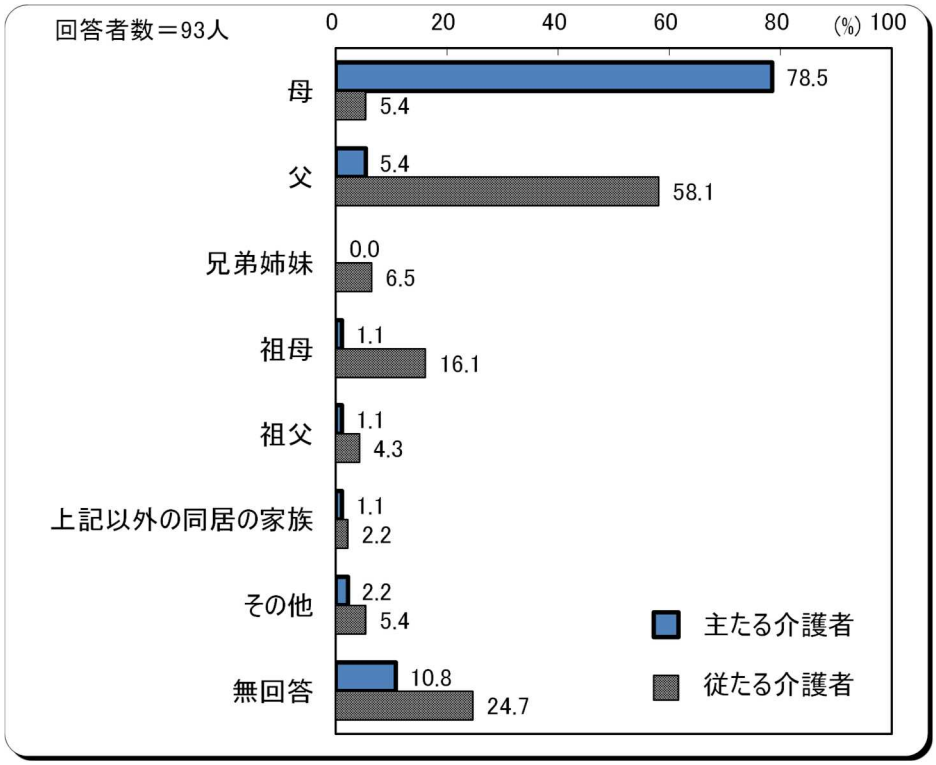
参考:平成 30 年度調査

２．医療的ケアを行う方

（６）自宅で医療的ケアを行う方（従たる介護者は複数回答）



令和６年度調査



参考:平成 30 年度調査

①主たる介護者

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		主たる介護者（自宅で主に介護・医療的ケアを実施している方）								
		全体	医療的ケアが必要な本人	母	父	兄弟姉妹	祖母	祖父	配偶者	その他
全体		77	4	69	3	-	-	-	-	1
		100.0%	5.2%	89.6%	3.9%	-	-	-	-	1.3%
年齢別	0～6歳	27	-	24	3	-	-	-	-	-
		100.0%	-	88.9%	11.1%	-	-	-	-	-
	7～18歳	33	3	30	-	-	-	-	-	-
		100.0%	9.1%	90.9%	-	-	-	-	-	-
	19～39歳	17	1	15	-	-	-	-	-	1
		100.0%	5.9%	88.2%	-	-	-	-	-	5.9%

令和６年度調査

「主たる介護者（自宅で主に介護・医療的ケアを実施している方）」は、「母」が 89.6%と最も多い。年齢別にみると、「母」が【0～6 歳】では 88.9%、【7～18 歳】では 90.9%、【19～39 歳】では 88.2%となっている。

②従たる介護者（複数回答）

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		従たる介護者（主たる介護者の他に、介護・医療的ケアを実施している方）								
		全体	医療的ケアが必要な本人	母	父	兄弟姉妹	祖母	祖父	配偶者	その他
全体		77	10	17	52	4	12	2	-	2
		-	13.0%	22.1%	67.5%	5.2%	15.6%	2.6%	-	2.6%
年齢別	0～6歳	27	-	4	23	-	7	2	-	1
		-	-	14.8%	85.2%	-	25.9%	7.4%	-	3.7%
	7～18歳	33	7	9	15	2	5	-	-	1
		-	21.2%	27.3%	45.5%	6.1%	15.2%	-	-	3.0%
	19～39歳	17	3	4	14	2	-	-	-	-
		-	17.6%	23.5%	82.4%	11.8%	-	-	-	-

令和６年度調査

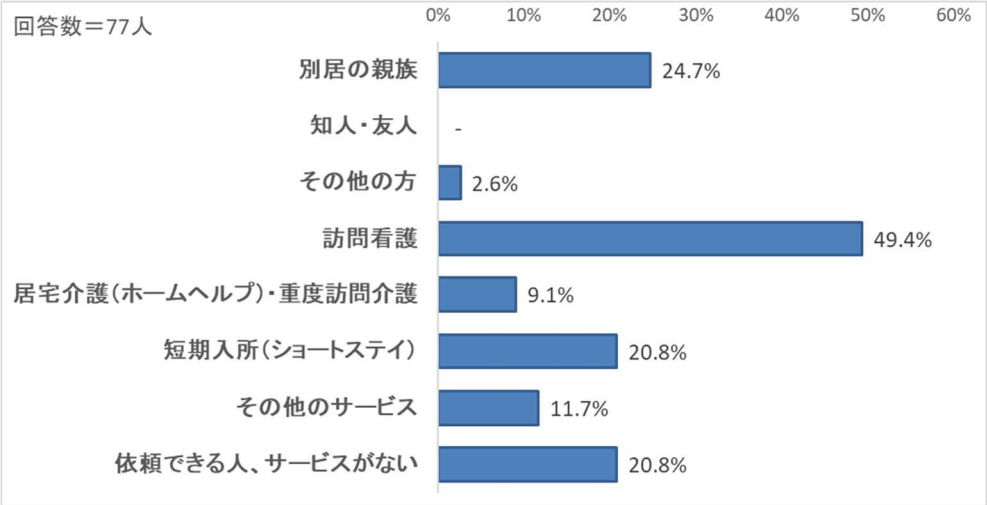
「従たる介護者（主たる介護者の他に、介護・医療的ケアを実施している方）」は、「父」が 67.5%と最も多く、次いで「母」が 22.1%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「父」が 85.2%と最も多く、次いで「祖母」が 25.9%となっている。【7～18 歳】では「父」が 45.5%と最も多く、次いで「母」が 27.3%となっている。【19～39 歳】では「父」が 82.4%と最も多く、次いで「母」が 23.5%となっている。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		①「主たる介護者」である方									②「従たる介護者」である方								
		全体	(1) 母	(2) 父	(3) 兄弟姉妹	(4) 祖母	(5) 祖父	(6) 上記以外の同居の家族	(7) その他	無回答	全体	(1) 母	(2) 父	(3) 兄弟姉妹	(4) 祖母	(5) 祖父	(6) 上記以外の同居の家族	(7) その他	無回答
全体		93	73	5	－	1	1	1	2	10	93	5	54	6	15	4	2	5	23
		100.0	78.5	5.4	－	1.1	1.1	1.1	2.2	10.8	100.0	5.4	58.1	6.5	16.1	4.3	2.2	5.4	24.7
年齢別	0～6歳	15	14	－	－	1	－	－	－	－	15	－	12	－	5	2	1	1	1
		100.0	93.3	－	－	6.7	－	－	－	－	100.0	－	80.0	－	33.3	13.3	6.7	6.7	6.7
	7～18歳	47	39	3	－	－	－	－	－	5	47	2	27	4	9	1	1	1	12
		100.0	83.0	6.4	－	－	－	－	－	10.6	100.0	4.3	57.4	8.5	19.1	2.1	2.1	2.1	25.5
	19～40歳未満	29	19	2	－	－	1	1	1	5	29	3	15	2	1	1	－	2	9
		100.0	65.5	6.9	－	－	3.4	3.4	3.4	17.2	100.0	10.3	51.7	6.9	3.4	3.4	－	6.9	31.0

参考:平成 30 年度調査

③介護・医療的ケアを依頼している方、サービス（複数回答）



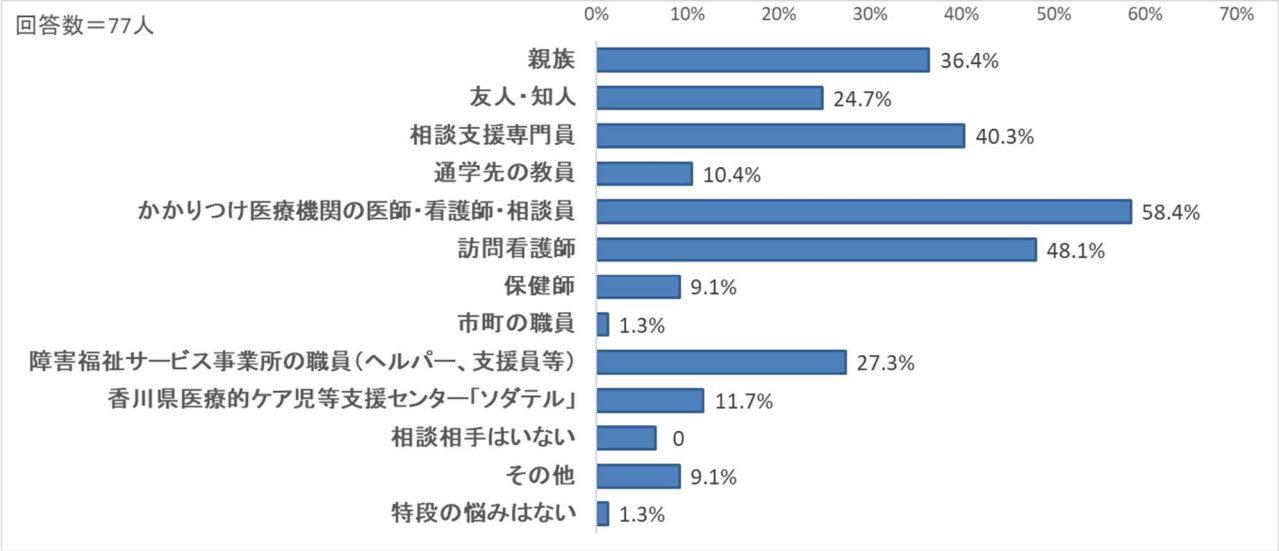
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	別居の親族	知人・友人	その他の方	訪問看護	居宅介護（ホームヘルプ）	短期入所（ショートステイ）	その他のサービス	依頼できる人、サービスがない
全体		77	19	-	2	38	7	16	9	16
		-	24.7%	-	2.6%	49.4%	9.1%	20.8%	11.7%	20.8%
年齢別	0～6歳	27	11	-	1	14	-	2	4	5
		-	40.7%	-	3.7%	51.9%	-	7.4%	14.8%	18.5%
	7～18歳	33	8	-	1	12	2	6	4	9
		-	24.2%	-	3.0%	36.4%	6.1%	18.2%	12.1%	27.3%
	19～39歳	17	-	-	-	12	5	8	1	2
		-	-	-	-	70.6%	29.4%	47.1%	5.9%	11.8%

令和 6 年度調査

また、主たる介護者、従たる介護者が何らかの理由で介護・医療的ケアを実施できない時に依頼している人、利用しているサービスについては、「訪問看護」が 49.4%と最も高く、次いで「別居の親族」が 24.7%、「短期入所」「依頼できる人、サービスがない」が 20.8%となっている。

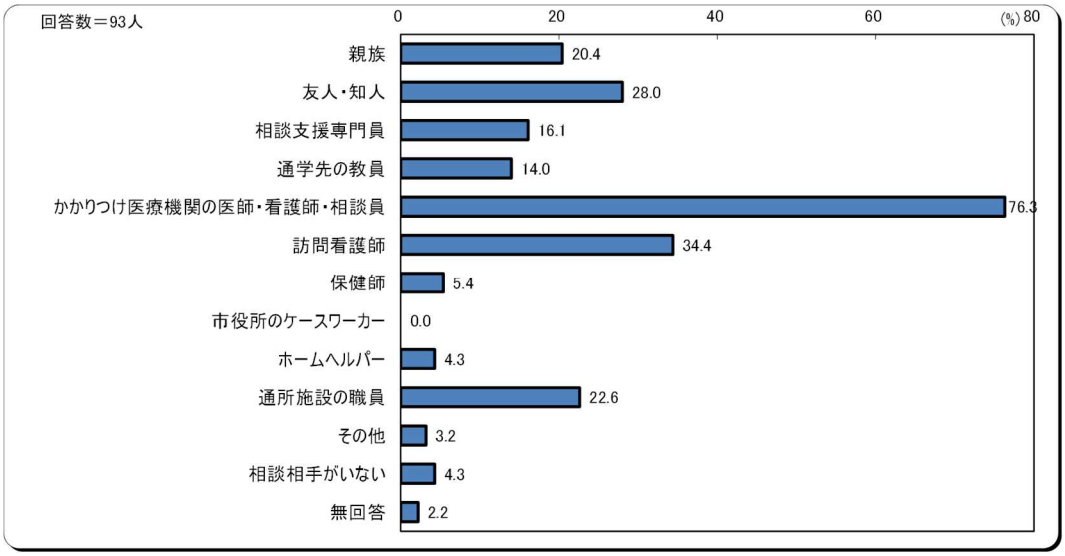
（７）主たる介護者の介護等負担の現状

①　医療的ケアについて相談できる家族以外の相手（複数回答）



令和６年度調査

医療的ケアについて相談できる家族以外の相手について、「かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員」（以下「かかりつけ医」という。）が 58.4%と最も多く、次いで「訪問看護師」が 48.1%、「相談支援専門員」が 40.3%、「親族」が 36.4%となっている。



参考：平成 30 年度調査

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	親族	友人・知人	相談支援専門員	通学先の教員	かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員	訪問看護師	保健師	市町の職員	障害福祉サービス事業所の職員（ヘルパー、支援員等）	香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」	相談相手はいない	その他	特段の悩みはない
全体		77	28	19	31	8	45	37	7	1	21	9	5	7	1
		-	36.4%	24.7%	40.3%	10.4%	58.4%	48.1%	9.1%	1.3%	27.3%	11.7%	0	9.1%	1.3%
年齢別	0～6歳	27	6	4	6	1	18	11	5	1	7	7	2	3	1
		-	22.2%	14.8%	22.2%	3.7%	66.7%	40.7%	18.5%	3.7%	25.9%	25.9%	0	11.1%	0
	7～18歳	33	16	10	15	7	17	13	1	0	6	-	2	4	-
		-	48.5%	30.3%	45.5%	21.2%	51.5%	39.4%	3.0%	0.0%	18.2%	-	0	12.1%	-
	19～39歳	17	6	5	10	-	10	13	1	0	8	2	1	0	0
		-	35.3%	29.4%	58.8%	-	58.8%	76.5%	0	0.0%	47.1%	0	0	0.0%	0.0%

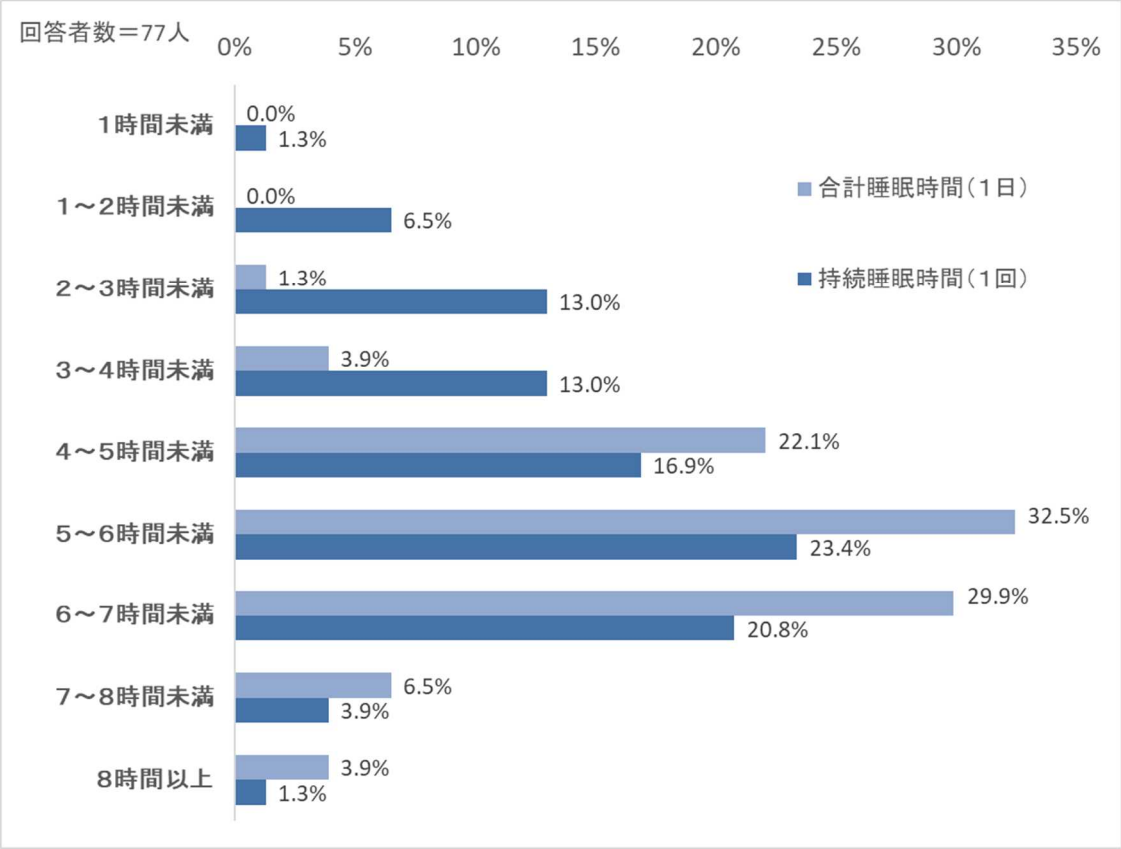
令和６年度調査

年齢別にみると、【0～6 歳】では「かかりつけ医」が 66.7%と最も多く、次いで「訪問看護師」が 40.7%となっている。【7～18 歳】では「かかりつけ医」が 51.5%と最も多く、次いで「親族」が 48.5%となっている。【19～39 歳】では「訪問看護師」が 76.5%と最も多く、次いで「相談支援専門員」と「かかりつけ医」が 58.8%となっている。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 親族	(2) 友人・知人	(3) 相談支援専門員	(4) 通学先の教員	(5) かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員	(6) 訪問看護師	(7) 保健師	(8) 市役所のケースワーカー	(9) ホームヘルパー	(10) 通所施設の職員	(11) その他	(12) 相談相手がいない	無回答
全体		93	19	26	15	13	71	32	5	－	4	21	3	4	2
		100.0	20.4	28.0	16.1	14.0	76.3	34.4	5.4	－	4.3	22.6	3.2	4.3	2.2
年齢別	0～6歳	15	3	6	3	1	12	10	2	－	－	3	2	1	－
		100.0	20.0	40.0	20.0	6.7	80.0	66.7	13.3	－	－	20.0	13.3	6.7	－
	7～18歳	47	12	11	6	12	34	9	2	－	2	6	1	2	1
		100.0	25.5	23.4	12.8	25.5	72.3	19.1	4.3	－	4.3	12.8	2.1	4.3	2.1
	19～40歳未満	29	3	9	5	－	23	13	1	－	2	11	－	1	1
		100.0	10.3	31.0	17.2	－	79.3	44.8	3.4	－	6.9	37.9	－	3.4	3.4

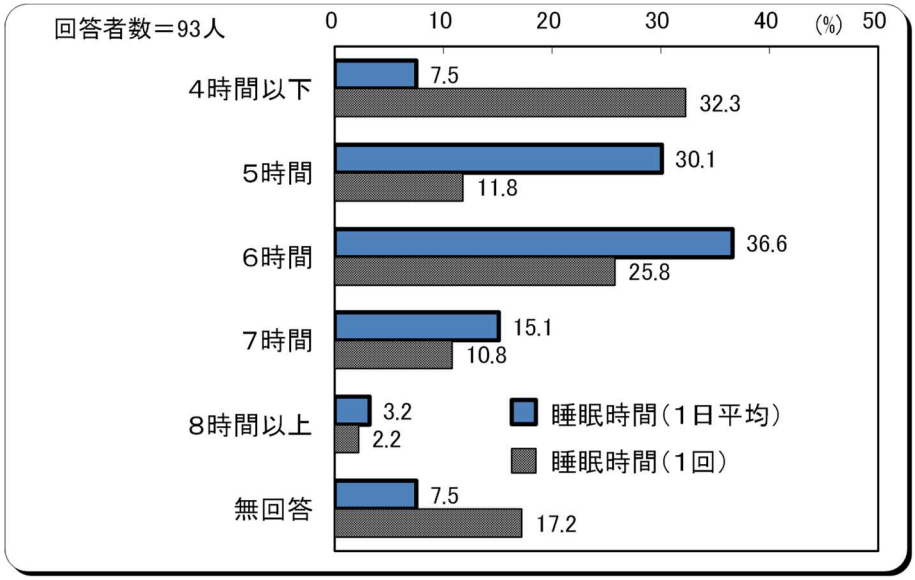
参考:平成 30 年度調査

②　「主たる介護者」の睡眠時間



令和６年度調査

「主たる介護者」の睡眠時間について、１日平均では「５～６時間未満」が 32.5%と最も多く、平均睡眠時間は 5.7 時間となっており、１回あたりの持続睡眠時間は「５～６時間未満」が 23.4%と最も多く、１回あたりの平均持続睡眠時間は 4.4 時間となっている。



参考：平成 30 年度調査

合計睡眠時間 (1日平均) 【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	平均
全体		77	-	1	3	17	25	23	5	3	5.7
		100.0%	-	1.3%	3.9%	22.1%	32.4%	29.9%	6.5%	3.9%	
年齢別	0～6歳	27	-	-	-	7	7	10	2	1	5.9
		100.0%	-	-	-	25.9%	25.9%	37.1%	7.4%	3.7%	
	7～18歳	33	-	1	2	7	10	9	3	1	5.6
		100.0%	-	3.0%	6.1%	21.2%	30.3%	27.3%	9.1%	3.0%	
	19～39歳	17	-	-	1	3	8	4	-	1	5.6
		100.0%	-	-	5.9%	17.6%	47.1%	23.5%	-	5.9%	

持続睡眠時間 (1回あたり) 【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上	平均
全体		77	1	5	10	10	13	18	16	3	1	4.4
		100.0%	1.3%	6.5%	13.0%	13.0%	16.9%	23.3%	20.8%	3.9%	1.3%	
年齢別	0～6歳	27	-	1	3	4	4	7	6	1	1	4.8
		100.0%	-	3.7%	11.1%	14.8%	14.8%	25.9%	22.2%	3.7%	3.7%	
	7～18歳	33	1	-	4	4	8	6	9	1	-	4.6
		100.0%	3.0%	-	12.1%	12.1%	24.3%	18.2%	27.3%	3.0%	-	
	19～39歳	17	-	4	3	2	1	5	1	1	-	3.6
		100.0%	-	23.5%	17.6%	11.8%	5.9%	29.4%	5.9%	5.9%	-	

令和６年度調査

年齢別にみると、【0～6 歳】では合計睡眠時間は「６～７時間未満」が 37.0%と最も多く、平均睡眠時間は 5.9 時間となっており、１回あたりの持続睡眠時間は「５～６時間未満」が 25.9%と最も多く、１回あたりの平均持続睡眠時間は 4.8 時間となっている。【7～18 歳】では合計睡眠時間は「５～6 時間未満」が 30.3%と最も多く、平均睡眠時間は 5.6 時間となっており、１回あたりの持続睡眠時間は「６～７時間未満」が 27.3%と最も多く、１回あたりの平均持続睡眠時間は 4.6 時間となっている。【19～39 歳】では合計睡眠時間は「5～6 時間未満」が 47.1%と最も多く、平均睡眠時間は 5.6 時間となっており、１回あたりの持続睡眠時間は「５～６時間未満」が 29.4%と最も多く、１回あたりの平均持続睡眠時間は 3.6 時間となっている。

①-1「主たる介護者」の睡眠時間（1日平均）

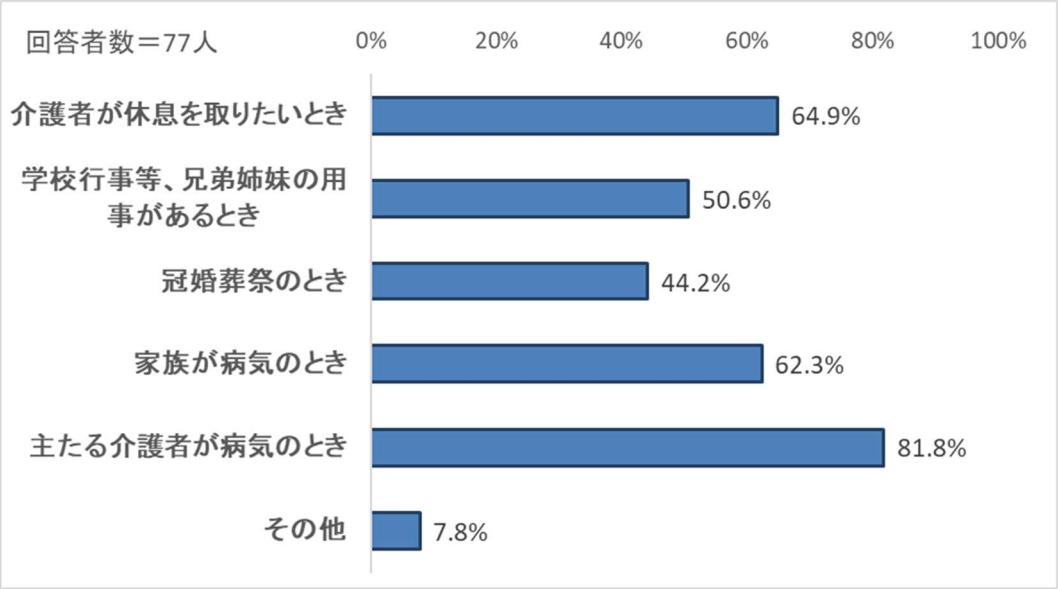
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 4時間以下	(2) 5時間	(3) 6時間	(4) 7時間	(5) 8時間以上	無回答	平均
全体		93	7	28	34	14	3	7	5.7
		100.0	7.5	30.1	36.6	15.1	3.2	7.5	
年齢別	0～6歳	15	2	4	4	4	1	－	5.9
		100.0	13.3	26.7	26.7	26.7	6.7	－	
	7～18歳	47	3	15	17	7	1	4	5.7
		100.0	6.4	31.9	36.2	14.9	2.1	8.5	
	19～40歳未満	29	2	9	12	3	1	2	5.7
		100.0	6.9	31.0	41.4	10.3	3.4	6.9	

①-2「主たる介護者」の睡眠時間（1回あたり）

全体	(1) 4時間以下	(2) 5時間	(3) 6時間	(4) 7時間	(5) 8時間以上	無回答	平均
93	30	11	24	10	2	16	4.8
100.0	32.3	11.8	25.8	10.8	2.2	17.2	
15	8	1	3	2	1	－	4.2
100.0	53.3	6.7	20.0	13.3	6.7	－	
47	13	7	13	5	－	9	4.9
100.0	27.7	14.9	27.7	10.6	－	19.1	
29	9	3	8	3	1	5	4.9
100.0	31.0	10.3	27.6	10.3	3.4	17.2	

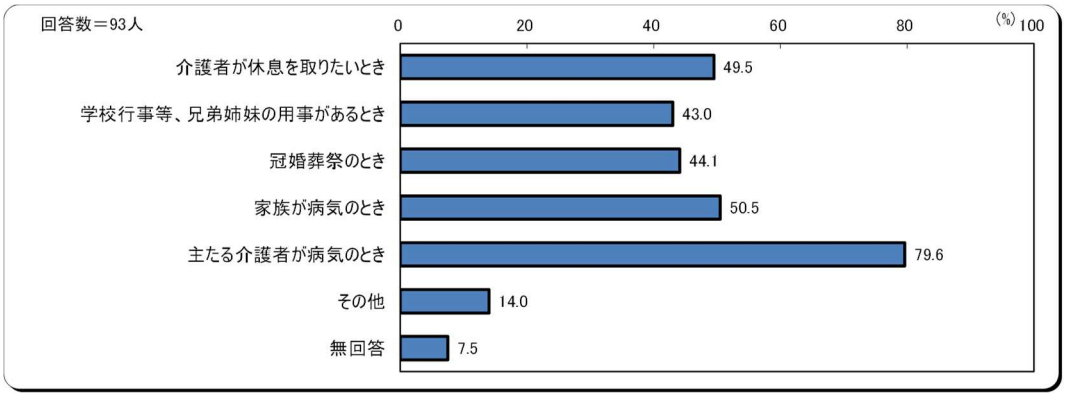
参考:平成 30 年度調査

③医療的ケアの代わりを依頼したいと感じるとき（複数回答）



令和６年度調査

医療的ケアの代わりを依頼したいと感じるときについて、「主たる介護者が病気のとき」が81.8%と最も多く、次いで「介護者が休息を取りたいとき」が64.9%となっている。



参考:平成30年度調査

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	介護者が休息を取りたいとき	学校行事等、兄弟姉妹の用事があるとき	冠婚葬祭のとき	家族が病気のとき	主たる介護者が病気のとき	その他
全体		77	50	39	34	48	63	6
		-	64.9%	50.6%	44.2%	62.3%	81.8%	7.8%
年齢別	0～6歳	27	18	13	7	15	23	2
		-	66.7%	48.1%	25.9%	55.6%	85.2%	7.4%
	7～18歳	33	20	20	16	21	24	2
		-	60.6%	60.6%	48.5%	63.6%	72.7%	6.1%
	19～39歳	17	12	6	11	12	16	2
		-	70.6%	35.3%	64.7%	70.6%	94.1%	11.8%

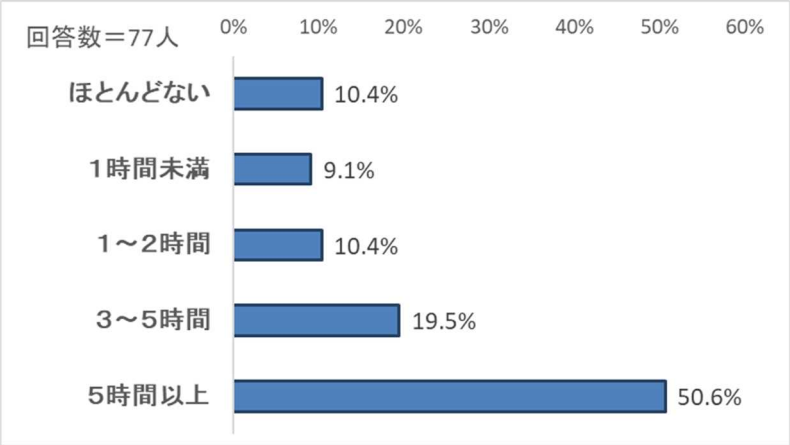
令和６年度調査

年齢別にみると、【0～6 歳】では「主たる介護者が病気のとき」が 81.8%と最も多く、次いで「介護者が休息を取りたいとき」が 66.7%となっている。【7～18 歳】では「主たる介護者が病気のとき」が 72.7%と最も多く、次いで「家族が病気のとき」が 63.6%となっている。【19～39 歳】では「主たる介護者が病気のとき」が 94.1%と最も多く、次いで「介護者が休憩を取りたいとき」「家族が病気のとき」がともに 70.6%となっている。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 介護者が休息を取りたいとき	(2) 学校行事等、兄弟姉妹の用事があるとき	(3) 冠婚葬祭のとき	(4) 家族が病気のとき	(5) 主たる介護者が病気のとき	(6) その他	無回答
全体		93	46	40	41	47	74	13	7
		100.0	49.5	43.0	44.1	50.5	79.6	14.0	7.5
年齢別	0～6歳	15	10	7	7	9	13	3	－
		100.0	66.7	46.7	46.7	60.0	86.7	20.0	－
	7～18歳	47	19	24	18	21	38	7	4
		100.0	40.4	51.1	38.3	44.7	80.9	14.9	8.5
	19～40歳未満	29	16	8	15	17	22	3	2
		100.0	55.2	27.6	51.7	58.6	75.9	10.3	6.9

参考:平成 30 年度調査

④−１　１日の間に医療的ケアを含む介護を休むことができた合計時間（１日平均）

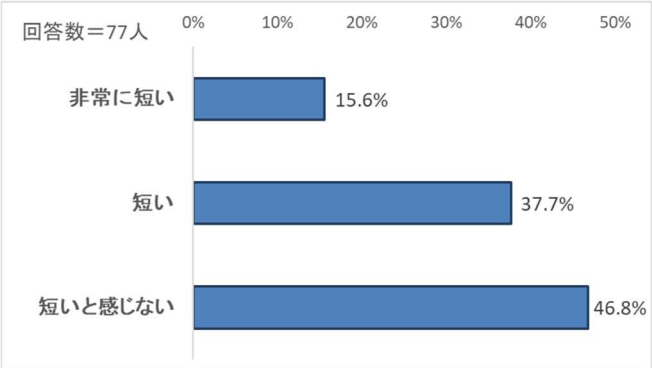


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	ほとんどない	1時間未満	1～2時間	3～5時間	5時間以上
全体		77	8	7	8	15	39
		100.0%	10.4%	9.1%	10.4%	19.5%	50.6%
年齢別	0～6歳	27	3	3	3	6	12
		100.0%	11.1%	11.1%	11.1%	22.2%	44.5%
	7～18歳	33	4	3	2	6	18
		100.0%	12.1%	9.1%	6.1%	18.2%	54.5%
	19～39歳	17	1	1	3	3	9
		100.0%	5.9%	5.9%	17.6%	17.6%	53.0%

令和６年度調査

主たる介護者が１日の間に医療的ケアを含む介護を休むことができた合計時間（１日平均）について、「５時間以上」が 50.6%と最も多く、次いで「３～５時間」が 19.5%となっている。年齢別にみても、「5 時間以上」が最も多く、【0～6 歳】では 44.4%、【7～18 歳】では 54.5%、【19～39 歳】では 52.9%となっている。

④−２　１日の間に医療的ケアを含む介護を休むことができた合計時間（１日平均）をどう思うか



【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	非常に短い	短い	短いと感じない
全体		77	12	29	36
		100.0%	15.6%	37.7%	46.7%
年齢別	0～6歳	27	4	8	15
		100.0%	14.8%	29.6%	55.6%
	7～18歳	33	5	14	14
		100.0%	15.2%	42.4%	42.4%
	19～39歳	17	3	7	7
		100.0%	17.6%	41.2%	41.2%

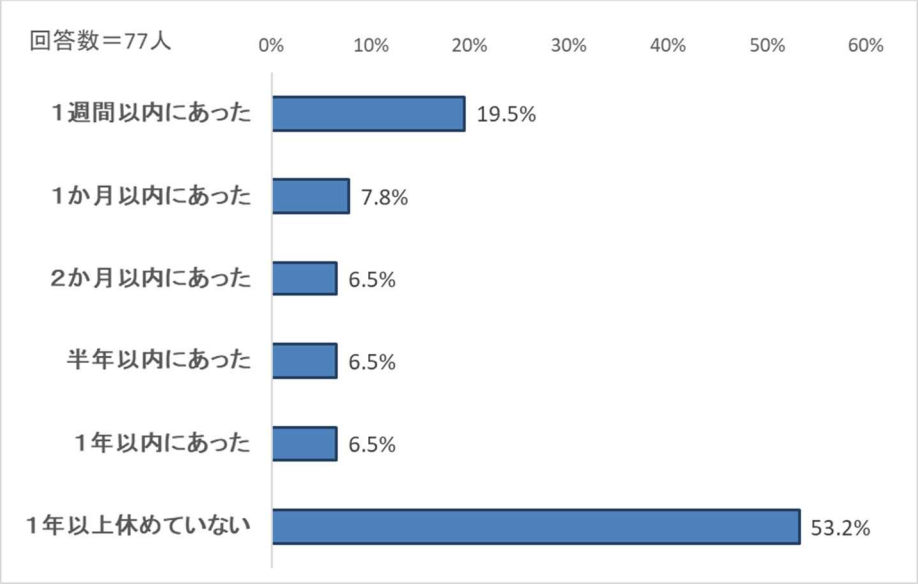
令和６年度調査

主たる介護者が１日の間に医療的ケアを含む介護を休むことができた合計時間（１日平均）をどう思うかについて、「短いと感じない」が 46.8%と最も多く、次いで「短い」が 37.7%となっている。年齢別にみると、【0～6 歳】では「短いと感じない」が 55.6%、【7～18 歳】では「短い」「短いと感じない」がともに 42.4%、【19～39 歳】では「短い」「短いと感じない」がともに 41.2%となっている。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		介護から離れられる時間（１日平均）							その時間の長さについてどう感じますか。				
		全体	(1) ほとんどない	(2) 1時間未満	(3) 1～2時間	(4) 3～5時間	(5) 5時間以上	無回答	全体	(1) 非常に短い	(2) 少し短い	(3) 短いとは感じない	無回答
全体		93	18	3	8	19	32	13	93	16	19	38	20
		100.0	19.4	3.2	8.6	20.4	34.4	14.0	100.0	17.2	20.4	40.9	21.5
年齢別	0～6歳	15	4	2	4	2	3	−	15	5	3	6	1
		100.0	26.7	13.3	26.7	13.3	20.0	−	100.0	33.3	20.0	40.0	6.7
	7～18歳	47	9	−	1	11	21	5	47	5	10	23	9
		100.0	19.1	−	2.1	23.4	44.7	10.6	100.0	10.6	21.3	48.9	19.1
	19～40歳未満	29	5	1	3	6	7	7	29	6	6	8	9
		100.0	17.2	3.4	10.3	20.7	24.1	24.1	100.0	20.7	20.7	27.6	31.0
性別	男	46	8	2	3	11	14	8	46	9	11	16	10
		100.0	17.4	4.3	6.5	23.9	30.4	17.4	100.0	19.6	23.9	34.8	21.7
	女	39	7	1	5	8	15	3	39	6	8	19	6
		100.0	17.9	2.6	12.8	20.5	38.5	7.7	100.0	15.4	20.5	48.7	15.4

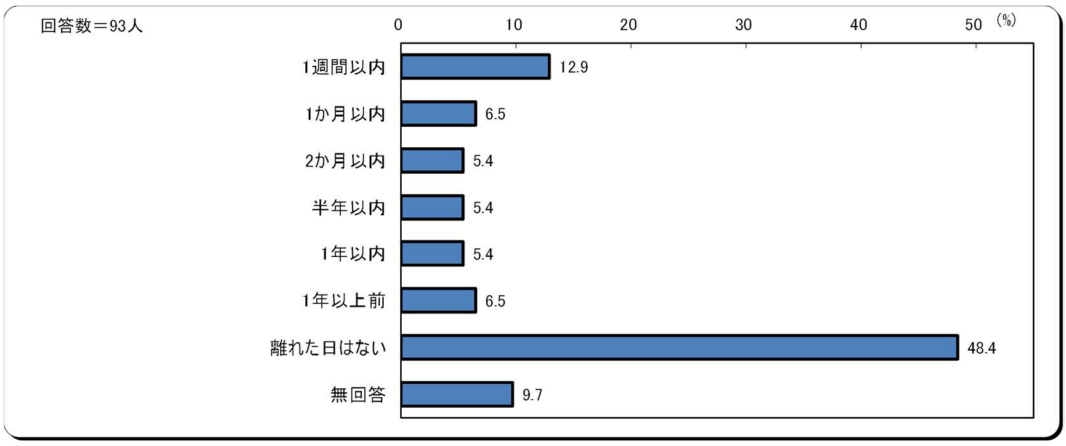
参考:平成 30 年度調査

⑤　１年以内に介護から１日離れて休むことができた直近の日



令和６年度調査

主たる介護者が１年以内に医療的ケアを含む介護から１日（24ｈ）離れて休むことができた直近の日について、「1 年以上休めていない」が 53.2%と最も多く、次いで「1 週間以内にあった」が 19.5%となっている。



参考:平成 30 年度調査

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	1週間以内にあった	1か月以内にあった	2か月以内にあった	半年以内にあった	1年以内にあった	1年以上休めていない
全体		77	15	6	5	5	5	41
		100.0%	19.5%	7.8%	6.5%	6.5%	6.5%	53.2%
年齢別	0～6歳	27	5	2	1	2	1	16
		100.0%	18.5%	7.4%	3.7%	7.4%	3.7%	59.3%
	7～18歳	33	6	-	3	2	3	19
		100.0%	18.2%	-	9.1%	6.0%	9.1%	57.6%
	19～39歳	17	4	4	1	1	1	6
		100.0%	23.5%	23.5%	5.9%	5.9%	5.9%	35.3%

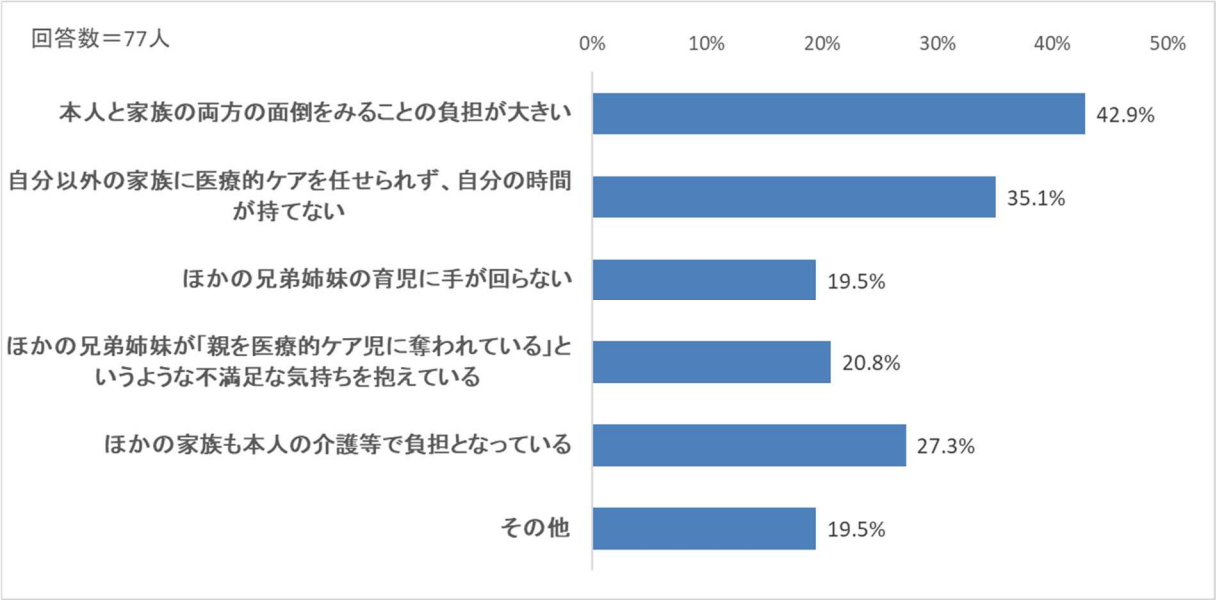
令和６年度調査

年齢別にみると、【0～6 歳】では「1 年以上休めていない」が 59.3%と最も多く、次いで「1 週間以内にあった」が 18.5%となっている。【7～18 歳】では「1 年以上休めていない」が 57.6%と最も多く、次いで「1 週間以内にあった」が 18.2%となっている。【19～39 歳】では「1 年以上休めていない」が 35.3%と最も多く、次いで「1 週間以内にあった」「1 か月以内にあった」がともに 23.5%となっている。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 1週間以内	(2) 1か月以内	(3) 2か月以内	(4) 半年以内	(5) 1年以内	(6) 1年以上前	(7) 離れた日はない	無回答
全体		93	12	6	5	5	5	6	45	9
		100.0	12.9	6.5	5.4	5.4	5.4	6.5	48.4	9.7
年齢別	0～6歳	15	－	1	1	－	－	2	10	1
		100.0	－	6.7	6.7	－	－	13.3	66.7	6.7
	7～18歳	47	5	1	1	3	4	3	26	4
		100.0	10.6	2.1	2.1	6.4	8.5	6.4	55.3	8.5
	19～40歳未満	29	7	4	3	1	1	1	9	3
		100.0	24.1	13.8	10.3	3.4	3.4	3.4	31.0	10.3

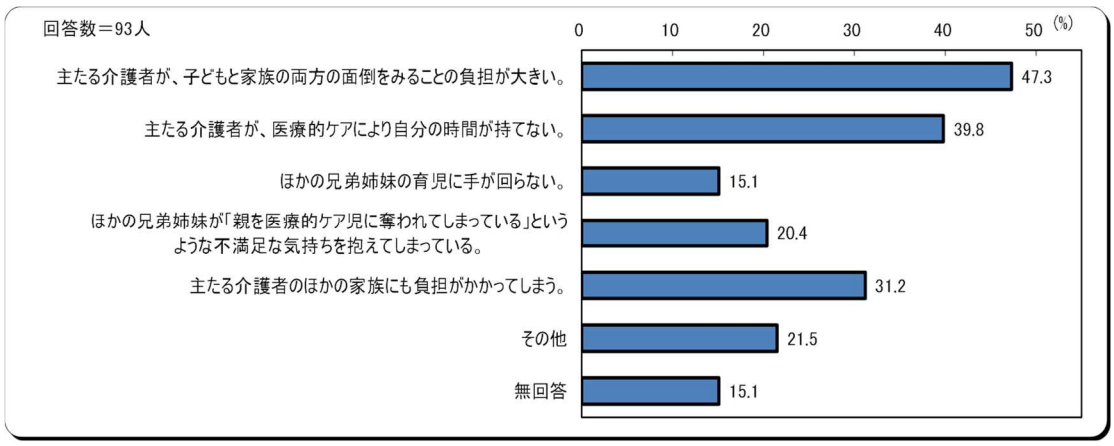
参考:平成 30 年度調査

⑥　一緒に暮らす家族について（複数回答）



令和６年度調査

一緒に暮らす家族について、「本人と家族の両方の面倒をみることの負担が大きい」が 42.9%と最も多く、次いで「自分以外の家族に医療的ケアが任せられず、自分の時間が持てない」が 35.1%となっている。



参考:平成 30 年度調査

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	本人と家族の両方の面倒をみることの負担が大きい	自分以外の家族に医療的ケアを任せられず、自分の時間が持てない	ほかの兄弟姉妹の育児に手が回らない	ほかの兄弟姉妹が「親を医療的ケア児に奪われている」というような不満足な気持ちを抱えている	ほかの家族も本人の介護等で負担となっている	その他
全体		77	33	27	15	16	21	15
		-	42.9%	35.1%	19.5%	20.8%	27.3%	19.5%
年齢別	0～6歳	27	12	6	7	5	6	9
		-	44.4%	22.2%	25.9%	18.5%	22.2%	33.3%
	7～18歳	33	12	16	7	9	9	4
		-	36.4%	48.5%	21.2%	27.3%	27.3%	12.1%
	19～39歳	17	9	5	1	2	6	2
		-	52.9%	29.4%	5.9%	11.8%	35.3%	11.8%

令和6年度調査

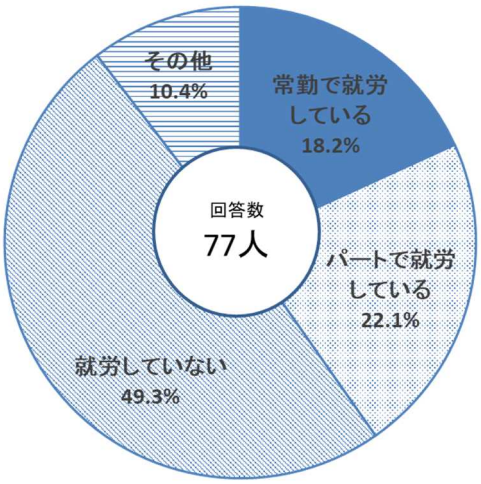
年齢別にみると、【0～6 歳】では「本人と家族の両方の面倒をみることの負担が大きい」が44.4%と最も多い。【7～18 歳】では「自分以外の家族に医療的ケアが任せられず、自分の時間が持てない」が 48.5%と最も多い。【19～39 歳】では「本人と家族の両方の面倒をみることの負担が大きい」が 52.9%と最も多い。

「その他」では「負担に感じていない」「時間と行動範囲が縛られる」といった回答があった。

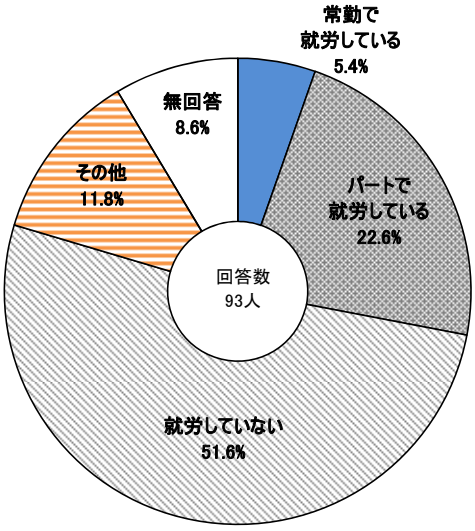
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 主たる介護者が、子どもと家族の両方の面倒をみることの負担が大きい。	(2) 主たる介護者が、医療的ケアにより自分の時間が持てない。	(3) ほかの兄弟姉妹の育児に手が回らない。	(4) ほかの兄弟姉妹が「親を医療的ケア児に奪われている」というような不満足な気持ちを抱えてしまっている。	(5) 主たる介護者のほかの家族にも負担がかかってしまう。	(6) その他	無回答
全体		93	44	37	14	19	29	20	14
		100.0	47.3	39.8	15.1	20.4	31.2	21.5	15.1
年齢別	0～6歳	15	8	10	3	3	7	2	1
		100.0	53.3	66.7	20.0	20.0	46.7	13.3	6.7
	7～18歳	47	25	15	8	13	14	12	6
		100.0	53.2	31.9	17.0	27.7	29.8	25.5	12.8
	19～40歳未満	29	10	12	2	3	8	6	6
		100.0	34.5	41.4	6.9	10.3	27.6	20.7	20.7

参考:平成 30 年度調査

⑦-１　主たる介護者の就労状況



令和６年度調査



参考:平成 30 年度調査

主たる介護者の就労状況について、「就労していない」が 48.7%と最も多く、次いで「パートで就労している」が 23.1%となっている。

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	常勤で就労している	パートで就労している	就労していない	その他
全体		77	14	17	38	8
		100.0%	18.2%	22.1%	49.3%	10.4%
年齢別	0～6歳	27	8	3	10	6
		100.0%	29.6%	11.1%	37.1%	22.2%
	7～18歳	33	4	9	19	1
		100.0%	12.1%	27.3%	57.6%	3.0%
	19～39歳	17	2	5	9	1
		100.0%	11.8%	29.4%	52.9%	5.9%

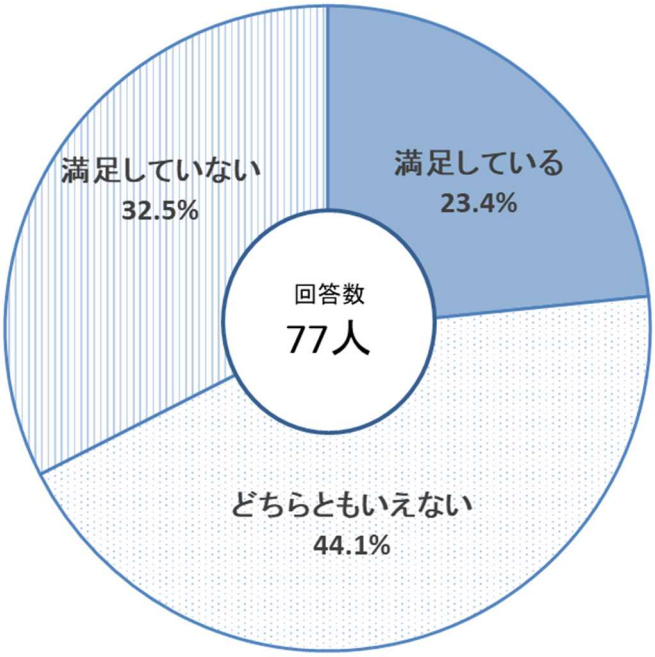
令和６年度調査

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 常勤で就労している	(2) パートで就労している	(3) 就労していない	(4) その他	無回答
全体		93	5	21	48	11	8
		100.0	5.4	22.6	51.6	11.8	8.6
年齢別	0～6歳	15	－	1	11	3	－
		100.0	－	6.7	73.3	20.0	－
	7～18歳	47	5	13	20	5	4
		100.0	10.6	27.7	42.6	10.6	8.5
	19～40歳未満	29	－	6	17	3	3
		100.0	－	20.7	58.6	10.3	10.3

参考:平成 30 年度調査

年齢別にみると、【0～6 歳】では「就労していない」が 37.0%と最も多く、次いで「常勤で就労している」が 29.6%となっている。【7～18 歳】では「就労していない」が 57.6%と最も多く、次いで「パートで就労している」が 30.3%となっている。【19～39 歳】では「就労していない」が 52.9%と最も多く、次いで「パートで就労している」が 29.4%となっている。「その他」は「自営業」「育休中」といった意見があった。

⑦−２　就労状況に満足しているか



【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	満足している	どちらともいえない	満足していない
全体		77	18	34	25
		100.0%	23.4%	44.1%	32.5%
年齢別	0～6歳	27	8	10	9
		100.0%	29.6%	37.0%	33.4%
	7～18歳	33	8	13	12
		100.0%	24.2%	39.4%	36.4%
	19～39歳	17	2	11	4
		100.0%	11.8%	64.7%	23.5%

令和６年度調査

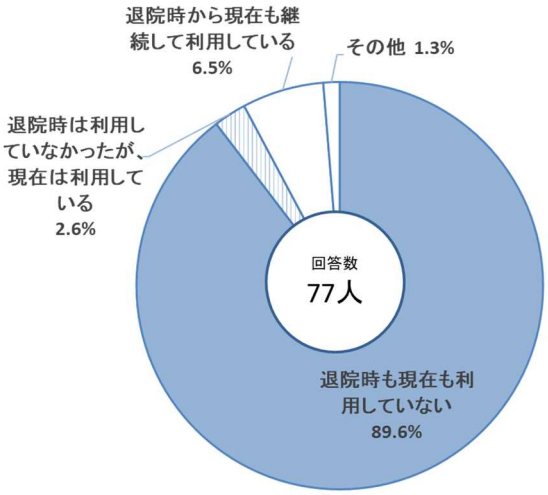
主たる介護者が就労状況に満足しているかについて、「どちらともいえない」が 44.2%と最も多く、次いで「満足していない」が 32.5%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「どちらともいえない」が 37.0%と最も多く、次いで「満足していない」が 33.3%となっている。【7～18 歳】では「どちらともいえない」が 39.4%と最も多く、次いで「満足していない」が 36.4%となっている。【19～39 歳】では「どちらともいえない」が 64.7%と最も多く、次いで「満足していない」が 23.5%となっている。

３．訪問診療・訪問看護の利用

（８）訪問診療・訪問看護の利用

①－１　訪問診療

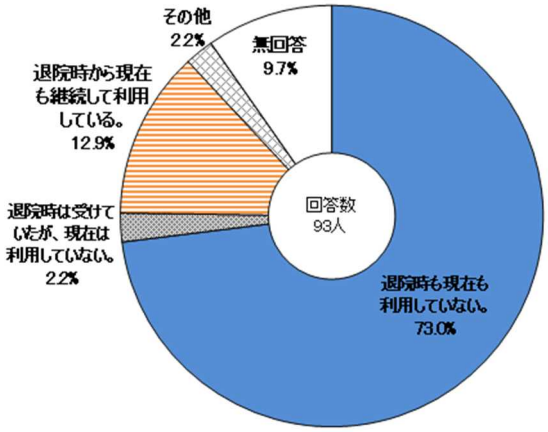


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	退院時も現在も利用していない	退院時は受けていたが、現在は利用していない	退院時は利用していなかったが、現在は利用している	退院時から現在も継続して利用している	その他
全体		77	69	-	2	5	1
		100.0%	89.6%	-	2.6%	6.5%	1.3%
年齢別	0～6歳	27	27	-	-	-	-
		100.0%	100.0%	-	-	-	-
	7～18歳	33	33	-	-	-	-
		100.0%	100.0%	-	-	-	-
	19～40歳未満	17	9	-	2	5	1
		100.0%	52.9%	-	11.8%	29.4%	5.9%

令和６年度調査

訪問診療について、「退院時も現在も利用していない」が 89.6%と最も多い。

年齢別にみても、「退院時も現在も利用していない」が最も多く、【0～6 歳】【7～18 歳】では 100%、【19～39 歳】では 52.9%となっている。

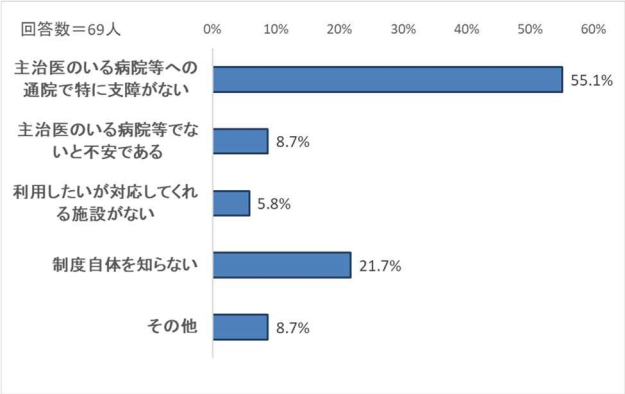


【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 退院時も現在も利用していない。	(2) 退院時は受けていたが、現在は利用していない。	(3) 退院時は利用していなかったが、現在は利用している。	(4) 退院時から現在も継続して利用している。	(5) その他	無回答
全体		93	68	2	－	12	2	9
		100.0	73.1	2.2	－	12.9	2.2	9.7
年齢別	0～6歳	15	13	－	－	2	－	－
		100.0	86.7	－	－	13.3	－	－
	7～18歳	47	38	1	－	1	1	6
		100.0	80.9	2.1	－	2.1	2.1	12.8
	19～40歳未満	29	16	1	－	9	1	2
		100.0	55.2	3.4	－	31.0	3.4	6.9
性別	男	46	30	2	－	6	－	8
		100.0	65.2	4.3	－	13.0	－	17.4
	女	39	33	－	－	3	2	1
		100.0	84.6	－	－	7.7	5.1	2.6

参考:平成 30 年度調査

①-２　訪問診療を利用しない理由

※「退院時も現在も利用していない」「退院時は利用していたが、現在は利用していない」を選択した方のみ回答

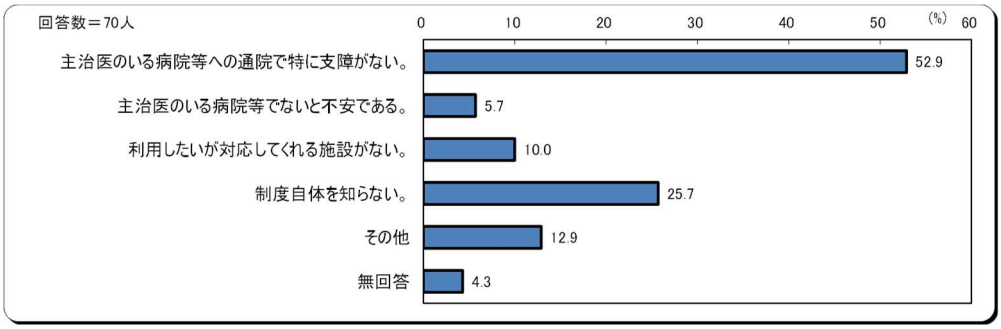


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	主治医のいる病院等への通院で特に支障がない	主治医のいる病院等でないと不安である	利用したいが対応してくれる施設がない	制度自体を知らない	その他
全体		69	38	6	4	15	6
		100.0%	55.1%	8.7%	5.8%	21.7%	8.7%
年齢別	0～6歳	27	17	4	1	5	-
		100.0%	63.0%	14.8%	3.7%	18.5%	-
	7～18歳	33	17	2	3	9	2
		100.0%	51.5%	6.1%	9.1%	27.2%	6.1%
	19～39歳	9	4	-	-	1	4
		100.0%	44.4%	-	-	11.2%	44.4%

令和６年度調査

訪問診療を利用しない理由については「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が55.1%と最も多く、次いで「制度自体を知らない」が21.7%となっている。「その他」では「利用したいが契約に至っていない」「手続きが大変でなかなか進まない」等の意見があった。

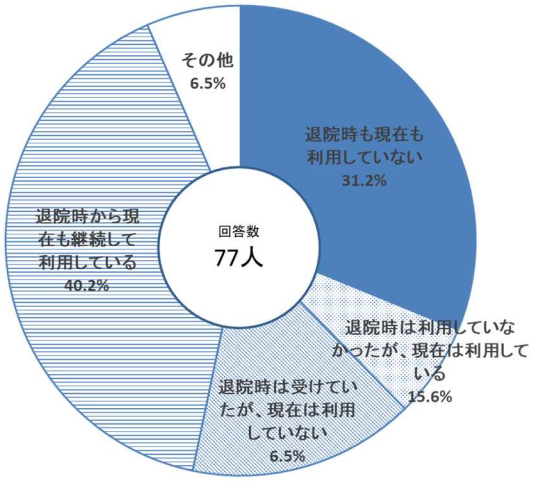
年齢別にみると、【0～6歳】では「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が63.0%、【7～18歳】では「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が51.5%、【19～39歳】では「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」と「その他」が44.4%となっている。



【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 主治医のいる病院等への通院で特に支障がない。	(2) 主治医のいる病院等でないと不安である。	(3) 利用したいが対応してくれる施設がない。	(4) 制度自体を知らない。	(5) その他	無回答
全体		70	37	4	7	18	9	3
		100.0	52.9	5.7	10.0	25.7	12.9	4.3
年齢別	0～6歳	13	8	1	1	3	2	1
		100.0	61.5	7.7	7.7	23.1	15.4	7.7
	7～18歳	39	17	1	5	12	6	2
		100.0	43.6	2.6	12.8	30.8	15.4	5.1
	19～40歳未満	17	11	1	1	3	1	–
		100.0	64.7	5.9	5.9	17.6	5.9	–
性別	男	32	14	1	3	11	6	1
		100.0	43.8	3.1	9.4	34.4	18.8	3.1
	女	33	20	2	3	6	3	2
		100.0	60.6	6.1	9.1	18.2	9.1	6.1

参考:平成 30 年度調査

②-１　訪問看護

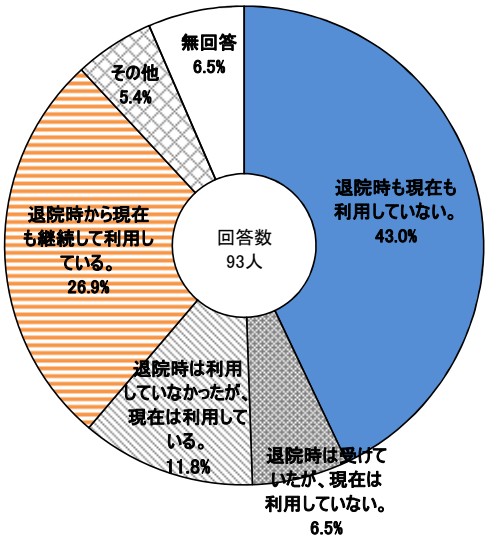


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	退院時も現在も利用していない	退院時は受けていたが、現在は利用していない	退院時は利用していなかったが、現在は利用している	退院時から現在も継続して利用している	その他
全体		77	24	5	12	31	5
		100.0%	31.2%	6.5%	15.6%	40.2%	6.5%
年齢別	0～6歳	27	9	1	4	12	1
		100.0%	33.3%	3.7%	14.8%	44.5%	3.7%
	7～18歳	33	13	3	3	11	3
		100.0%	39.4%	9.1%	9.1%	33.3%	9.1%
	19～39歳	17	2	1	5	8	1
		100.0%	11.8%	5.9%	29.4%	47.0%	5.9%

令和６年度調査

訪問看護について、「退院時から現在も継続して利用している」が 40.2%と最も多く、次いで「退院時も現在も利用していない」が 31.2%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「退院時から現在も継続して利用している」が 44.5%、【7～18 歳】では「退院時も現在も利用していない」が 39.4%、【19～39 歳】では「退院時から現在も継続して利用している」が 47.0%と最も多くなっている。

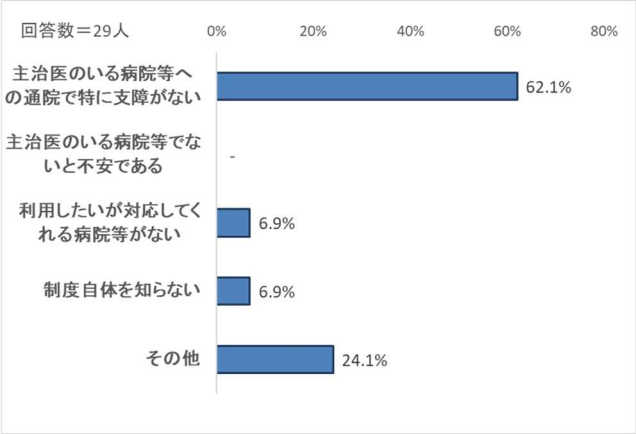


【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 退院時も現在も利用していない。	(2) 退院時は受けていたが、現在は利用していない。	(3) 退院時は利用していなかったが、現在は利用している。	(4) 退院時から現在も継続して利用している。	(5) その他	無回答
全体		93	40	6	11	25	5	6
		100.0	43.0	6.5	11.8	26.9	5.4	6.5
年齢別	0～6歳	15	2	2	1	9	1	－
		100.0	13.3	13.3	6.7	60.0	6.7	－
	7～18歳	47	26	2	6	6	2	5
		100.0	55.3	4.3	12.8	12.8	4.3	10.6
	19～40歳未満	29	11	2	4	10	2	－
		100.0	37.9	6.9	13.8	34.5	6.9	－
性別	男	46	15	4	9	12	1	5
		100.0	32.6	8.7	19.6	26.1	2.2	10.9
	女	39	21	1	2	11	3	1
		100.0	53.8	2.6	5.1	28.2	7.7	2.6

参考:平成 30 年度調査

②-２　訪問看護を利用しない理由

※「退院時も現在も利用していない」「退院時は利用していたが、現在は利用していない」を選択した方のみ回答

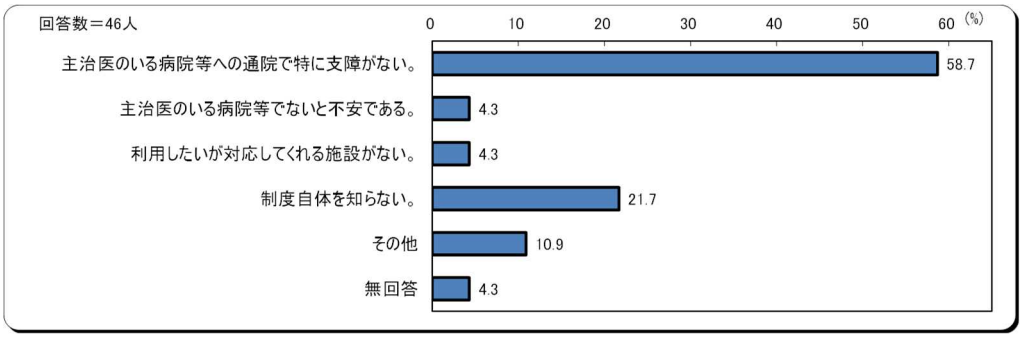


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	主治医のいる病院等への通院で特に支障がない	主治医のいる病院等でないと不安である	利用したいが対応してくれる病院等がない	制度自体を知らない	その他
全体		29	18	-	2	2	7
		100.0%	62.1%	-	6.9%	6.9%	24.1%
年齢別	0～6歳	10	7	-	-	1	2
		100.0%	70.0%	-	-	10.0%	20.0%
	7～18歳	16	8	-	2	1	5
		100.0%	50.0%	-	12.5%	6.3%	31.2%
	19～39歳	3	3	-	-	-	-
		100.0%	100.0%	-	-	-	-

令和６年度調査

訪問看護を利用しない理由については「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が62.1%で最も多く、次いで「その他」が24.1%となっている。「その他」では「時間どおりに来てくれないことが頻繁にあり、利用を止めた」「時間が合わない（来て欲しい時間に空きがない）」「どこまでお願いできるかわからない」等の意見があった。

年齢別にみても、「主治医のいる病院等への通院で特に支障がない」が最も多く、【0～6 歳】では 70.0%、【7～18 歳】では 50.0%、【19～39 歳】では 100%となっている。



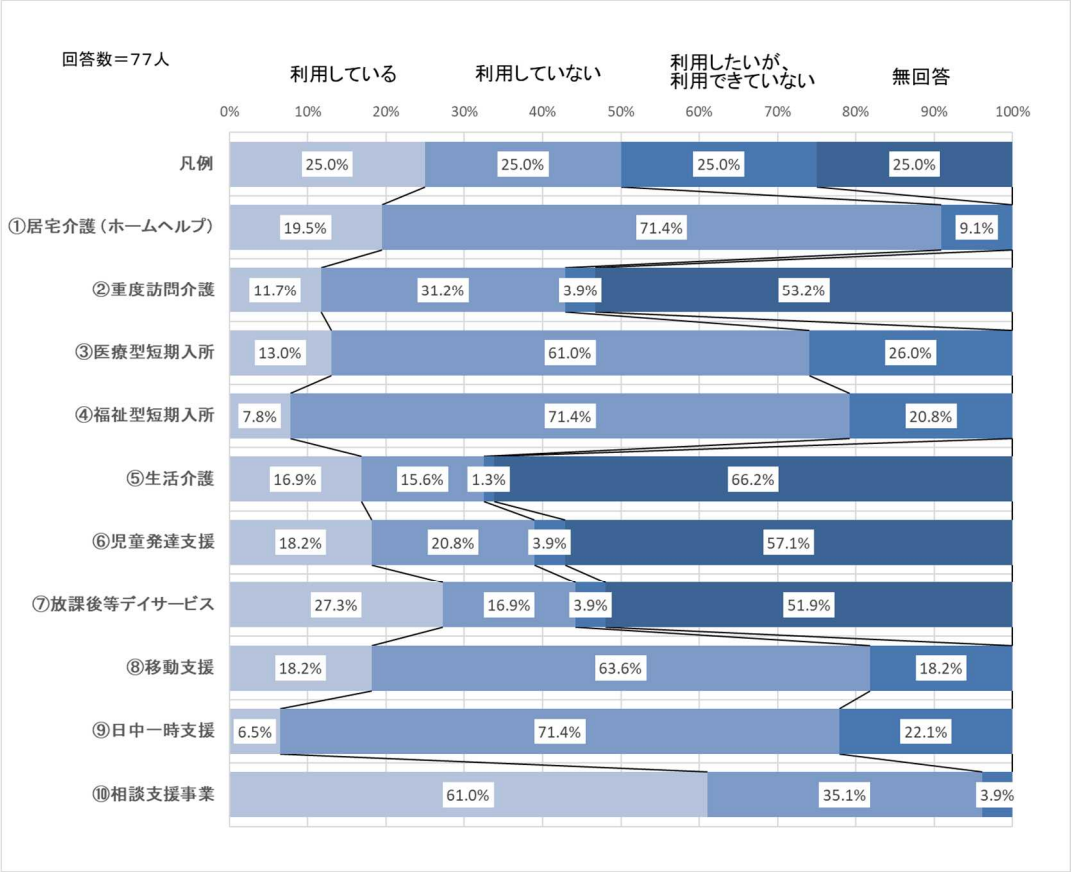
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 主治医のいる病院等への通院で特に支障がない。	(2) 主治医のいる病院等でないと不安である。	(3) 利用したいが対応してくれる施設がない。	(4) 制度自体を知らない。	(5) その他	無回答
全体		46	27	2	2	10	5	2
		100.0	58.7	4.3	4.3	21.7	10.9	4.3
年齢別	0～6歳	4	2	－	－	－	2	－
		100.0	50.0	－	－	－	50.0	－
	7～18歳	28	13	1	2	7	3	2
		100.0	46.4	3.6	7.1	25.0	10.7	7.1
	19～40歳未満	13	11	－	－	3	－	－
		100.0	84.6	－	－	23.1	－	－
性別	男	19	13	－	－	5	1	－
		100.0	68.4	－	－	26.3	5.3	－
	女	22	13	2	1	4	3	1
		100.0	59.1	9.1	4.5	18.2	13.6	4.5

参考:平成 30 年度調査

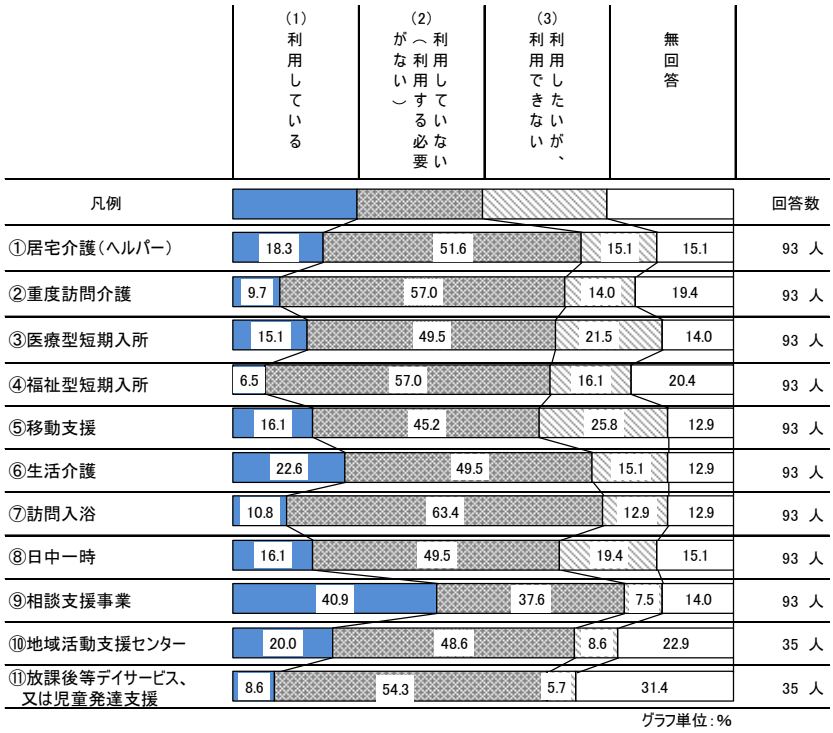
４．障害福祉サービス等の利用

（９）障害福祉サービス等の利用状況

①　障害福祉サービス等の利用状況



令和６年度調査



参考：平成 30 年度調査

回答数=77人	利用している	利用していない	利用したいが、利用できていない	無回答
①居宅介護　（ホームヘルプ）	19.5%	71.4%	9.1%	—
②重度訪問介護	11.7%	31.2%	3.9%	53.2%
③医療型短期入所	13.0%	61.0%	26.0%	—
④福祉型短期入所	7.8%	71.4%	20.8%	—
⑤生活介護	16.9%	15.6%	1.3%	66.2%
⑥児童発達支援	18.2%	20.8%	3.9%	57.1%
⑦放課後等デイサービス	27.3%	16.9%	3.9%	51.9%
⑧移動支援	18.2%	63.6%	18.2%	—
⑨日中一時支援	6.5%	71.4%	22.1%	—
⑩相談支援事業	61.0%	35.1%	3.9%	—

令和６年度調査

※下記に該当する場合、一部サービスを利用できないため、無回答を選択している。

18歳未満の方･････････････････････････②重度訪問介護、⑤生活介護

就学中、もしくは高校卒業後の方･････････⑥児童発達支援

小学校就学前、もしくは高校卒業後の方･･･⑦放課後等デイサービス

障害福祉サービスの利用状況について、上記に該当することを理由に「無回答」と選択したものを除くと、「利用している」が「利用していない」を上回ったのは【⑤生活介護】【⑦放課後等デイサービス】【⑩相談支援事業】であった。このうち【⑩相談支援事業】が 61.0%と最も多くなっている。

②　各サービスを利用できない理由（複数回答）

※「利用したいが利用できない」を選択した方のみ回答

	全体	医療的ケアを理由に断られた	定員枠が空いていない	突然の申込みには対応できない	施設・自宅の設備・構造	職員数の不足	本人の特性（多動・自傷行為）	受け入れてくれるところが分からない	送迎のサービスがない	サービスを知らない	その他
①居宅介護 （ホームヘルプ）	7	1	-	-	-	1	-	1	-	3	1
	-	14.3%	-	-	-	14.3%	-	14.3%	0.0%	42.9%	14.3%
②重度訪問介護	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3%	66.7%
③医療型短期入所	20	4	6	6	1	5	2	8	5	1	4
	-	20.0%	30.0%	30.0%	5.0%	25.0%	10.0%	40.0%	25.0%	5.0%	20.0%
④福祉型短期入所	16	5	3	5	1	3	1	9	2	1	4
	-	31.3%	18.8%	31.3%	6.3%	18.8%	6.3%	56.3%	12.5%	6.3%	25.0%
⑤生活介護	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
⑥児童発達支援	3	-	1	-	-	-	-	1	-	2	-
	-	-	33.3%	-	-	-	-	33.3%	-	66.7%	-
⑦放課後等デイサービス	3	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1
	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3%	33.3%	33.3%
⑧移動支援	14	2	1	1	-	1	-	5	4	7	2
	-	14.3%	7.1%	7.1%	-	7.1%	-	35.7%	28.6%	50.0%	14.3%
⑨日中一時支援	17	4	3	4	1	3	-	6	3	9	1
	-	23.5%	17.6%	23.5%	5.9%	17.6%	-	35.3%	17.6%	52.9%	5.9%
⑩相談支援事業	3	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-
	-	-	-	-	-	-	-	33.3%	-	66.7%	-

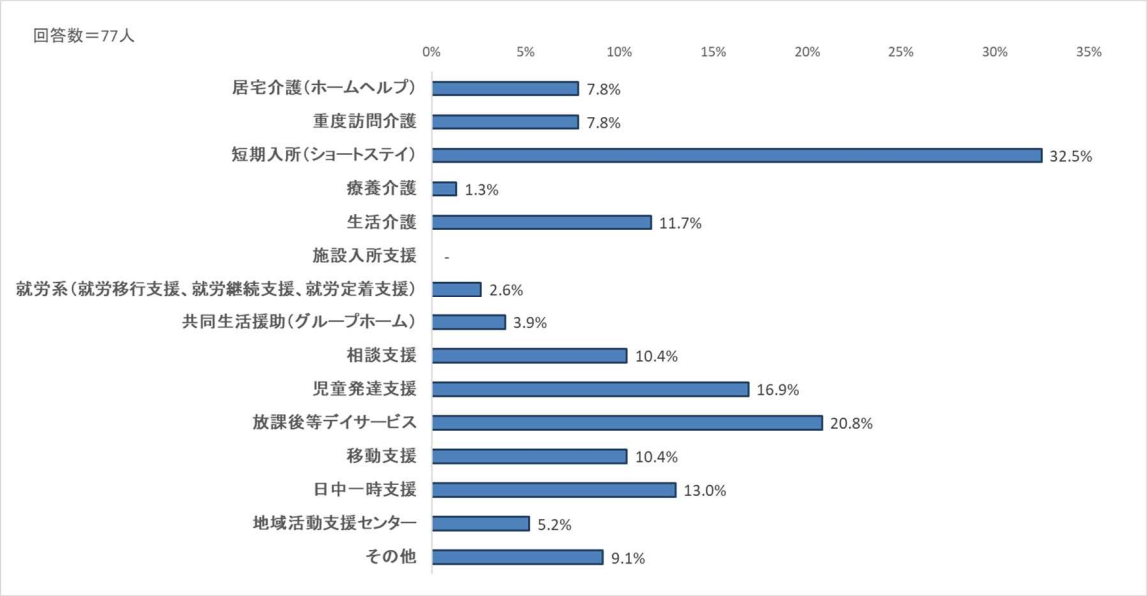
令和６年度調査

障害福祉サービスを利用したいが利用できない理由について、短期入所では「受け入れてくれるところが分からない」との回答が最も多く、他のサービスに関しては「サービスを知らない」との回答が多かった。

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)	全体	(1) 医療的ケアを理由に断られた。	(2) 定員枠が空いていないため。	(3) 突然の申込みには対応できない。	(4) 施設・自宅の設備・構造。	(5) 職員数の不足。	(6) 本人の特性（多動・自傷行為）。	(7) 受け入れてくれるところが分らない。	(8) 送迎のサービスがない。	(9) サービスを知らない。	(10) その他	無回答
①居宅介護 （ヘルパー）	14 100.0	2 14.3	－ －	2 14.3	1 7.1	1 7.1	－ －	6 42.9	1 7.1	2 14.3	3 21.4	1 7.1
②重度訪問介護	13 100.0	1 7.7	－ －	1 7.7	1 7.7	1 7.7	－ －	6 46.2	－ －	5 38.5	2 15.4	1 7.7
③医療型短期入所	20 100.0	3 15.0	2 10.0	7 35.0	1 5.0	2 10.0	3 15.0	6 30.0	5 25.0	2 10.0	4 20.0	3 15.0
④福祉型短期入所	15 100.0	2 13.3	2 13.3	4 26.7	1 6.7	1 6.7	1 6.7	7 46.7	3 20.0	5 33.3	2 13.3	1 6.7
⑤移動支援	24 100.0	3 12.5	1 4.2	4 16.7	1 4.2	1 4.2	1 4.2	8 33.3	2 8.3	6 25.0	3 12.5	6 25.0
⑥生活介護	14 100.0	1 7.1	1 7.1	2 14.3	－ －	1 7.1	－ －	5 35.7	1 7.1	5 35.7	2 14.3	3 21.4
⑦訪問入浴	12 100.0	1 8.3	1 8.3	2 16.7	－ －	1 8.3	－ －	5 41.7	－ －	3 25.0	3 25.0	3 25.0
⑧日中一時	18 100.0	1 5.6	1 5.6	2 11.1	－ －	1 5.6	1 5.6	8 44.4	3 16.7	4 22.2	4 22.2	3 16.7
⑨相談支援事業	7 100.0	－ －	1 14.3	1 14.3	－ －	1 14.3	－ －	2 28.6	1 14.3	3 42.9	1 14.3	1 14.3
⑩地域活動支援センター	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 33.3	－ －	2 66.7	－ －	－ －
⑪放課後等デイサービス、又は児童発達支援	2 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 50.0	－ －	1 50.0

参考:平成 30 年度調査

③　一番利用したいサービス（複数回答、２つまで）

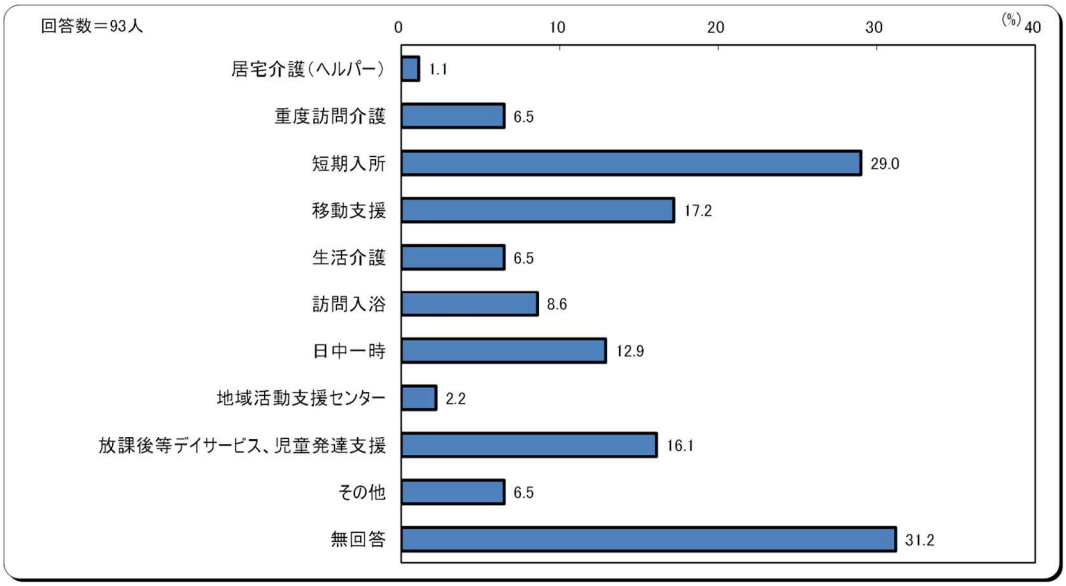


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	短期入所（ショートステイ）	療養介護	生活介護	施設入所支援	就労系（就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援）	共同生活援助（グループホーム）	相談支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	移動支援	日中一時支援	地域活動支援センター	その他
全体		77	6	6	25	1	9	-	2	3	8	13	16	8	10	4	7
		-	7.8%	7.8%	32.5%	1.3%	11.7%	-	2.6%	3.9%	10.4%	16.9%	20.8%	10.4%	13.0%	5.2%	9.1%
年齢別	0～6歳	27	3	2	4	1	-	-	-	-	2	12	6	4	4	3	3
		-	11.1%	7.4%	14.8%	3.7%	0.0%	-	-	-	7.4%	44.4%	22.2%	14.8%	14.8%	11.1%	11.1%
	7～18歳	33	2	2	14	-	1	-	1	-	3	1	10	2	5	1	4
		-	6.1%	6.1%	42.4%	-	3.0%	-	3.0%	-	9.1%	3.0%	30.3%	6.1%	15.2%	3.0%	12.1%
	19～39歳	17	1	2	7	-	8	-	1	3	3	-	-	2	1	-	-
		-	5.9%	11.8%	41.2%	-	47.1%	-	5.9%	17.6%	17.6%	-	-	11.8%	5.9%	-	-

令和６年度調査

一番利用したいサービスについては「短期入所」が 32.5%で最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が 20.8%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「児童発達支援」が 44.4%と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が 22.2%となっている。【7～18 歳】では「短期入所」が 42.4%と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が 30.3%となっている。【19～39 歳】では「生活介護」が 47.1%と最も多く、次いで「短期入所」が 41.2%となっている。



【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 居宅介護（ヘルパー）	(2) 重度訪問介護	(3) 短期入所	(4) 移動支援	(5) 生活介護	(6) 訪問入浴	(7) 日中一時	(8) 地域活動支援センター	(9) 放課後等デイサービス、児童発達支援	(10) その他	無回答
全体		93	1	6	27	16	6	8	12	2	15	6	29
		100.0	1.1	6.5	29.0	17.2	6.5	8.6	12.9	2.2	16.1	6.5	31.2
年齢別	0～6歳	15	－	1	5	1	－	1	3	1	7	－	3
		100.0	－	6.7	33.3	6.7	－	6.7	20.0	6.7	46.7	－	20.0
	7～18歳	47	1	4	10	9	1	6	7	1	8	6	14
		100.0	2.1	8.5	21.3	19.1	2.1	12.8	14.9	2.1	17.0	12.8	29.8
	19～40歳未満	29	－	1	12	6	4	1	2	－	－	－	11
		100.0	－	3.4	41.4	20.7	13.8	3.4	6.9	－	－	－	37.9
性別	男	46	－	3	15	9	3	4	4	－	6	3	16
		100.0	－	6.5	32.6	19.6	6.5	8.7	8.7	－	13.0	6.5	34.8
	女	39	1	2	11	5	2	3	8	2	7	2	11
		100.0	2.6	5.1	28.2	12.8	5.1	7.7	20.5	5.1	17.9	5.1	28.2

参考：平成 30 年度調査

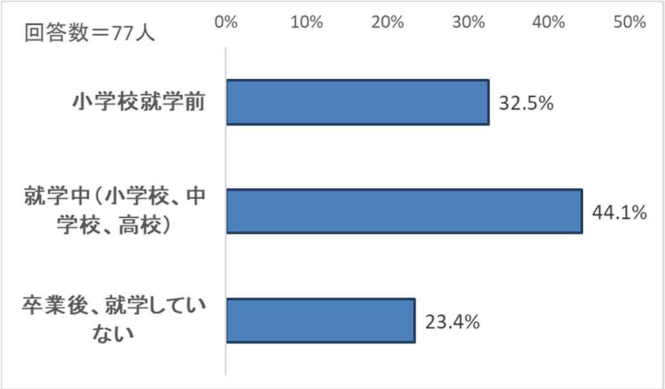
（１０）サービスや支援に関する希望（自由記述）

年齢	主な意見
０歳～６歳	・医療的ケア児や肢体不自由児が利用できる児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所数が少ない。 ・ユニバーサルトイレが少ない。介助ベッドのある多目的トイレを増やして欲しい。 ・土、日、祝日に日中だけでも預かって欲しい。また、きょうだい児も一緒に預かって欲しい。 ・医ケア児の親の交流が少ない気がするので交流の機会を増やすとともに、そのようなイベントの広報を増やして欲しい。 ・レスパイトの利用日数と利用人数の上限を上げて欲しい。 ・医療的ケア児の受入れが可能な特別支援学校が県下に1校しかなく、遠方からの送迎は家族の就労が難しく負担が大きい。公立小学校の支援学級への受入れが各市町に1校でもあればいい。 ・重度訪問介護を、18歳以下も希望すれば利用できるようにして欲しい。 ・手続きをサポートしてくれる人がいて欲しい。
７歳～18歳	・放課後等デイサービスについて、医療的ケアに対応してくれる事業所が少ない。 ・発作も多く転倒するため受入れ先がなかなか見つからず、ショートステイを利用できない。動ける医療的ケア児のショートステイも受け入れして欲しい。 ・公共の施設にある多目的トイレに、オムツ替えのベッドが欲しい。大人に対応したものがあると助かる。 ・基本的に家族の負担で、休みがない。学校やデイサービス以外は頼める場所さえ分からない。 ・サービスを利用したいと思うことはあるが、医療的ケアは命に直結するので、その施設の方を信用して任せることができるようになるまでに時間がかかり勇気が出ない。 ・災害への備えで購入したい物への支援が欲しい。 ・医療的ケア児の母が働ける環境が欲しい。 ・障害者用のプールや身体を動かすリハビリのような習い事が増えて欲しい。 ・金銭的な支援が欲しい。 ・地域で自立した生活が送れるようなサービス（訪問看護、重度訪問介護、訪問診療が連携した）付き賃貸住宅が欲しい。
19歳～39歳	・親が先に居なくなったあと、入所施設で寝たまま、同じ部屋で過ごす事はさせたくない。移動支援や重度訪問介護を使って、外出したり生活介護事業所へ通ったりしながら生活してもらいたい。 ・利用しやすい移動手段があると助かる。 ・日中の生活介護事業所との送迎つきで、短期入所や日中一時を、柔軟な組み合わせで利用できるようにして欲しい。 ・医療型短期入所できる施設が増えて欲しい。 ・生活介護の時間について、帰りの時間が早いのでもう少しみてもらいたい。 ・医療的ケアがある児者でも送迎の支援があればいい。 ・重度の医療的ケア者が通える生活介護事業所が少ないのでもっと増やして欲しい。

5．就園・就学

（１１）就園・就学

①　就学状況



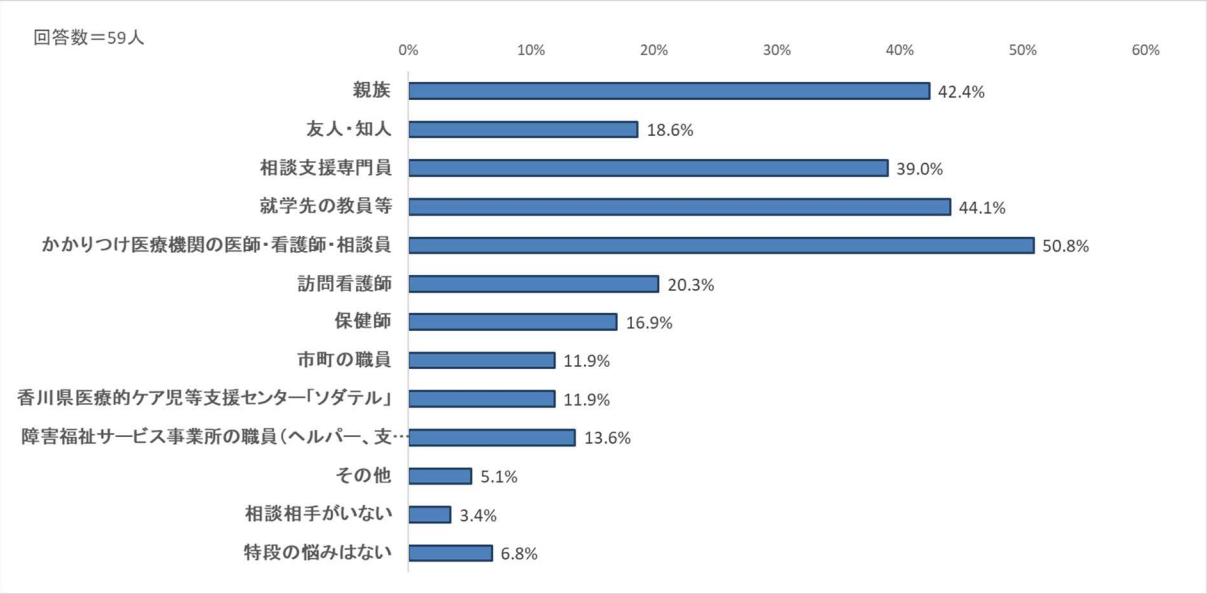
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	小学校就学前	就学中（小学校、中学校、高校）	卒業後、就学していない
全体		77	25	34	18
		100.0%	32.5%	44.1%	23.4%
年齢別	0～6歳	27	24	3	-
		100.0%	88.9%	11.1%	-
	7～18歳	33	1	31	1
		100.0%	3.0%	94.0%	3.0%
	19～39歳	17	-	-	17
		100.0%	-	-	100.0%

令和６年度調査

就学状況については「小学校就学前」が 32.5%、「就学中」が 44.1%、「卒業後、就学していない」が 23.4%となっている。

②　就園・就学にあたっての相談相手（複数回答）

※「小学校就学前」「就学中」を選択した方のみ回答

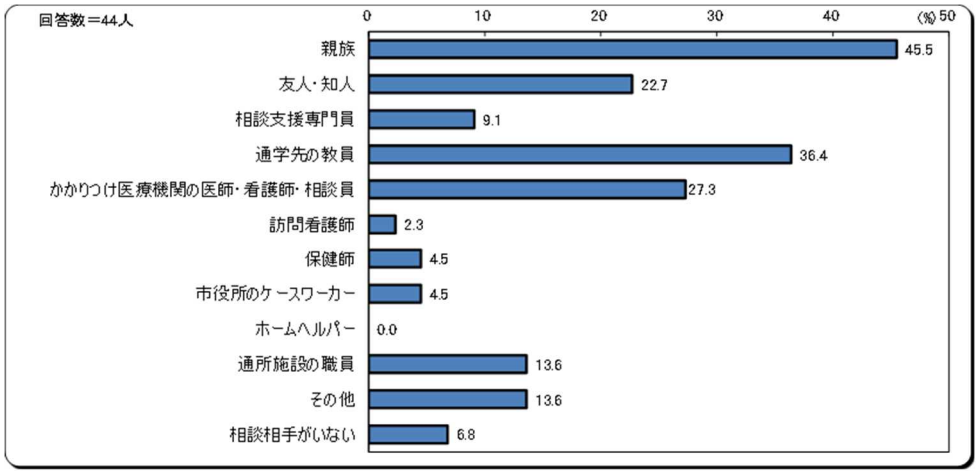


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	親族	友人・知人	相談支援専門員	就学先の教員等	かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員	訪問看護師	保健師	市町の職員	香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」	障害福祉サービス事業所の職員（ヘルパー、支援員等）	その他	相談相手がいない	特段の悩みはない
全体		59	25	11	23	26	30	12	10	7	7	8	3	2	4
		-	42.4%	18.6%	39.0%	44.1%	50.8%	20.3%	16.9%	11.9%	11.9%	13.6%	5.1%	3.4%	6.8%
年齢別	0～6歳	27	9	3	13	12	15	7	8	7	6	4	2	2	1
		-	33.3%	11.1%	48.1%	44.4%	55.6%	25.9%	29.6%	25.9%	22.2%	14.8%	7.4%	7.4%	3.7%
	7～18歳	32	16	8	10	14	15	5	2	-	1	4	1	-	3
		-	50.0%	25.0%	31.3%	43.8%	46.9%	15.6%	6.3%	-	3.1%	12.5%	3.1%	-	9.4%
	19～39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

令和６年度調査

就園・就学にあたっての相談相手については「かかりつけ医」が 50.8%と最も多く、次いで「就学先の教員等」が 44.1%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「かかりつけ医」が 55.6%と最も多く、次いで「相談支援専門員」が 48.1%となっている。【7～18 歳】では「親族」が 50.0%と最も多く、次いで「かかりつけ医」が 46.9%となっている。

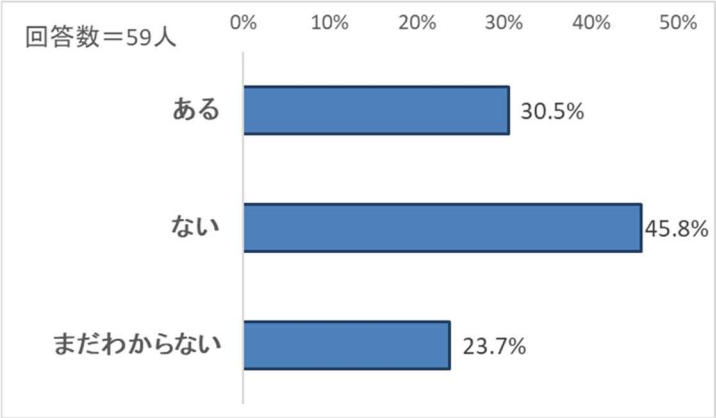


【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 親族	(2) 友人・知人	(3) 相談支援専門員	(4) 通学先の教員	(5) かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員	(6) 訪問看護師	(7) 保健師	(8) 市役所のケースワーカー	(9) ホームヘルパー	(10) 通所施設の職員	(11) その他	(12) 相談相手がいない
全体		44	20	10	4	16	12	1	2	2	－	6	6	3
		100.0	45.5	22.7	9.1	36.4	27.3	2.3	4.5	4.5	－	13.6	13.6	6.8
年齢別	0～6歳	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
		100.0	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－
	7～18歳	42	19	8	4	16	12	1	2	2	－	6	5	3
		100.0	45.2	19.0	9.5	38.1	28.6	2.4	4.8	4.8	－	14.3	11.9	7.1
	19～40歳未満	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		100.0	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性別	男	19	9	5	1	6	6	－	－	－	－	1	3	1
		100.0	47.4	26.3	5.3	31.6	31.6	－	－	－	－	5.3	15.8	5.3
	女	21	8	3	4	9	4	1	1	1	－	5	2	1
		100.0	38.1	14.3	19.0	42.9	19.0	4.8	4.8	4.8	－	23.8	9.5	4.8

参考:平成 30 年度調査

③　就園・就学先での医療的ケア等の悩み

※「小学校就学前」「就学中」を選択した方のみ回答



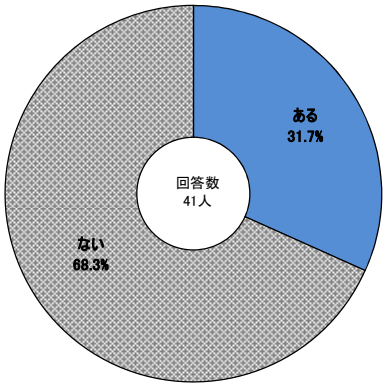
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	ある	ない	まだわからない
全体		59	18	27	14
		100.0%	30.5%	45.8%	23.7%
年齢別	0～6歳	27	11	8	8
		100.0%	40.8%	29.6%	29.6%
	7～18歳	32	7	19	6
		100.0%	21.9%	59.4%	18.7%
	19～39歳	-	-	-	-
		-	-	-	-

令和６年度調査

就園・就学先での医療的ケア等の悩みについては「ない」が 45.8%と最も多い。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「ある」が 40.8%と最も多く、【7～18 歳】では「ない」が 59.4%と最も多い。

「ある」と回答した方からは「医療的ケアを要することから就園先、就学先が決まらない」「医師の指示書が全てで臨機応変な対応をしてくれない」「他の子どもと一緒に生活できるか不安」「医療行為に関する周りからの反応が気になる」などの意見があった。

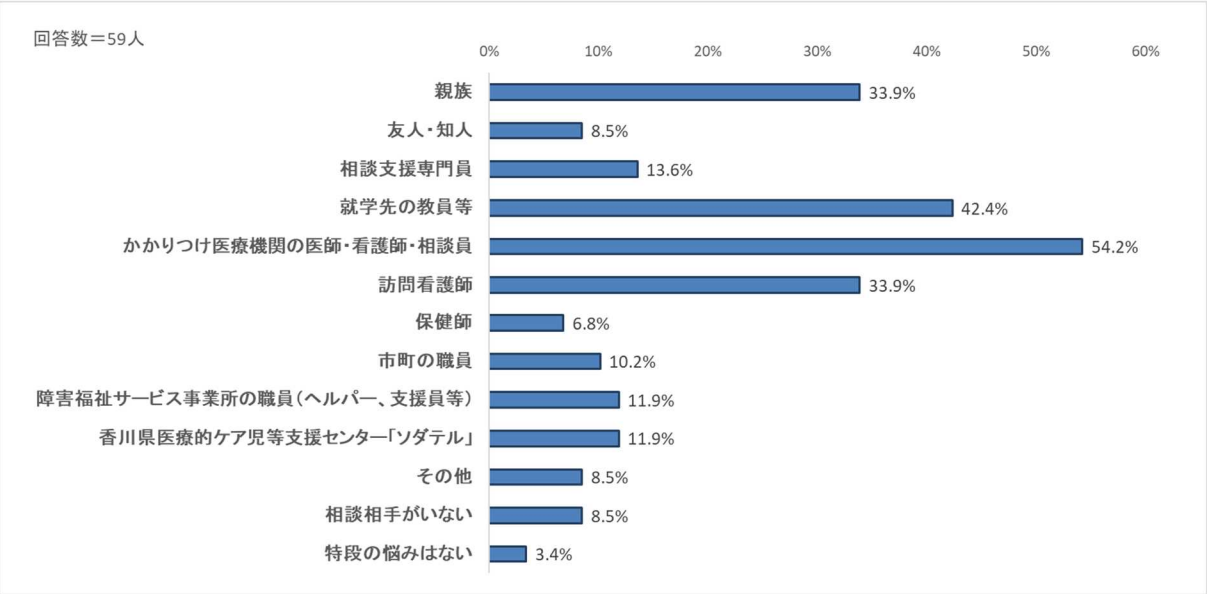


【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) ある	(2) ない
全体		41	13	28
		100.0	31.7	68.3
年齢別	0～6歳	1	－	1
		100.0	－	100.0
	7～18歳	40	13	27
		100.0	32.5	67.5
	19～40歳未満	－	－	－
		－	－	－
性別	男	19	7	12
		100.0	36.8	63.2
	女	19	4	15
		100.0	21.1	78.9

参考:平成 30 年度調査

④　就園・就学先での医療的ケア等の相談相手（複数回答）

※「小学校就学前」「就学中」を選択した方のみ回答

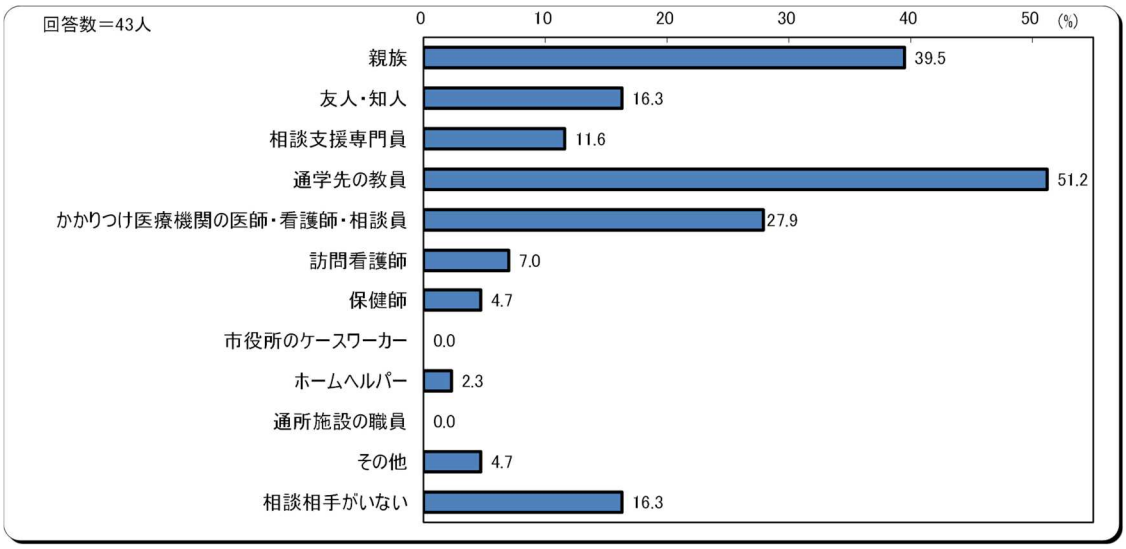


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	親族	友人・知人	相談支援専門員	就学先の教員等	かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員	訪問看護師	保健師	市町の職員	障害福祉サービス事業所の職員（ヘルパー、支援員等）	香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」	その他	相談相手がいない	特段の悩みはない
全体		59	20	5	8	25	32	20	4	6	7	7	5	5	2
		-	33.9%	8.5%	13.6%	42.4%	54.2%	33.9%	6.8%	10.2%	11.9%	11.9%	8.5%	8.5%	3.4%
年齢別	0～6歳	27	8	-	4	11	14	10	3	4	5	7	3	3	1
		-	29.6%	-	14.8%	40.7%	51.9%	37.0%	11.1%	14.8%	18.5%	25.9%	11.1%	11.1%	3.7%
	7～18歳	32	12	5	4	14	18	10	1	2	2	-	2	2	1
		-	37.5%	15.6%	12.5%	43.8%	56.3%	31.3%	3.1%	6.3%	6.3%	-	6.3%	6.3%	3.1%
	19～39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

令和６年度調査

就園・就学先での医療的ケア等の相談相手については「かかりつけ医」が 54.2%と最も多く、次いで「就学先の教員等」が 42.4%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「かかりつけ医」が 51.9%と最も多く、次いで「就学先の教員等」が 40.7%となっている。【7～18 歳】では「かかりつけ医」が 56.3%と最も多く、次いで「就学先の教員等」が 43.8%となっている。

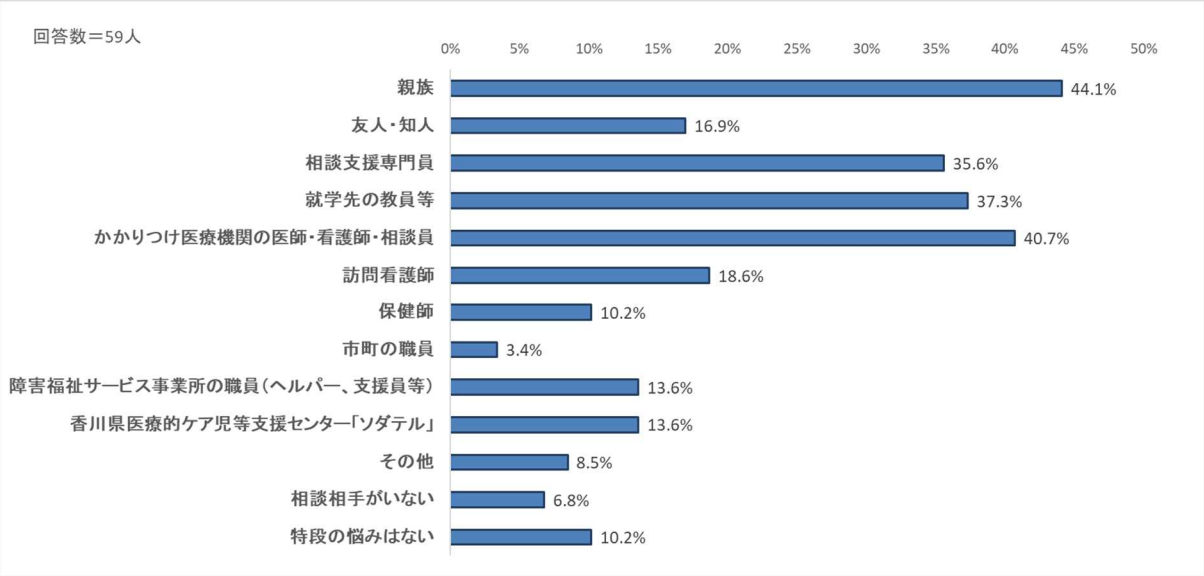


【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 親族	(2) 友人・知人	(3) 相談支援専門員	(4) 通学先の教員	(5) かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員	(6) 訪問看護師	(7) 保健師	(8) 市役所のケースワーカー	(9) ホームヘルパー	(10) 通所施設の職員	(11) その他	(12) 相談相手がいない
全体		43	17	7	5	22	12	3	2	－	1	－	2	7
		100.0	39.5	16.3	11.6	51.2	27.9	7.0	4.7	－	2.3	－	4.7	16.3
年齢別	0～6歳	1	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		100.0	－	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	7～18歳	42	17	6	4	22	12	3	2	－	1	－	2	7
		100.0	40.5	14.3	9.5	52.4	28.6	7.1	4.8	－	2.4	－	4.8	16.7
	19～40歳未満	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
性別	男	19	8	4	1	11	3	2	－	－	1	－	－	4
		100.0	42.1	21.1	5.3	57.9	15.8	10.5	－	－	5.3	－	－	21.1
	女	21	7	2	4	10	6	1	2	－	－	－	2	2
		100.0	33.3	9.5	19.0	47.6	28.6	4.8	9.5	－	－	－	9.5	9.5

参考:平成 30 年度調査

⑤　卒業後の進路選択にあたっての相談相手（複数回答）

※「小学校就学前」「就学中」を選択した方のみ回答

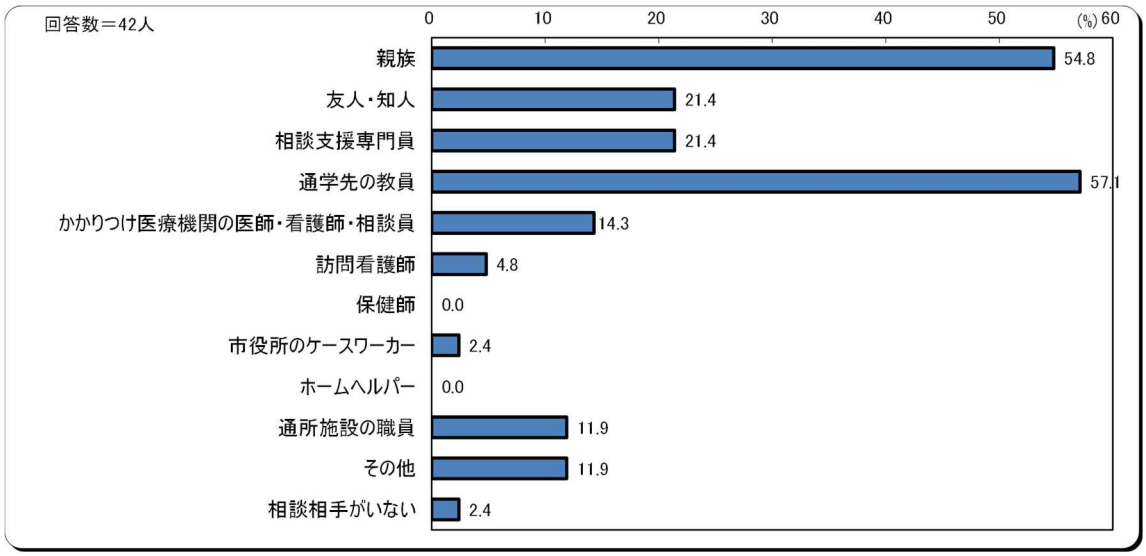


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	親族	友人・知人	相談支援専門員	就学先の教員等	かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員	訪問看護師	保健師	市町の職員	障害福祉サービス事業所の職員（ヘルパー、支援員等）	香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」	その他	相談相手がいない	特段の悩みはない
全体		59	26	10	21	22	24	11	6	2	8	8	5	4	6
		-	44.1%	16.9%	35.6%	37.3%	40.7%	18.6%	10.2%	3.4%	13.6%	13.6%	8.5%	6.8%	10.2%
年齢別	0～6歳	27	13	3	9	9	12	7	5	1	5	7	4	2	2
		-	48.1%	11.1%	33.3%	33.3%	44.4%	25.9%	18.5%	3.7%	18.5%	25.9%	14.8%	7.4%	7.4%
	7～18歳	32	13	7	12	13	12	4	1	1	3	1	1	2	4
		-	40.6%	21.9%	37.5%	40.6%	37.5%	12.5%	3.1%	3.1%	9.4%	3.1%	3.1%	6.3%	12.5%
	19～39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

令和６年度調査

卒業後の進路選択にあたっての相談相手については「親族」が 44.1%と最も多く、次いで「かかりつけ医」が 40.7%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「親族」が 48.1%と最も多く、次いで「かかりつけ医」が 44.4%となっている。【7～18 歳】では「親族」「就学先の教員等」が 40.6%と最も多く、次いで「相談支援専門員」「かかりつけ医」が 37.5%となっている。



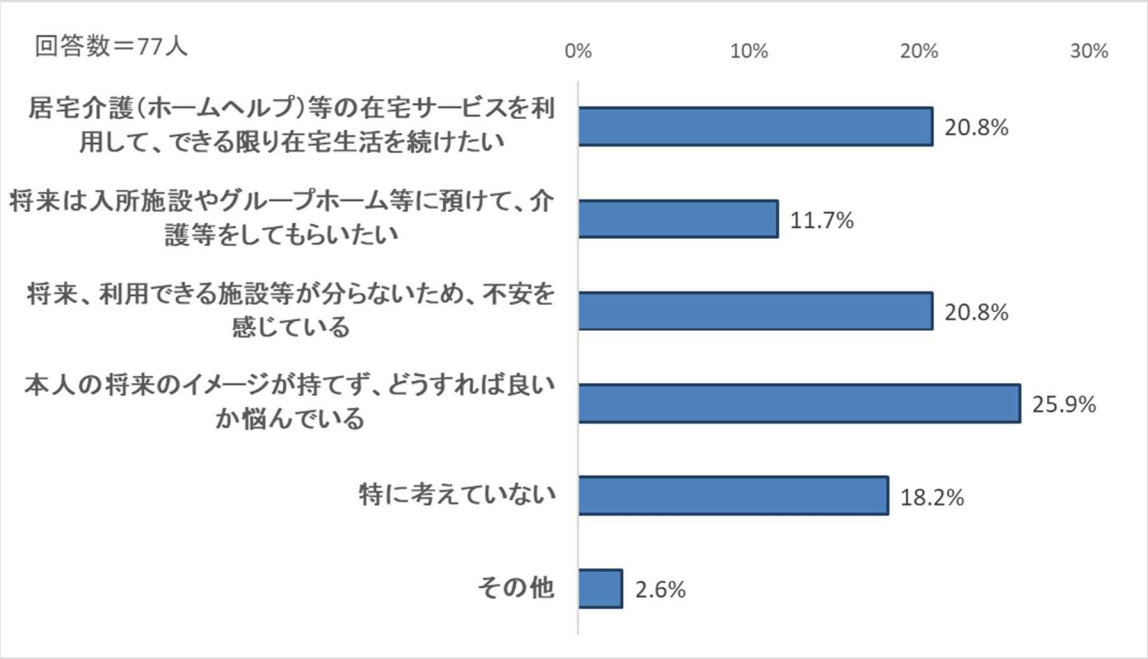
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 親族	(2) 友人・知人	(3) 相談支援専門員	(4) 通学先の教員	(5) かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員	(6) 訪問看護師	(7) 保健師	(8) 市役所のケースワーカー	(9) ホームヘルパー	(10) 通所施設の職員	(11) その他	(12) 相談相手がいない
全体		42	23	9	9	24	6	2	－	1	－	5	5	1
		100.0	54.8	21.4	21.4	57.1	14.3	4.8	－	2.4	－	11.9	11.9	2.4
年齢別	0～6歳	1	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		100.0	－	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	7～18歳	39	23	8	8	23	6	2	－	1	－	5	4	1
		100.0	59.0	20.5	20.5	59.0	15.4	5.1	－	2.6	－	12.8	10.3	2.6
	19～40歳未満	2	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－
		100.0	－	－	－	50.0	－	－	－	－	－	－	50.0	－
性別	男	17	10	5	3	9	2	1	－	－	－	3	－	1
		100.0	58.8	29.4	17.6	52.9	11.8	5.9	－	－	－	17.6	－	5.9
	女	23	11	3	6	14	4	1	－	1	－	1	5	－
		100.0	47.8	13.0	26.1	60.9	17.4	4.3	－	4.3	－	4.3	21.7	－

参考:平成 30 年度調査

（１２）就園・就学に関する意見（自由記述）

年齢	主な意見
０歳～６歳	・受入れ先が限られるので就園できるかどうか不安。いつから動けば良いか分からない。 ・もっと多くの園や学校でハード面のバリアフリーや、人材確保が進むとありがたい。 ・私立のこども園に入園に関する相談をしたところ、対応が難しい旨の反応が返ってくる（そのようなことはしていない、看護師の確保等の見通しが立たないなど）。もし受け入れたら、その分メリットを得られる仕組みを公的に提示できれば、問題が改善すると思う。 ・受け入れてくれる園がない。保育所等では病気がうつりやすく、医療的ケアが必要な子は重篤化しやすいので、病気をもらってくることも怖い。 ・幼稚園については、親の付き添いが必要、遅刻等がある場合は看護師派遣の迷惑をかけるため欠席して欲しいとの話があり、睡眠障害、行き渋りがあった我が子は登園しづらく、ソダテルに間に入ってもらった。 ・本人にとって、地域の学校の特別支援学級がいいのか、特別支援学校が良いのかを決めかねている。 ・医療的ケアの必要な病弱児が通学できる特別支援学校が県下で1校しかないことが残念。自宅から自家用車での通学が遠く、家族の送迎の負担が大きい。 ・特別支援学校や放課後等デイサービスなど、見学する先が多い。一人ひとり家族構成や障害等必要な支援は違うとは思うが、何種類かのモデルケースの年間スケジュールがあれば、助かる人は増えると思う。 ・４月から入学する小学校での対応や受入れ体制、また親の関わり方などいつぐらいの時期に見えてくるのか分からないことが不安。 ・特別支援学校の見学などは良いが入園、入学手続き、話し合いが繰り返しあるので、もう少し回数を減らすか、オンラインなどを活用して欲しい。
７歳～18歳	・訪問学習生のため、週３回先生が訪問により授業をしてくれるが、医療的ケアは家族が行うため、子どもから離れる時間が皆無。学校看護師も来てくれると、通学する時も不安がないし、親にも時間ができるのに、と思う。 ・島にも特別支援学校ができ、就学の選択肢が増えたことは嬉しいが､高等部がないなど、まだまだ発展させていく余地があると思う。 ・高校生になり、必要な医療的ケアを本人ができるが、幼稚園や小学生の時は、親が毎日注射しに行く必要があった。保健室も保健室登校の児童で一杯で注射場所に使えないこともあり、担任の先生も養護の先生も忙しそうで、できないと言われれば、それ以上お願いすることは難しかった。各学校に看護師の資格のある方がいると、とても助かる。 ・分かりにくい病気を理解してもらう難しさがあった。
19歳～39歳	・高等部卒業の前後は身体の状態が変化する時期で、大学等へ行く選択肢はなかった。本人の知的状態を知る方法もなく、どこまで理解していたのかも分からない。

（１３）将来の介護の意向

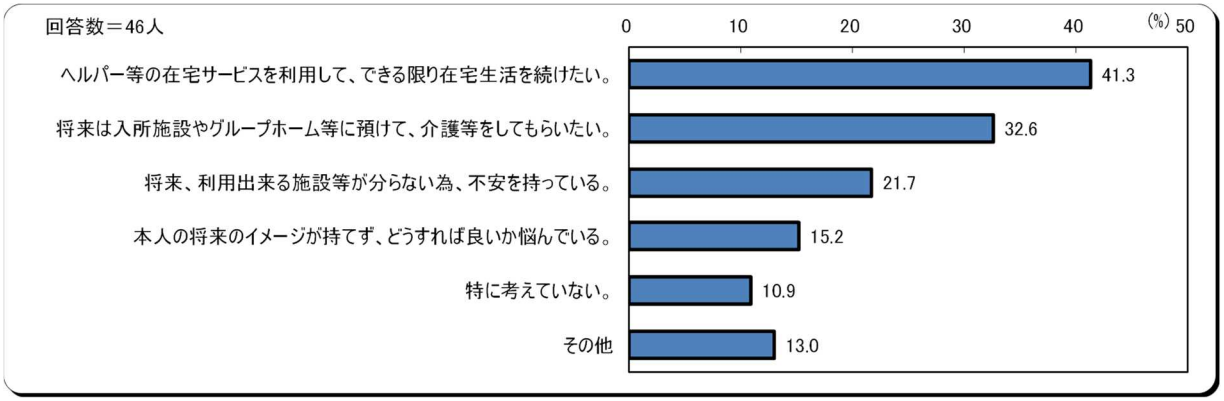


【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	居宅介護（ホームヘルプ）等の在宅サービスを利用して、できる限り在宅生活を続けたい	将来は入所施設やグループホーム等に預けて、介護等をしてもらいたい	将来、利用できる施設等が分らないため、不安を感じている	本人の将来のイメージが持てず、どうすれば良いか悩んでいる	特に考えていない	その他
全体		77	16	9	16	20	14	2
		100.0%	20.8%	11.7%	20.8%	25.9%	18.2%	2.6%
年齢別	0～6歳	27	3	2	4	10	6	2
		100.0%	11.1%	7.4%	14.8%	37.1%	22.2%	7.4%
	7～18歳	33	3	4	9	9	8	-
		100.0%	9.1%	12.1%	27.3%	27.3%	24.2%	-
	19～39歳	17	10	3	3	1	-	-
		100.0%	58.9%	17.6%	17.6%	5.9%	-	-

令和６年度調査

主たる介護者が高齢になった場合等、将来の本人の介護等の意向については「本人の将来のイメージが持てず、どうすれば良いか悩んでいる」が 26.0%と最も多く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）等の在宅サービスを利用して、できる限り在宅生活を続けたい」「将来、利用できる施設等が分らないため、不安を感じている」がともに 20.8%となっている。

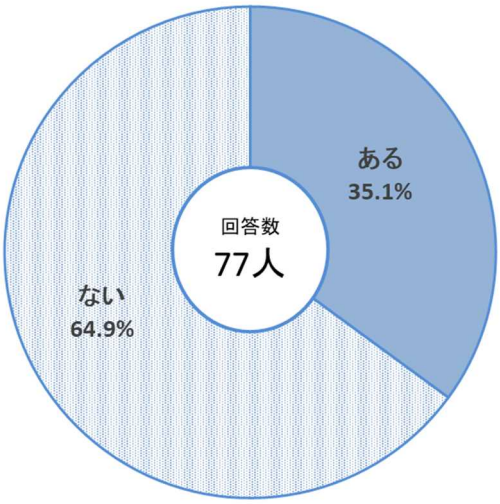
年齢別にみると、【0～6 歳】では「本人の将来のイメージが持てず、どうすれば良いか悩んでいる」が 37.0%、【7～18 歳】では「将来、利用できる施設等が分らないため、不安を感じている」「本人の将来のイメージが持てず、どうすれば良いか悩んでいる」が 27.3%、【19～39 歳】では「居宅介護（ホームヘルプ）等の在宅サービスを利用して、できる限り在宅生活を続けたい」が 58.8%と最も多くなっている。



【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) ヘルパー等の在宅サービスを利用して、できる限り在宅生活を続けたい。	(2) 将来は入所施設やグループホーム等に預けて、介護等をしてもらいたい。	(3) 将来、利用出来る施設等が分らない為、不安を持っている。	(4) 本人の将来のイメージが持てず、どうすれば良いか悩んでいる。	(5) 特に考えていない。	(6) その他
全体		46	19	15	10	7	5	6
		100.0	41.3	32.6	21.7	15.2	10.9	13.0
年齢別	0～6歳	4	1	－	－	1	1	1
		100.0	25.0	－	－	25.0	25.0	25.0
	7～18歳	20	6	3	4	5	4	4
		100.0	30.0	15.0	20.0	25.0	20.0	20.0
	19～40歳未満	22	12	12	6	1	－	1
		100.0	54.5	54.5	27.3	4.5	－	4.5
性別	男	21	7	10	6	3	1	1
		100.0	33.3	47.6	28.6	14.3	4.8	4.8
	女	23	11	6	3	2	4	5
		100.0	47.8	26.1	13.0	8.7	17.4	21.7

参考:平成 30 年度調査

（１４）親同士の「交流の場」



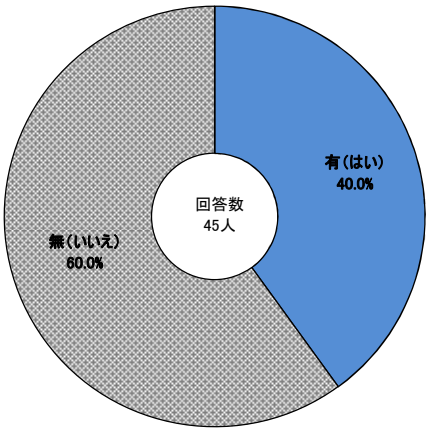
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	ある	ない
全体		77	27	50
		100.0%	35.1%	64.9%
年齢別	0～6歳	27	12	15
		100.0%	44.4%	55.6%
	7～18歳	33	8	25
		100.0%	24.2%	75.8%
	19～39歳	17	7	10
		100.0%	41.2%	58.8%

令和６年度調査

親同士の「交流の場」については「ない」が 64.9%と多い。

年齢別にみても、「ない」が多く、【0～6 歳】では 55.6%、【7～18 歳】75.8%、【19～39 歳】では 58.8%となっている。

「ある」と回答した方からは「学校」「児童発達支援」「友人とのランチ」「香川県肢体不自由児者と父母の会連合会」「NPO 法人子育てネットくすくす」「香川県医療的ケア児等家族会　Ripple 香川」「香川県医療的ケア児等支援センターソダテル」などの意見があった。

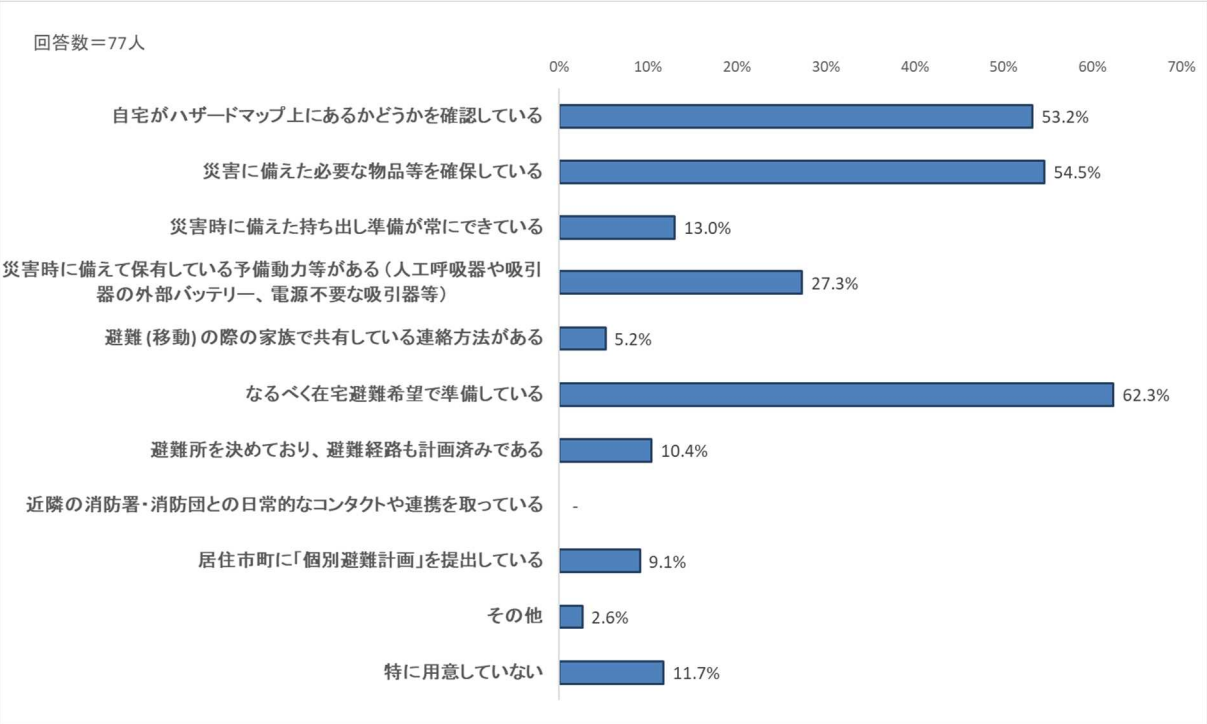


【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	(1) 有（はい）	(2) 無（いいえ）
全体		45	18	27
		100.0	40.0	60.0
年齢別	0～6歳	1	1	－
		100.0	100.0	－
	7～18歳	44	17	27
		100.0	38.6	61.4
	19～40歳未満	－	－	－
		－	－	－
性別	男	20	8	12
		100.0	40.0	60.0
	女	22	8	14
		100.0	36.4	63.6

参考:平成 30 年度調査

６．災害時の対策

（１５）災害時の対策について（複数回答）



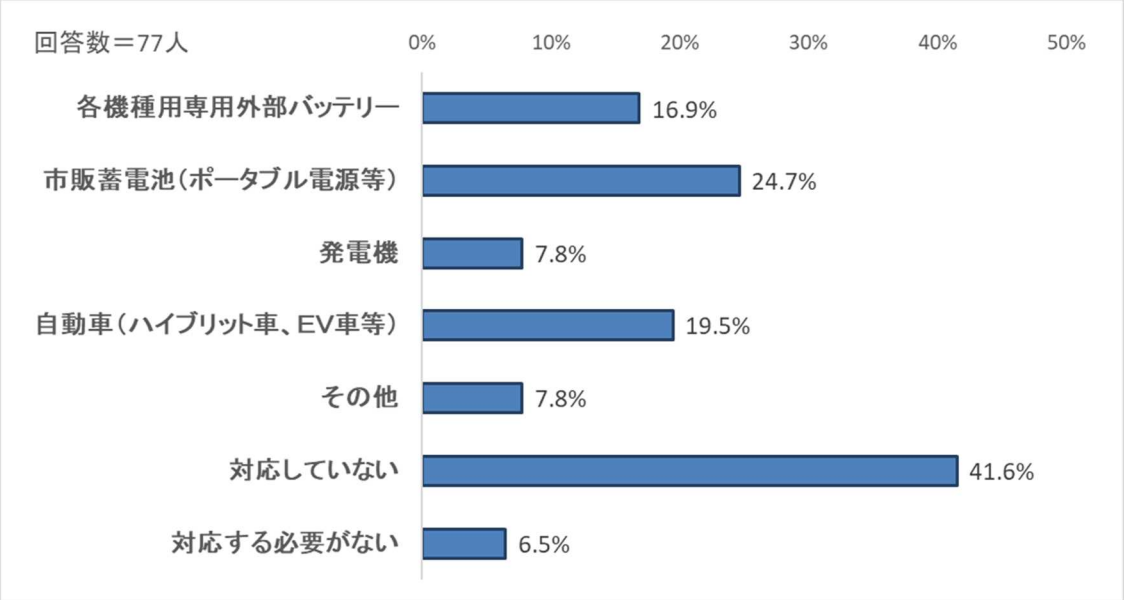
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	自宅がハザードマップ上にあるかどうかを確認している	災害に備えた必要な物品等を確保している	災害時に備えた持ち出し準備が常にできている	災害時に備えて保有している予備動力等がある（人工呼吸器や吸引器の外部バッテ	避難（移動）の際の家族で共有している連絡方法がある	なるべく在宅避難希望で準備している	避難所を決めており、避難経路も計画済みである	近隣の消防署・消防団との日常的なコンタクトや連携を取っている	居住市町に「個別避難計画」を提出している	その他	特に用意していない
全体		77	41	42	10	21	4	48	8	-	7	2	9
		-	53.2%	54.5%	13.0%	27.3%	5.2%	62.3%	10.4%	-	9.1%	2.6%	11.7%
年齢別	0～6歳	27	15	16	3	8	2	17	2	-	3	-	2
		-	55.6%	59.3%	11.1%	29.6%	7.4%	63.0%	7.4%	-	11.1%	-	7.4%
	7～18歳	33	16	15	5	5	2	19	2	-	2	2	5
		-	48.5%	45.5%	15.2%	15.2%	6.1%	57.6%	6.1%	-	6.1%	6.1%	15.2%
	19～39歳	17	10	11	2	8	-	12	4	-	2	-	2
		-	58.8%	64.7%	11.8%	47.1%	-	70.6%	23.5%	-	11.8%	-	11.8%

令和６年度調査

災害時の対策について、「なるべく在宅避難希望で準備している」が 62.3%と最も多く、次いで「災害に備えた必要な物品等を確保している」が 54.5%となっている。

年齢別にみても、「なるべく在宅避難希望で準備している」が最も多く、【0～6 歳】では 63.0%、【7～18 歳】では 57.6%、【19～39 歳】では 70.6%となっている。

（１６）災害時の非常用電源（複数回答）



【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	各機種用専用外部バッテリー	市販蓄電池（ポータブル電源等）	発電機	自動車（ハイブリット車、EV車等）	その他	対応していない	対応する必要がない
全体		77	13	19	6	15	6	32	5
		-	16.9%	24.7%	7.8%	19.5%	7.8%	41.6%	6.5%
年齢別	0～6歳	27	6	9	-	3	1	9	3
		-	22.2%	33.3%	-	11.1%	3.7%	33.3%	11.1%
	7～18歳	33	2	3	4	5	3	19	2
		-	6.1%	9.1%	12.1%	15.2%	9.1%	57.6%	6.1%
	19～39歳	17	5	7	2	7	2	4	-
		-	29.4%	41.2%	11.8%	41.2%	11.8%	23.5%	-

令和６年度調査

災害時の非常用電源について、「対応していない」が 41.6%と最も多く、次いで「市販蓄電池」が 24.7%となっている。

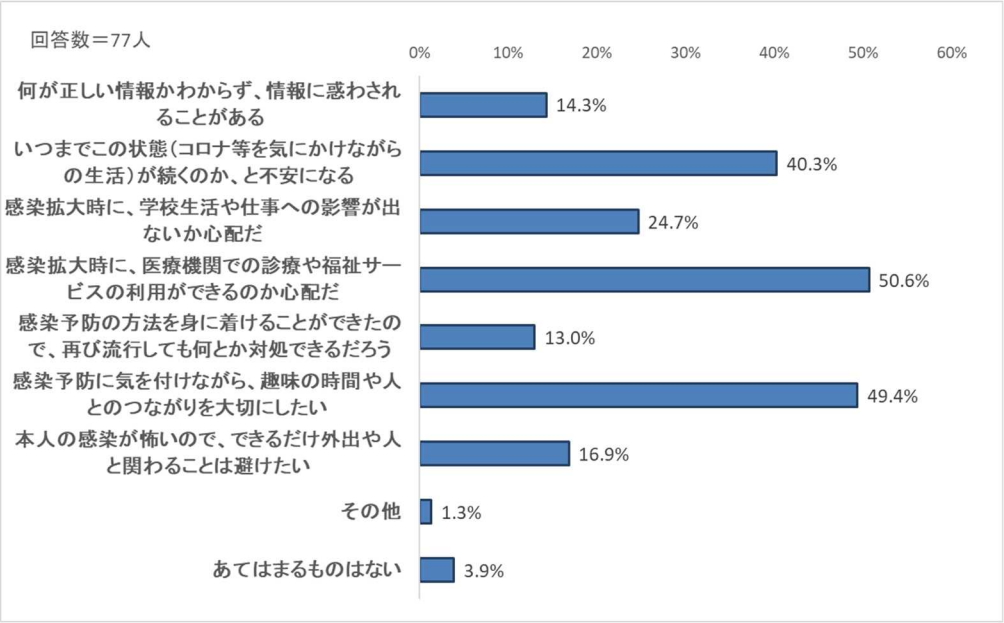
年齢別にみると、【0～6 歳】では「市販蓄電池」「対応していない」が 33.3%と最も多くなっている。【7～18 歳】では「対応していない」が 57.6%と最も多くなっている。【19～39 歳】では「市販蓄電池」「自動車」が 41.2%と最も多くなっている。

（１７）災害対策に関する意見（自由記述）

年齢	主な意見
０歳～６歳	・電源は早めに確保しなければならないと思っている。 ・体調を崩しても、専門医に診てもらうことが難しいと思われる。避難施設に、遠隔医療診断が可能な機材があると良い。 ・何を準備すればいいか分からない。 ・物資や情報を得るために避難所に行く必要があるが、自閉症傾向があり、避難所で落ち着いて過ごせるか不安。 ・家族全員が家にいる時に何かあれば、自宅避難になるが、最近日中はいろいろな施設に預かってもらえているので、離れている時に何かあった場合の対応ができておらず心配。 ・災害時の非常電源のために市販の蓄電池を実費で購入したが、ソーラーパネルもセットで購入も考えている。安価なものではないので補助金があれば良い。 ・感染症等のリスクが高いため、自宅避難を考えている。 ・事前に準備していても、災害が長期化した場合で、常備薬や導尿に必要なカテーテル等が不足した時、調達方法を確認できていないのが不安。
７歳～18歳	・呼吸器や精製水、酸素、注入時に使用するシリンジやカテーテル等、必要な物が多過ぎて、日頃から避難用に荷物をまとめられない。 ・市販の蓄電池を購入しようとしたら、医療機器用ではないと言われて、どれを購入すればよいか分からない。 ・避難所でのオムツ替え等プライバシーの問題が大きい。近くの避難所でも車での移動が必要であり、施設内の車いすでの移動ができない。 ・元々住んでいた訳でなく、知り合いも少ないため、避難時に助けてもらう人もおらず、登録もできてない。 ・たくさん医療機器か必要で、感染症に弱いので避難はできないことが不安。 ・医療的ケア児に必要な物品を置くことができる場所(学校以外)を少しでも確保してくれたら安心。市役所や消防、学校などと連携を取れる機会を作って欲しい。 ・どこに避難したらいいのか、避難時に移動も難しいのではないか、持ち出しも多過ぎて無理かもと思うと、在宅避難しか選択肢がない。 ・在宅酸素や吸引器の電源確保ができていない。 ・停電や物流のストップが長引くと、酸素ボンベ等が不足し、体調への影響が懸念される。
19歳～39歳	・介護者一人では酸素や吸引器や、注入物品などたくさんの荷物を持っての移動は、外出はもちろん、家の２階に避難することさえ困難で不安。 ・避難場所に発電機はあるが、本人の近くで作動させることは不可能。移動式のバッテリーは稼働時間が少ないので、大きなサイズも買っているが、避難所までは持っていけない。災害時車いすに移動できるか、車いすが家から出られるかなど考え、在宅避難も選択肢に入れている。 ・外部電源、医療的ケアの物品の確保などが心配である。 ・インスリンは3種類使っているが、冷蔵庫保存で、外出先では手持ちのもののみになる。針もそんなに持ち歩いておらず心配。 ・災害時集団での避難生活だけは避けたい。 ・車いすを押して行けるのかなど避難所に行くのも難しいと思うし、行ったとしても叫んだり、オムツ替え時の匂いが気になるなどその場に居づらい。医療的にも心配なので家族とともに病院で受け入れてもらえると安心。

7．コロナ等新興感染症

（１８）コロナ等新興感染症流行以降、気にかけていること（複数回答）



【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	何が正しい情報かわからず、情報に惑わされることがある	いつまでこの状態（コロナ等を気にかけながらの生活）が続くのか、と不安になる	感染拡大時に、学校生活や仕事への影響が出ないか心配だ	感染拡大時に、医療機関での診療や福祉サービスの利用ができるのか心配だ	感染予防の方法を身に着けることができたので、再び流行しても何とか対処できるだろう	感染予防に気を付けながら、趣味の時間や人とのつながりを大切にしたい	本人の感染が怖いので、できるだけ外出や人と関わることは避けたい	その他	あてはまるものはない
全体		77	11	31	19	39	10	38	13	1	3
		-	14.3%	40.3%	24.7%	50.6%	13.0%	49.4%	16.9%	1.3%	3.9%
年齢別	0～6歳	27	5	11	8	17	5	12	3	-	2
		-	18.5%	40.7%	29.6%	63.0%	18.5%	44.4%	11.1%	-	7.4%
	7～18歳	33	4	12	9	13	2	15	6	-	1
		-	12.1%	36.4%	27.3%	39.4%	6.1%	45.5%	18.2%	-	3.0%
	19～39歳	17	2	8	2	9	3	11	4	1	-
		-	11.8%	47.1%	11.8%	52.9%	17.6%	64.7%	23.5%	5.9%	-

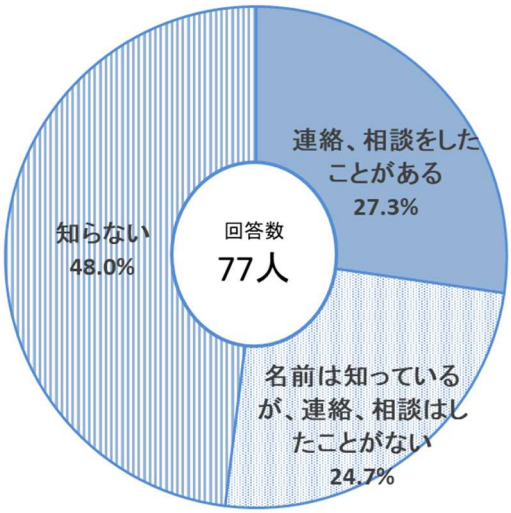
令和６年度調査

コロナ等新興感染症流行以降、気にかけていることについて、「感染拡大時に、医療機関での診療や福祉サービスの利用ができるのか心配だ」が 50.6%と最も多く、次いで「感染予防に気を付けながら、趣味の時間や人とのつながりを大切にしたい」が 49.4%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「感染拡大時に、医療機関での診療や福祉サービスの利用ができるのか心配だ」が 63.0%と最も多く、次いで「感染予防に気を付けながら、趣味の時間や人とのつながりを大切にしたい」が 44.4%となっている。【7～18 歳】では「感染予防に気を付けながら、趣味の時間や人とのつながりを大切にしたい」が 45.5%と最も多く、次いで「感染拡大時に、医療機関での診療や福祉サービスの利用ができるのか心配だ」が 39.4%となっている。【19～39 歳】では「感染予防に気を付けながら、趣味の時間や人とのつながりを大切にしたい」が 64.7%と最も多く、次いで「感染拡大時に、医療機関での診療や福祉サービスの利用ができるのか心配だ」が 52.9%となっている。

８．香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」等

（１９）香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」



【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	連絡、相談をしたことがある	名前は知っているが、連絡、相談はしたことがない	知らない
全体		77	21	19	37
		100.0%	27.3%	24.7%	48.0%
年齢別	0～6歳	27	13	4	10
		100.0%	48.2%	14.8%	37.0%
	7～18歳	33	5	10	18
		100.0%	15.2%	30.3%	54.5%
	19～39歳	17	3	5	9
		100.0%	17.6%	29.4%	53.0%

令和６年度調査

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」について、「知らない」が 48.0%と最も多く、次いで「連絡、相談をしたことがある」が 27.3%となっている。

年齢別にみると、【0～6 歳】では「連絡、相談をしたことがある」が 48.2%と最も多く、次いで「知らない」が 37.0%となっている。【7～18 歳】では「知らない」が 54.5%と最も多く、次いで「名前は知っているが、連絡、相談はしたことがない」が 30.3%となっている。【19～39 歳】では「知らない」が 52.9%と最も多く、次いで「名前は知っているが、連絡、相談はしたことがない」が 29.4%となっている。

（２０）香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」への意見（自由記述）

年齢	主な意見
０歳～６歳	・何か相談ごとがあれば、親身に聞いていただき、大変心強く感じている。一度、園への講演を依頼したことがあるが、他の医療的ケア児や障害児が通う園や学校においても、そうした機会が持てると良い。 ・通園についての相談に乗っていただき心が軽くなった。自閉症などの障害についての対応や相談できる場所はいろいろあるが、病気の大変さについて理解してもらえる場所は少なく、ソダテルには感謝している。 ・そんな施設があるのすら知らなかった。病院、市役所などでもそういう場所があることを知りたかった。もっと積極的に宣伝してほしい。 ・就学のことでとてもお世話になった。県下ではソダテルについて知らない方もいると思うので、もっと広く知ってもらえるといい。 ・障害者と家族の集まりに参加させていただいた。私や家族、障害児本人にとっても充実した時間を過ごせた。（自分以外の車いすの人、大人とかと出会ってなにかしら良い刺激を受けていた） ・子どもの病気が分かりそれでも在宅で家族が揃って暮らせないか一番不安だった時に直接会って相談にのっていただき、いろいろな助言や情報を教えてくれた。精神的にも一番辛い時に話を聞いてくれて、何とか乗り越えることができた。
７歳～18歳	・今後も情報発信などして欲しい。 ・メールの登録だけしている。相談はしたことないが、ソダテルがあることで医ケア児が生活しやすくなって欲しい。 ・相談はしたことはあるが、受入れ先のショートは見つからなかった。
19歳～39歳	・交流がないため、もっと情報発信をして欲しい。 ・コロナが流行った初めの頃、病院や訪問看護も受け入れてもらえず困っているところ唯一来ていただいた。以降もいろいろアドバイスをいただき大変心強い存在。 ・子どもがコロナに感染した時にいろいろお世話になった。その後生活介護や訪問看護等でもお世話になっている。

（２１）医療的ケアを必要とする方やご家族への支援策などの意見（自由記述）

年齢	主な意見
０歳～６歳	・医療的ケア児といってもケアは一人ひとり違うと思う。 ・市町の職員は数年で異動するため、質問しても全く違う答えが返ってきたり、知らないと言われたりする。全員が平等にサービスを受けれるようにして欲しい。 ・家族のレスパイトが必要ではないか。利用できる福祉サービスを充実させるとともに相談事業所や担当保健師から情報を得られたらいい。また、家族の就労や社会に出る機会を設けたり、家族以外の会話が成立する大人と話をする機会が増えればと思う。 ・小児慢性受給者証の更新について、更新のために必要な医師の意見書代を負担することに不満を感じる。小児慢性受給者証を作らなくても、日頃の治療費は子ども医療証で賄える。 ・この問題の支援に関して、ものすごく難しいと思う。まずは今回行われているような実態調査及び信頼関係の構築が大切。SNS全盛の時代だが最後にはやっぱり人と人のつながりだと感じている。 ・子どもがいる親は働きざかりの世代なのに、子どもだから親が面倒を見るのが当たり前との前提でルールが作られているのがおかしい。 ・介護を任せられる人が他にいないので、家族や親族の考え方をこれから変えていきたいと思うが上手くいくか不安。 ・厳密には「医療的ケア」が常時必要な状況ではないが、重度の肢体不自由があり、日常的に介助や継続的なリハビリ通院が必要。医ケア法が成立して、随分理解が進んできたとは思うが、今度は常時医療的ケアのない重度障害児が制度のはざまのように捉えられる印象も受ける。
７歳～18歳	・まだまだサービス等が不十分で､地域格差もあり、サービスを利用したくてもできない場合がある。 ・何かと収入で制限され、きょうだいや介護が必要な親がいるが、全く余裕がない。働きたくても、ケアが必要で休む必要があり続けられない等、本当につらい。非課税まで、働かない方が良いのかと考えてしまう。 ・特別支援学校に看護師や医師を配置し、リハビリをもっと増やして欲しい。 ・市役所などを手続き等で利用しても、対応する方が無知なこともある。知識を得るため、医療的ケアの現場をみることも必要なのではないかと思う。 ・医療的ケアが必要かつ少し動けるケア児のため、なかなか受入れ先がなく、ショート先が見つからない。介護者が体調悪くても代われる人もいない。
19歳～39歳	・以前利用していたヘルパー事業所に看護師がいないので、居宅介護が使えない。 ・グループホームなどの説明会では、インスリンには対応しておらず、今後もその予定はないと言われることが多い。親の方も誰かに託す覚悟がなく、なんとなく将来を不安に思ってるだけで、具体的な行動をとっていない。 ・今の一番の不安はいつまで介護できるのか。自分の体力も低下してきている中、両親のこと、仕事もありいっぱいいっぱいの状況。かと言って施設入所も考えられず、一緒にいる時間もありつつ、私達親のすべきこともできる時間も確保しつつ過ごせることが理想。 ・親が元気なうちはなかった問題が少しずつ出て来ている。子どもの介護に加え祖父母の介護もあり自分達の時間なんていつ取れるのか？と諦めモード。子育てには成人という終わりがあるが、障害児介護は障害者介護に移行するだけでずっと継続していく。終わりのないトンネルを歩み続けるのも限界が見えている。しかし施設だけでなく介護に携わる人たちが増えないと実現できない。

第４章
『医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査』の結果

第4章 『医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査』の結果

１．医療的ケア児等に対するサービス提供の実施状況

（１）事業種別

事業種別	回答数	
全体	158	100.0%
居宅介護	14	8.9%
重度訪問介護	4	2.5%
生活介護	18	11.4%
短期入所	4	2.5%
就労移行支援	-	-
就労継続支援Ａ型	11	7.0%
就労継続支援Ｂ型	22	13.9%
共同生活援助	10	6.3%
児童発達支援	13	8.2%
放課後等デイサービス	26	16.5%
相談支援	18	11.4%
移動支援	-	-
訪問看護	14	8.9%
その他	4	2.5%

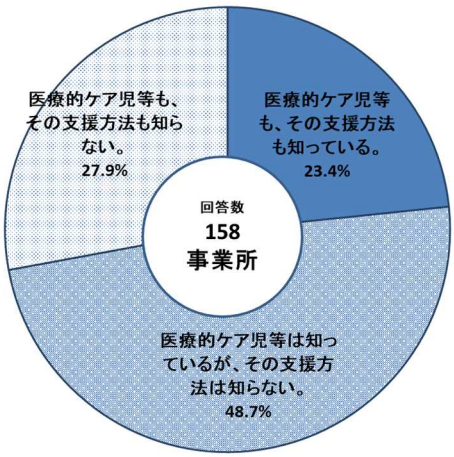
令和６年度調査

（２）事業所の所在地

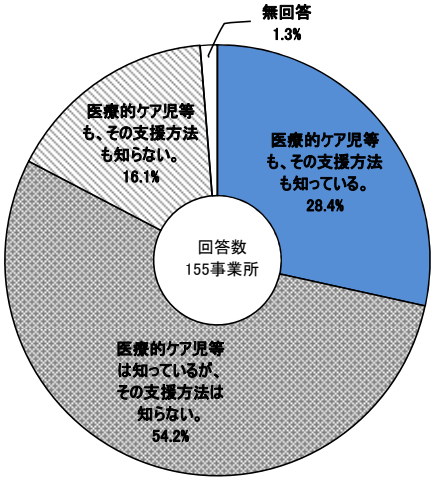
【表の見方】 上段=回答数 下段=比率(%)	全体	高松市	丸亀市	坂出市	善通寺市	観音寺市	さぬき市	東かがわ市	三豊市	土庄町	小豆島町	三木町	直島町	宇多津町	綾川町	琴平町	多度津町	まんのう町
全体	158	50	28	12	7	13	6	5	5	3	3	8	-	6	5	1	4	2
	100.0%	31.6%	17.7%	7.6%	4.4%	8.2%	3.8%	3.2%	3.2%	1.9%	1.9%	5.1%	-	3.8%	3.2%	0.6%	2.5%	1.3%

令和６年度調査

（３）医療的ケア児等やその支援方法



令和６年度調査



参考:平成 30 年度調査

（４）医療的ケア児等支援者または医療的ケア児等コーディネーターの有無

【表の見方】 上段=回答数(事業所) 下段=比率(%)		全体	どちらもいる	医療的ケア児等支援者がいる	医療的ケア児等コーディネーターがいる	どちらもいない
全体		158	7	7	18	126
		100.0%	4.4%	4.4%	11.4%	79.8%
市町別	高松市	50	4	1	9	36
		100.0%	8.0%	2.0%	18.0%	72.0%
	丸亀市	28	-	1	3	24
		100.0%	-	3.6%	10.7%	85.7%
	坂出市	12	1	1	-	10
		100.0%	8.3%	8.3%	-	83.4%
	善通寺市	7	1	1	1	4
		100.0%	14.3%	14.3%	14.3%	57.1%
	観音寺市	13	-	-	2	11
		100.0%	-	-	15.4%	84.6%
	さぬき市	6	-	1	-	5
		100.0%	-	16.7%	-	83.3%
	東かがわ市	5	-	-	-	5
		100.0%	-	-	-	100.0%
	三豊市	5	-	-	1	4
		100.0%	-	-	20.0%	80.0%
	土庄町	3	1	1	-	1
		100.0%	33.3%	33.3%	-	33.3%
	小豆島町	3	-	-	-	3
		100.0%	-	-	-	100.0%
	三木町	8	-	-	-	8
		100.0%	-	-	-	100.0%
	直島町	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	宇多津町	6	-	-	1	5
		100.0%	-	-	16.7%	83.3%
	綾川町	5	-	-	1	4
		100.0%	-	-	20.0%	80.0%
	琴平町	1	-	-	-	1
		100.0%	-	-	-	100.0%
	多度津町	4	-	1	-	3
		100.0%	-	25.0%	-	75.0%
	まんのう町	2	-	-	-	2
		100.0%	-	-	-	100.0%

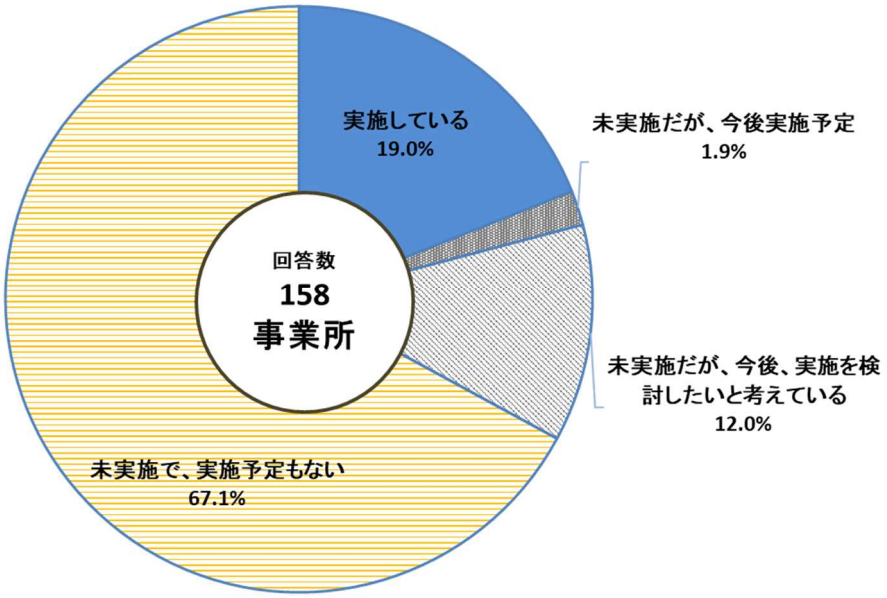
【表の見方】 上段=回答数(事業所) 下段=比率(%)		全体	どちらもいる	医療的ケア児等支援者がいる	医療的ケア児等コーディネーターがいる	どちらもいない
全体		158	7	7	18	126
		100.0%	4.4%	4.4%	11.4%	79.8%
事業所種別	居宅介護	14	-	-	1	13
		100.0%	-	-	7.1%	92.9%
	重度訪問介護	4	-	-	-	4
		100.0%	-	-	-	100.0%
	生活介護	18	1	2	1	14
		100.0%	5.6%	11.1%	5.6%	77.7%
	短期入所	4	1	-	-	3
		100.0%	25.0%	-	-	75.0%
	就労移行支援	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	就労継続支援Ａ型	11	-	-	-	11
		100.0%	-	-	-	100.0%
	就労継続支援Ｂ型	22	-	-	-	22
		100.0%	-	-	-	100.0%
	共同生活援助	10	-	-	-	10
		100.0%	-	-	-	100.0%
	児童発達支援	13	3	-	1	9
		100.0%	23.1%	-	7.7%	69.2%
	放課後等デイサービス	26	-	1	2	23
		100.0%	-	3.8%	7.7%	88.5%
	相談支援	18	1	3	6	8
		100.0%	5.6%	16.7%	33.3%	44.4%
	移動支援	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	訪問看護	14	1	1	4	8
		100.0%	7.1%	7.1%	28.6%	57.2%
	その他	4	-	-	3	1
		100.0%	-	-	75.0%	25.0%

令和６年度調査

事業所における医療的ケア児等支援者や医療的ケア児等コーディネーターの有無について、「どちらもいない」が 79.8%となっている。

市町別では、大半の市町において「どちらもいない」が半数以上を占めている。事業所種別にみても、【相談支援事業所】を除き、「どちらもいない」が半数以上を占めている。

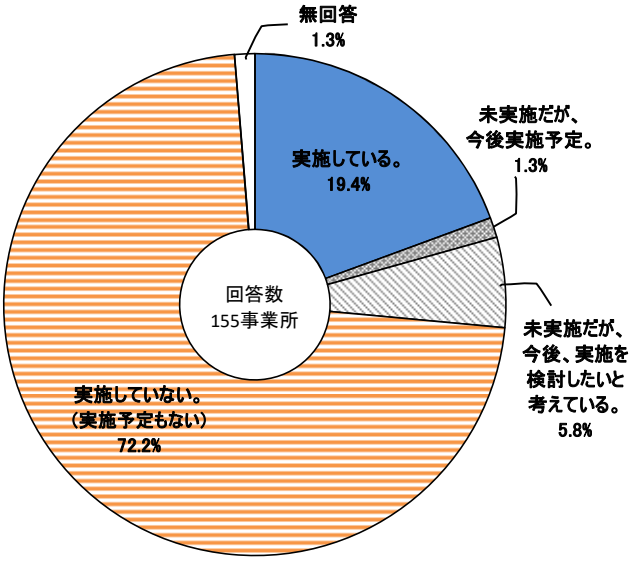
（５）医療的ケア児等に対する支援の実施の有無



令和６年度調査

医療的ケア児等に対する支援の実施の有無について、「未実施で、実施予定もない」が 67.1％と最も多く、次いで「実施している」が 19.0％となっている。

市町別では、【善通寺市】【土庄町】を除き、「未実施で実施予定もない」が最も多くなっている。事業所種別では、【生活介護】【相談支援事業所】を除き、「未実施で、実施予定もない」が半数以上を占めている。



参考：平成 30 年度調査

【表の見方】 上段=回答数(事業所) 下段=比率(%)		全体	実施している	未実施だが、今後実施予定	未実施だが、今後、実施を検討したいと考えている	未実施で、実施予定もない
全体		158	30	3	19	106
		100.0%	19.0%	1.9%	12.0%	67.1%
市町別	高松市	50	15	0	5	30
		100.0%	30.0%	0.0%	10.0%	60.0%
	丸亀市	28	-	-	5	23
		100.0%	-	-	17.9%	82.1%
	坂出市	12	2	1	1	8
		100.0%	16.7%	8.3%	8.3%	66.7%
	善通寺市	7	2	-	3	2
		100.0%	28.6%	-	42.8%	28.6%
	観音寺市	13	4	-	3	6
		100.0%	30.8%	-	23.1%	46.1%
	さぬき市	6	1	1	-	4
		100.0%	16.7%	16.7%	-	66.6%
	東かがわ市	5	-	-	1	4
		100.0%	-	-	20.0%	80.0%
	三豊市	5	-	1	1	3
		100.0%	-	20.0%	20.0%	60.0%
	土庄町	3	2	-	-	1
		100.0%	66.7%	-	-	33.3%
	小豆島町	3	1	-	-	2
		100.0%	33.3%	-	-	66.7%
	三木町	8	-	-	-	8
		100.0%	-	-	-	100.0%
	直島町	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	宇多津町	6	-	-	-	6
		100.0%	-	-	-	100.0%
	綾川町	5	2	-	-	3
		100.0%	40.0%	-	-	60.0%
	琴平町	1	-	-	-	1
		100.0%	-	-	-	100.0%
	多度津町	4	1	-	-	3
		100.0%	25.0%	-	-	75.0%
	まんのう町	2	-	-	-	2
		100.0%	-	-	-	100.0%

【表の見方】 上段=回答数(事業所) 下段=比率(%)		全体	実施している	未実施だが、今後実施予定	未実施だが、今後、実施を検討したいと考えている	未実施で、実施予定もない
全体		158	30	3	19	106
		100.0%	19.0%	1.9%	12.0%	67.1%
事業所種別	居宅介護	14	-	-	2	12
		100.0%	-	-	14.3%	85.7%
	重度訪問介護	4	1	-	1	2
		100.0%	25.0%	-	25.0%	50.0%
	生活介護	18	8	-	2	8
		100.0%	44.4%	-	11.2%	44.4%
	短期入所	4	1	1	-	2
		100.0%	25.0%	25.0%	-	50.0%
	就労移行支援	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	就労継続支援Ａ型	11	-	-	-	11
		100.0%	-	-	-	100.0%
	就労継続支援Ｂ型	22	-	-	1	21
		100.0%	-	-	4.5%	95.5%
	共同生活援助	10	1	-	1	8
		100.0%	10.0%	-	10.0%	80.0%
	児童発達支援	13	4	-	1	8
		100.0%	30.8%	-	7.7%	61.5%
	放課後等デイサービス	26	1	-	5	20
		100.0%	3.9%	-	19.2%	76.9%
	相談支援	18	8	1	3	6
		100.0%	44.4%	5.6%	16.7%	33.3%
	移動支援	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	訪問看護	14	6	1	-	7
		100.0%	42.9%	7.1%	-	50.0%
	その他	4	-	-	3	1
		100.0%	-	-	75.0%	25.0%

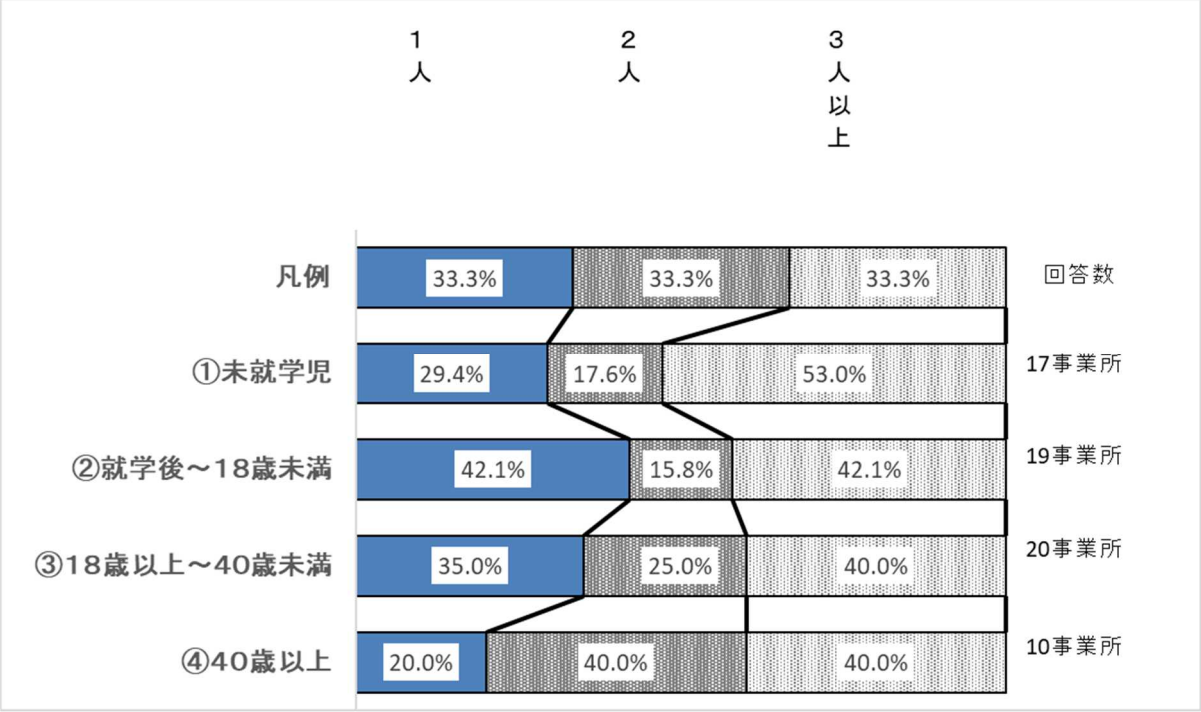
令和６年度調査

【表の見方】 上段＝回答数(事業所数) 下段＝比率(%)		全体	実施している。	未実施だが、今後実施予定。	未実施だが、今後、実施を検討したいと考えている。	実施していない。（実施予定もない）	無回答
全体		155	30	2	9	112	2
		100.0	19.4	1.3	5.8	72.3	1.3
実施事業別	1. 居宅介護	37	7	1	4	25	－
		100.0	18.9	2.7	10.8	67.6	－
	2. 児童発達支援	26	6	－	2	17	1
		100.0	23.1	－	7.7	65.4	3.8
	3. 放課後等デイサービス	41	10	1	5	25	－
		100.0	24.4	2.4	12.2	61.0	－
	4. 短期入所	24	7	－	1	16	－
		100.0	29.2	－	4.2	66.7	－
	5. 移動支援	11	2	－	2	7	－
		100.0	18.2	－	18.2	63.6	－
	6. 生活介護	44	16	－	2	26	－
		100.0	36.4	－	4.5	59.1	－
	7. 訪問看護	6	2	－	1	3	－
		100.0	33.3	－	16.7	50.0	－
	8. 施設入所	14	5	－	－	9	－
		100.0	35.7	－	－	64.3	－
	9. 就労移行支援	6	1	－	－	5	－
		100.0	16.7	－	－	83.3	－
	10. 就労継続支援A型	7	－	－	－	7	－
		100.0	－	－	－	100.0	－
	11. 就労継続支援B型	45	6	－	2	37	－
		100.0	13.3	－	4.4	82.2	－
	12. その他	16	6	－	－	10	－
		100.0	37.5	－	－	62.5	－

参考：平成 30 年度調査

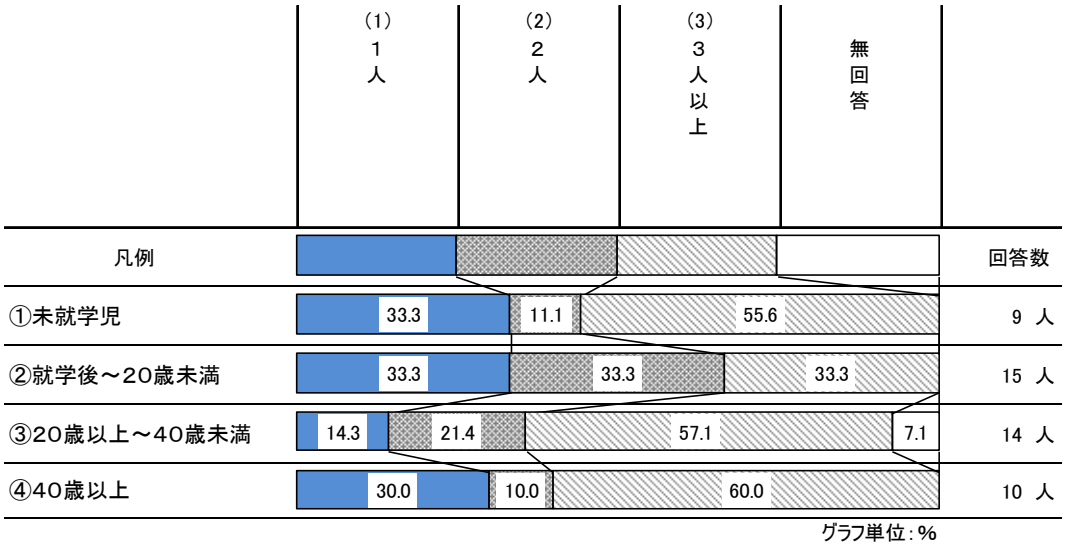
（６）医療的ケアを実施している児等の人数

※事業所において医療的ケアを「実施している」「未実施だが、今後実施予定」を選択した方のみ回答



令和６年度調査

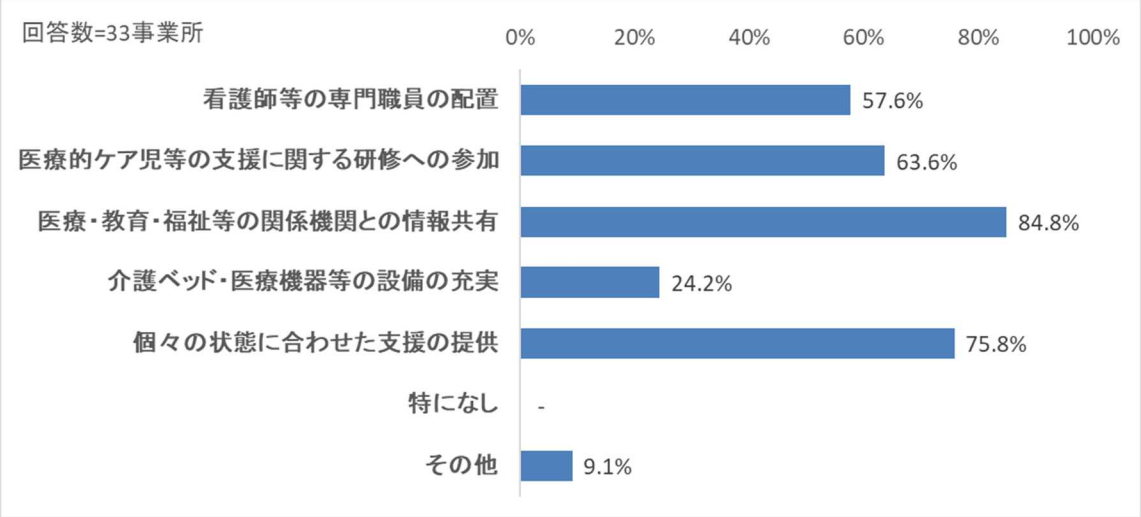
事業所で医療的ケアを「実施している」「未実施だが、今後実施予定」と回答した事業所で支援している医療的ケア児等の人数について、【①未就学児】では「３人以上」が 53.0%と最も多く、平均人数は 4.1 人となっている。【②就学後～18 歳未満】では「１人」「３人以上」が 42.1%となっており、平均人数は 3.4 人となっている。【③18 歳以上～40 歳未満】では「３人以上」が 40.0%と最も多く、平均人数は 4.4 人となっている。【④40 歳以上】では「２人」「３人以上」が 40.0%と最も多く、平均人数は 6.5 人となっている。



参考:平成 30 年度調査

（７）事業運営の工夫（複数回答）

※事業所において医療的ケアを「実施している」「未実施だが、今後実施予定」を選択した方のみ回答



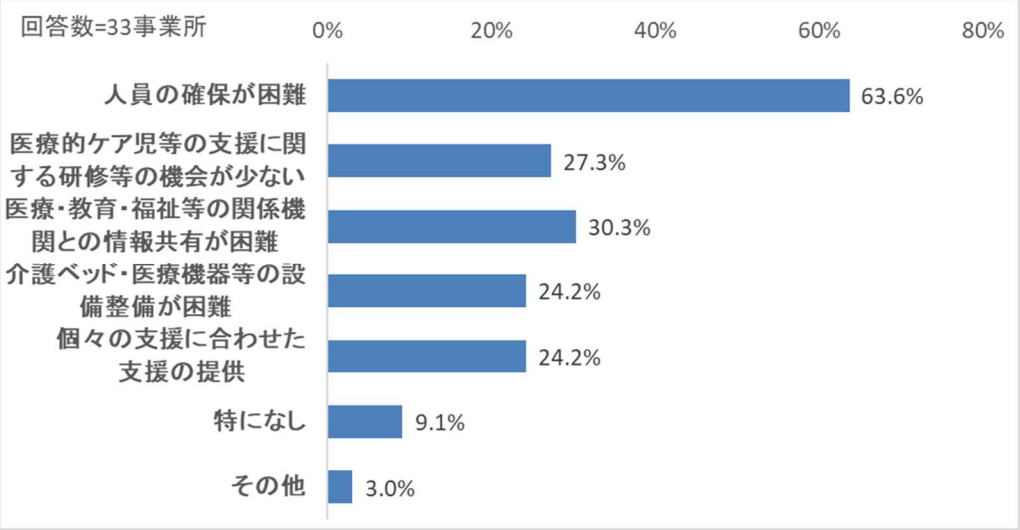
【表の見方】 上段=回答数(事業所) 下段=比率(%)	全体	看護師等の専門職員の配置	医療的ケア児等の支援に関する研修への参加	医療・教育・福祉等の関係機関との情報共有	介護ベッド・医療機器等の設備の充実	個々の状態に合わせた支援の提供	特になし	その他
全体	33	19	21	28	8	25	-	3
	-	57.6%	63.6%	84.8%	24.2%	75.8%	-	9.1%

令和６年度調査

事業所で医療的ケアを「実施している」「未実施だが、今後実施予定」と回答した事業所を対象に、医療的ケアを実施するための事業運営上の工夫について調査したところ、「医療・教育・福祉等の関係機関との情報共有」が 84.8%と最も多く、次いで「個々の状態に合わせた支援の提供」が 75.8%となっている。

（８）事業運営の課題（複数回答）

※事業所において医療的ケアを「実施している」「未実施だが、今後実施予定」を選択した方のみ回答



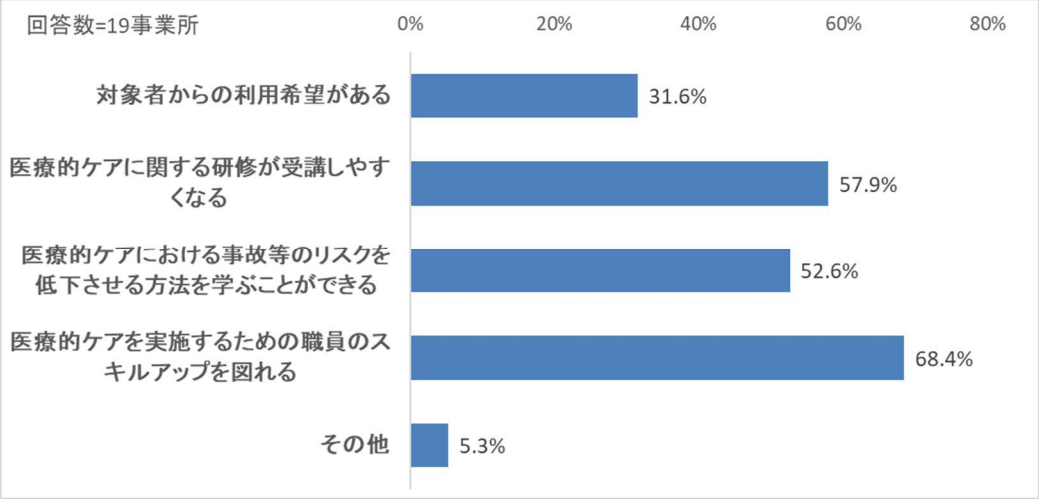
【表の見方】 上段=回答数(事業所) 下段=比率(%)	全体	人員の確保が困難	医療的ケア児等の支援に関する研修等の機会が少ない	医療・教育・福祉等の関係機関との情報共有が困難	介護ベッド・医療機器等の設備整備が困難	個々の支援に合わせた支援の提供	特になし	その他
全体	33	21	9	10	8	8	3	1
	-	63.6%	27.3%	30.3%	24.2%	24.2%	9.1%	3.0%

令和６年度調査

事業所で医療的ケアを「実施している」「未実施だが、今後実施予定」と回答した事業所を対象に、医療的ケアの実施に当たって生じた事業運営への影響や課題について調査したところ、「人員の確保が困難」が 63.6%と最も多く、次いで「医療・教育・福祉等の関係機関との情報共有が困難」が 30.3%となっている。

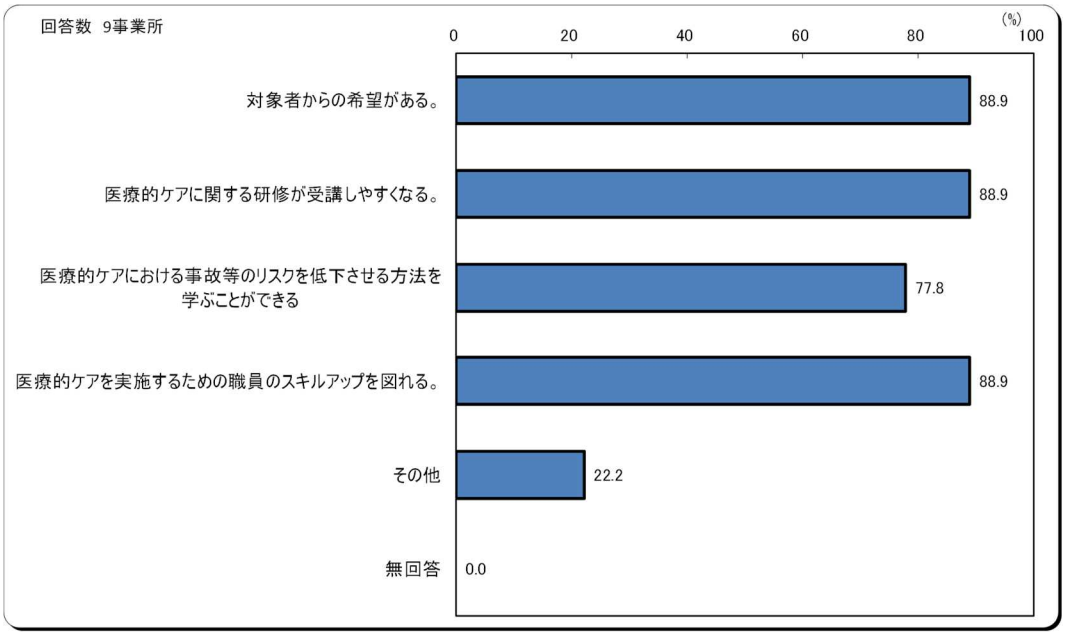
（９）医療的ケア児等の支援の検討（複数回答）

※事業所において医療的ケアを「未実施だが、今後、実施を検討したいと考えている」を選択した方のみ回答



令和６年度調査

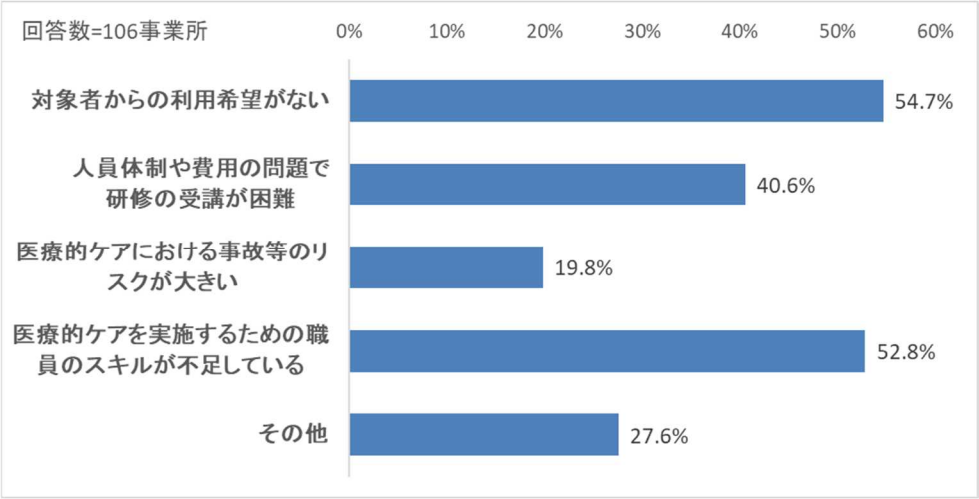
事業所において医療的ケアを「未実施だが、今後、実施を検討したいと考えている」と回答した事業所を対象に、今後、医療的ケア児等の実施を積極的に検討するために重要なことについて調査したところ、「医療的ケアを実施するための職員のスキルアップを図れる」が 68.4%で最も多くなっている。



参考:平成 30 年度調査

（１０）医療的ケアを実施していない理由（複数回答）

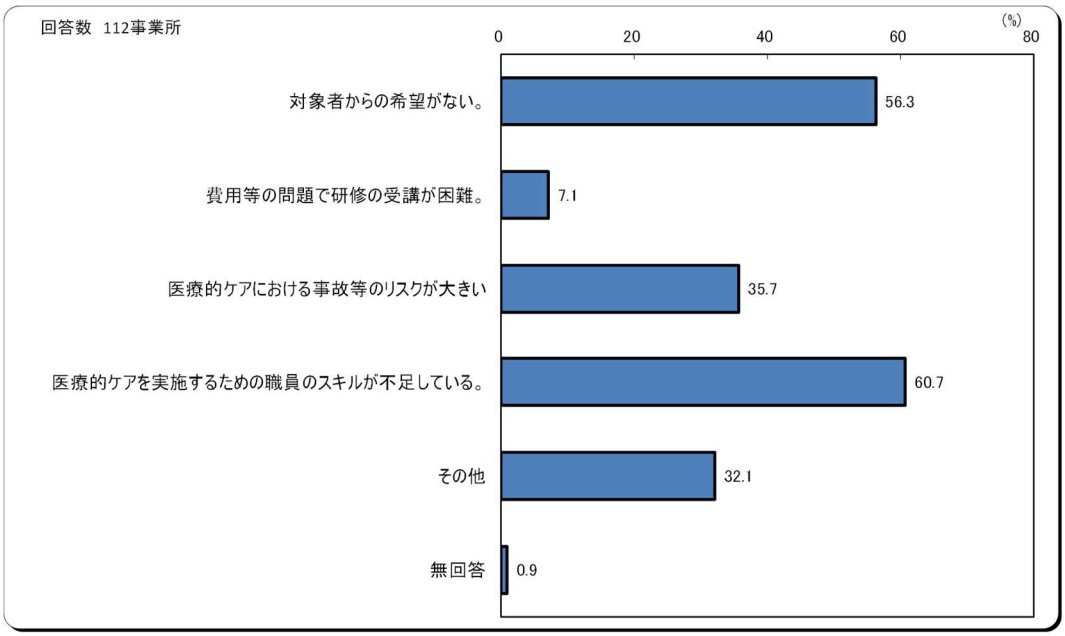
※事業所において医療的ケアを「未実施で、実施予定もない」を選択した方のみ回答



令和６年度調査

医療的ケアを「未実施で、実施予定もない」と回答した事業所を対象に、理由について調査したところ、「対象者からの利用希望がない」が 54.7%で最も多く、次いで「医療的ケア児を実施するための職員のスキルが不足している」が 52.8%となっている。

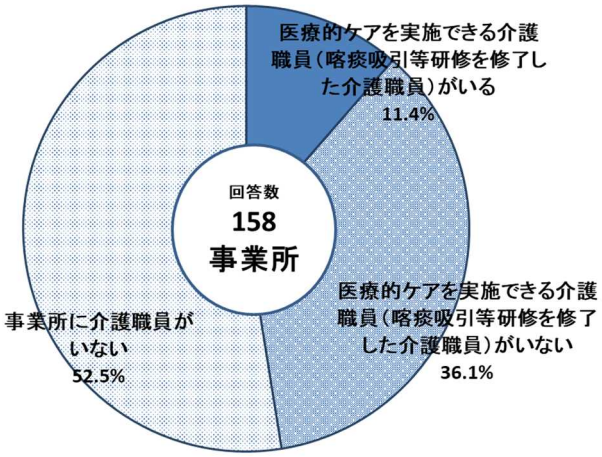
「その他」では「病院内に小児科はあるが訪問でフォローできる医師がいない」「職員不足もあり、医療的ケアに従事できる職員の確保が難しい」「利用者が高齢化、職員体制が取れない」といった意見があった。



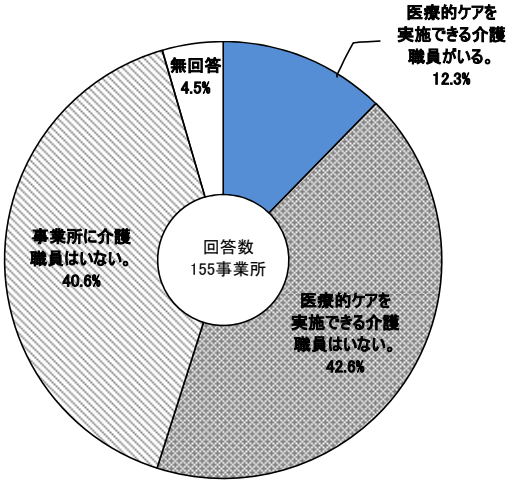
参考:平成 30 年度調査

２．介護職員による医療的ケアの実施

（１１）医療的ケアを実施できる介護職員



令和６年度調査



参考:平成 30 年度調査

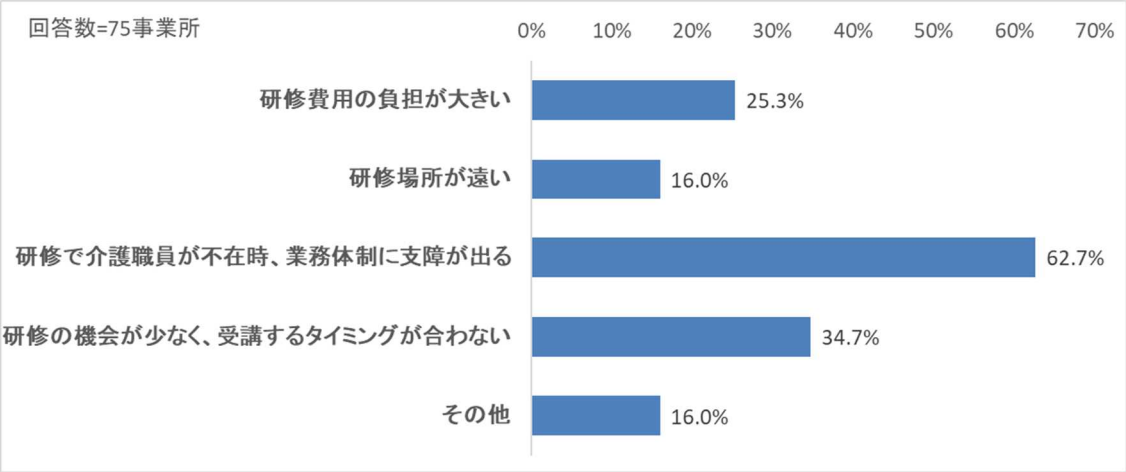
医療的ケアを実施できる介護職員の有無について、「事業所に介護職員がいない」が 52.5%と最も多く、次いで「医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）がいない」が 36.1%となっている。

【表の見方】 上段=回答数（事業所） 下段=比率(%)	全体	医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）がいる	医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）がいない	事業所に介護職員がいない
全体	158	18	57	83
	100.0%	11.4%	36.1%	52.5%

令和６年度調査

（１２）介護職員が研修を受講する際の課題（複数回答）

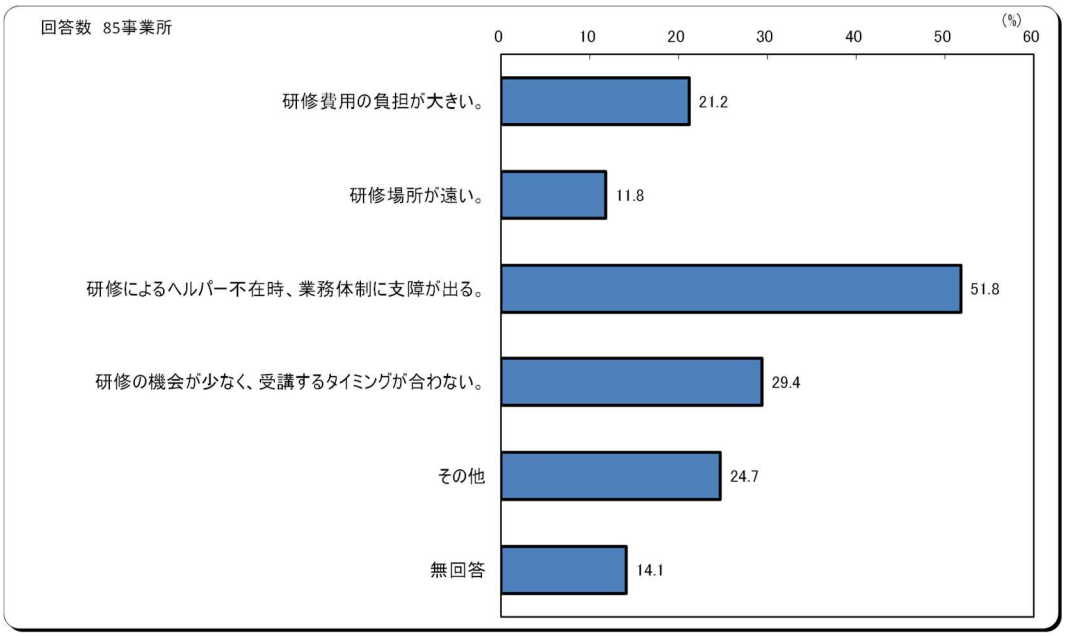
※事業所に介護職員がいる（「医療的ケアを実施できる介護職員がいる」「医療的ケアを実施できる介護職員がいない」）を選択した方のみ回答



令和６年度調査

研修を受講する際の課題について、「研修で介護職員が不在時、業務体制に支障が出る」が62.7%と最も多い。

「その他」では「対象利用者がいないため受講していない」「研修受講については特に問題はないが、研修を受けた介護職員がすぐに辞めてしまうため職員が増えない」「看護師がいるため急いで研修を受ける必要がない」といった意見があった。



参考:平成30年度調査

（１３）介護職員による医療的ケア児等への支援に関する研修に対する意見（自由記述）

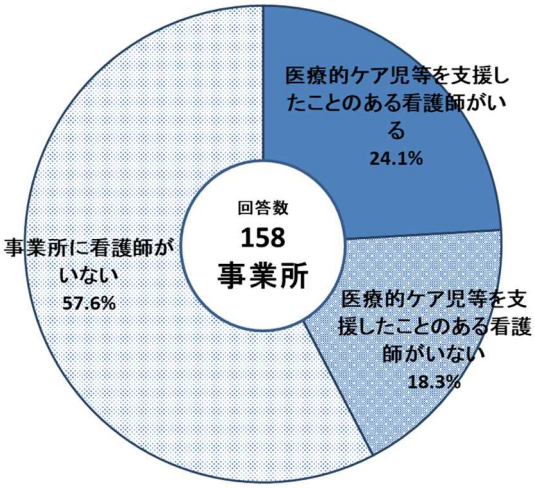
※事業所に介護職員がいる（「医療的ケアを実施できる介護職員がいる」「医療的ケアを実施できる介護職員がいない」）を選択した方のみ回答

主な意見	具体的な内容
①精神的負担	・医療的ケアに対する知識がない状態での対応は非常に不安である。そのための研修であることは理解しているものの介護職員の負担（精神的、心理的）を考えると不安を感じる。
②採算が合わない	・医療的ケア児等への支援の重要性については知っているが、現在利用している方の平均年齢が60歳を超えており、今後医療的ケア児等への支援が実施される見込みもないため、研修受講の必要性を感じておらず、研修に参加していないのが現状。一度研修に参加しても、継続して学んでいかないと実践できないと感じる。 ・受講する場合に必要となるコスト（費用、労力）が見積れず、かなり大きいだろうと想像されることから受講しにくい。特に、講師や研修を手配する人への謝金と、設備や記録の負担増がイメージできない。あらかじめすべて明示されていれば、検討しやすい。また、研修を受けても、対象者が指定されて使いまわせる研修でないため、長期的にサービスを提供する見通しがない中では受けにくい。
③研修の内容	・介護職員ができる医療的ケアの範囲の確認や、介護職員から見た医療的ケアを行う上での困りごとについて解決できるような研修があれば良い。
④受講が難しい	・喀痰吸引研修は簡単に受入れてくれる医療機関が近くにない。 ・当社は入職前に統合過程を全員修了するが、対象が大人。そのため、未就学児の医療的ケアは勝手が違うし、注意する点もかなり詳細になるのではと危惧している。そのため、未就学児の医療的ケアに携わるための研修などが定期・不定期でも受けられるように研修機関を設けて欲しい。研修機関が香川は少なく、定員数に限りがあり研修待ちが当たり前であることが、今の香川の課題なのではないかと思える。 ・喀痰吸引等研修等を常に考えているが、指導をしていただく病院、訪問看護等の紹介があれば非常に助かる。
⑤その他	・看護師が常駐しており、介護職員は医療的ケア児との関わりは持つが支援に関しては積極的にしようとせず看護師任せになっている。 ・看護師の人員確保が困難な中、医療的ケア児等を受入れるにあたり、介護職員等が注入、吸引を実施できることは、運営上メリットが大きい。ただ、医療的ケア児等と一括りにはできず、個々でリスクや対応が異なるため、看護師の指導のもと、適切なケアが行えるよう知識や技術を高めることが必要であると考える。

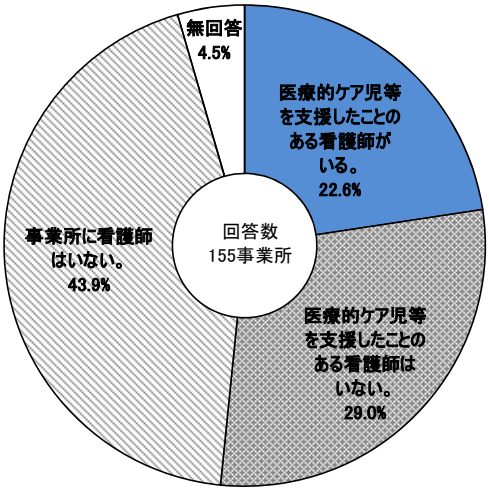
令和６年度調査

３．看護師による医療的ケア児への支援の実施

（１４）看護師による医療的ケア児等への支援



令和６年度調査



参考:平成 30 年度調査

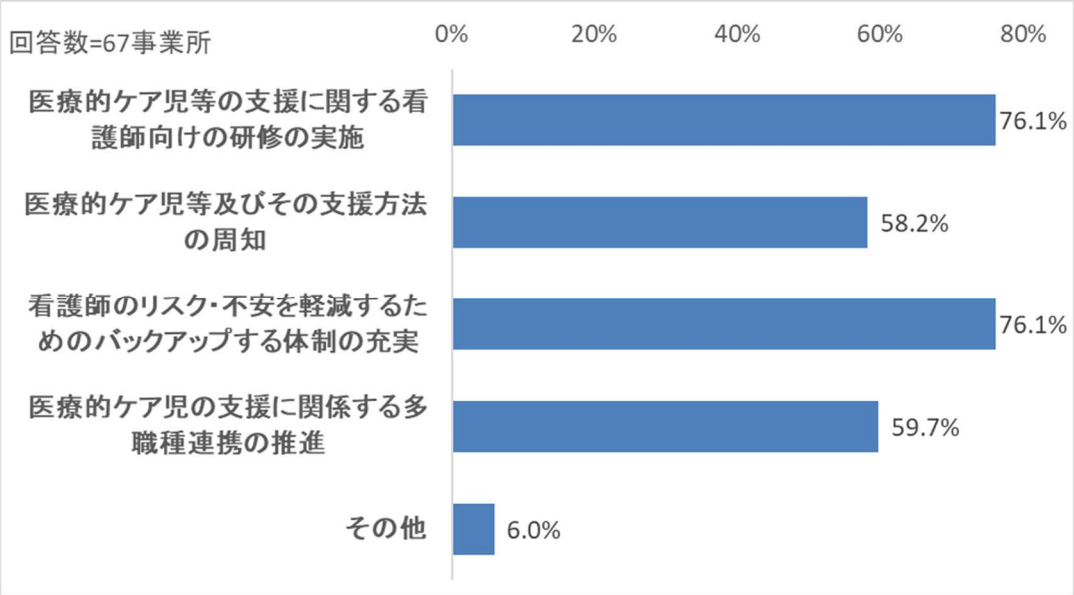
医療的ケア児等を支援したことのある看護師の有無及び人数について、「事業所に看護師がいない」が 57.6%と最も多く、次いで「医療的ケア児等を支援したことのある看護師がいる」が 24.1%となっている。

【表の見方】 上段=回答数（事業所） 下段=比率(%)	全体	医療的ケア児等を支援したことのある看護師がいる	医療的ケア児等を支援したことのある看護師がいない	事業所に看護師がいない
全体	158	38	29	91
	100.0%	24.1%	18.3%	57.6%

令和６年度調査

（１５）看護師による医療的ケア児等への支援の推進（複数回答）

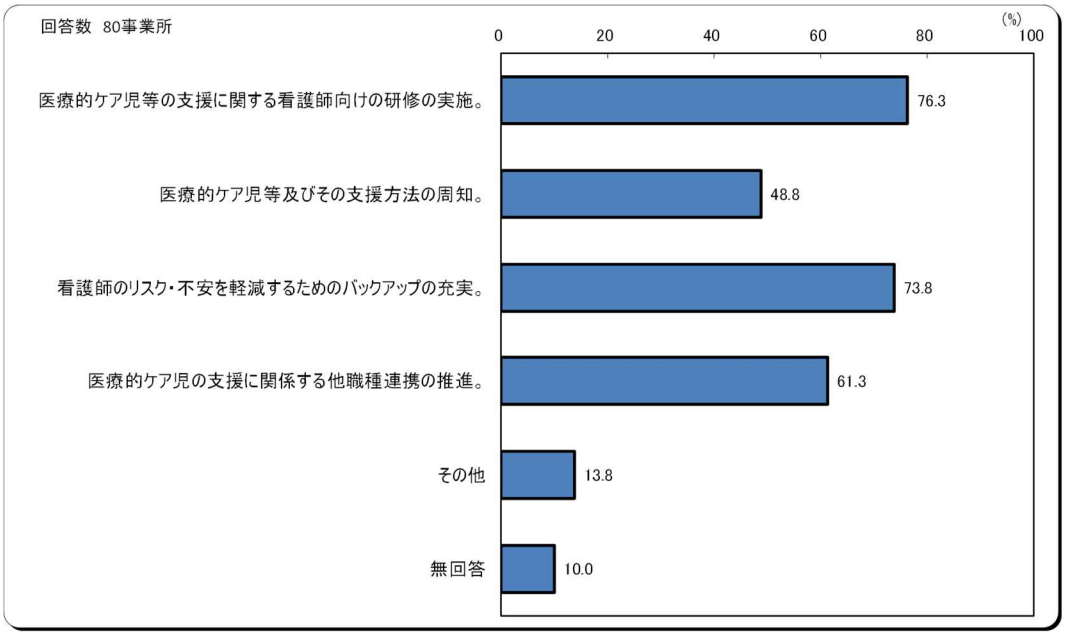
※事業所に看護師がいる（「医療的ケア児を支援したことがある看護師がいる」「医療的ケア児を支援したことがある看護師がいない」）を選択した方のみ回答



令和６年度調査

看護師による医療的ケア児等への支援の推進について、「医療的ケア児等の支援に関する看護師向けの研修の実施」と「看護師のリスク・不安を軽減するためのバックアップする体制の充実」が76.1%と最も多く、次いで「医療的ケア児等の支援に関係する多職種連携の推進」が 59.7%となっている。

「その他」では「小児科医と緊密に連携が取れる体制がなければ対応できるとは言えない」「訪問入浴介護に看護師は従事しているが、人手不足である」等の意見があった。



参考:平成 30 年度調査

（１６）看護師による医療的ケア児等への支援に関する意見（自由記述）

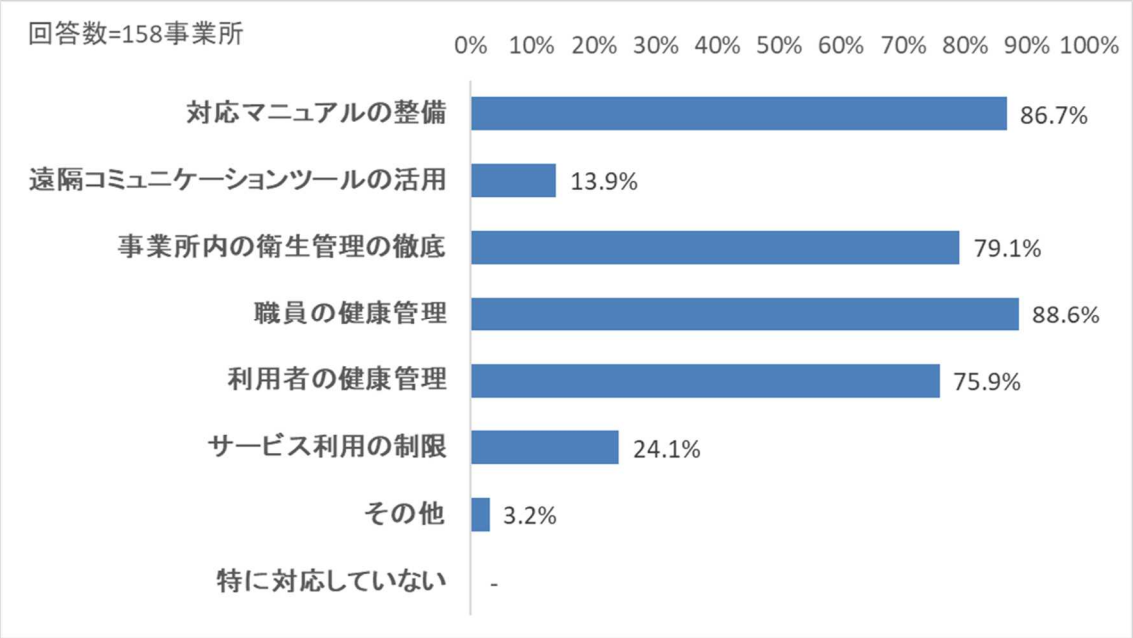
※事業所に看護師がいる（「医療的ケア児を支援したことがある看護師がいる」「医療的ケア児を支援したことがある看護師がいない」）を選択した方のみ回答

主な意見	具体的な内容
①人材不足	・看護師は在籍しているが、常勤ではないので医療的ケア児等の受入れは難しい。訪問看護との連携により導尿等のサービスを委託している。 ・看護師が常に施設に常駐しているわけではないため、急な休みなどの時の対応をどうするのかと感じている。 ・看護師が高齢なため負担が大きい。 ・高齢者の対応事例と同様に相談支援専門員の技量、知識によってサービス等利用計画の質に違いが出ている。主に評価段階でそういった傾向がみられており、適切なサービスの選択において支障となる可能性がある。
②人材育成	・医療的ケア児等の支援の経験有無により、知識技術の差は大きいと思うが、専門的知識を持った看護師や、個々の利用者の全体像をよく理解している療育スタッフが近くにいることで、技術知識の向上は望めると考える。そのような環境の中での研修が行えれば、医療的ケア児等に対応できる看護師が増えると考える。
③連携について	・児童発達支援等のサービスを利用する前は担当者会などを除き、医療的ケアを担当している訪問看護事業所や保健師に会う機会がなく、利用者の医療的ケアに関する情報が保護者からしか得られない。関係機関で医療的ケアの情報共有が密にできるツールや環境があれば良い。 ・他施設での医療ケア児等へのケア内容など情報交換の場や、介護職員への指導方法などの情報交換できる場があれば良い。 ・医療的ケア児等の支援が進み、特別支援学校だけでなく、きょうだい児が通う地域の学校に一緒に通学できるようになっている。市町ごとに支援スタッフ（看護師）の配置方法が異なり、一つの学校に医療的ケア児が数名いる場合、1か所の事業所（訪看）だけで支援体制を組むと訪看の人員配置が厳しい時があるため、複数の事業所が協力しながら支援体制を取り組むのが望ましい。 ・主治医（大学等）が遠方であり密に連絡をとることが難しい。

令和６年度調査

４．コロナ等新興感染症

（１７）コロナ等新興感染症への対策（複数回答）

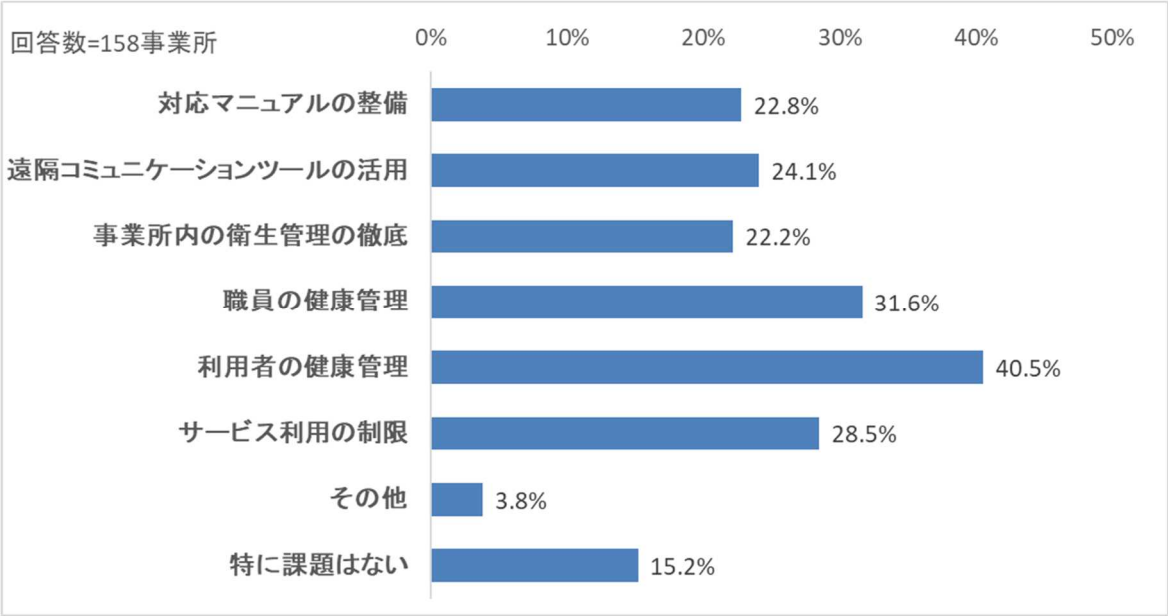


【表の見方】 上段=回答数（事業所） 下段=比率(%)	全体	対応マニュアルの整備	遠隔コミュニケーションツールの活用	事業所内の衛生管理の徹底	職員の健康管理	利用者の健康管理	サービス利用の制限	その他	特に対応していない
全体	158	137	22	125	140	120	38	5	-
	-	86.7%	13.9%	79.1%	88.6%	75.9%	24.1%	3.2%	-

令和６年度調査

コロナ等新興感染症への対策について、「職員の健康管理」が 88.6%と最も多く、次いで「対応マニュアルの整備」が 86.7%、「事業所内の衛生管理の徹底」が 79.1%となっている。

（１８）コロナ等新興感染症への課題（複数回答）



【表の見方】 上段=回答数（事業所） 下段=比率(%)	全体	対応マニュアルの整備	遠隔コミュニケーションツールの活用	事業所内の衛生管理の徹底	職員の健康管理	利用者の健康管理	サービス利用の制限	その他	特に課題はない
全体	158	36	38	35	50	64	45	6	24
	-	22.8%	24.1%	22.2%	31.6%	40.5%	28.5%	3.8%	15.2%

令和６年度調査

コロナ等新興感染症への課題について、「利用者の健康管理」が 40.5%と最も多く、次いで「職員の健康管理」が 31.6%、「サービス利用の制限」が 28.5%となっている。

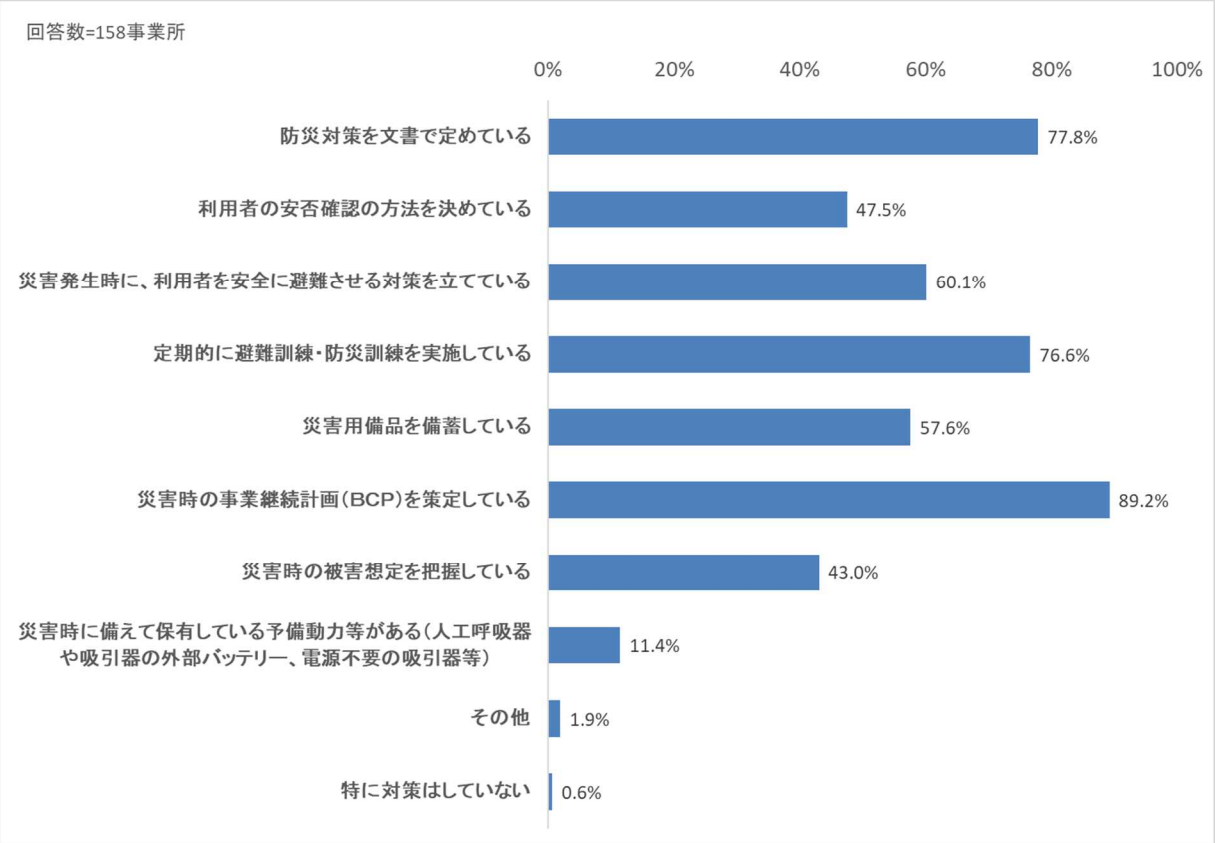
（１９）コロナ等新興感染症に関する意見（自由記述）

主な意見	具体的な内容
①利用制限	・感染症に罹患した場合、重症化するリスクが高い医療的ケア児等を守るために、利用児者の体調不良時にはお休みをお願いしている。ご理解が得られにくく、体調悪くても登園される場合は、個別に対応している。 ・医療的ケア児等のタイプにもよるとは思うが、コロナのような新興感染症等、一般的な対処だけでは防ぎきれない場合、安全確保のためには受入れ制限の方向以外での支援があまり思いつかない。 ・一人暮らしの場合、少々体調が悪くても我慢して通所してしまうケースが見られるので、感染源となるウイルスの持込みを防ぐと言う点で対策が必要と感じる。 ・重心、医療的ケアの方々が罹患した場合、呼吸器系を中心に重症化リスクが高まる可能性がある。罹患時に、訪問看護や居宅ヘルパーが入ってもらえる事業所であれば大きな不安はないが、感染時にサービス利用ができない場合、自宅で家族によるケアのみとなり、家族負担が大きい。感染対策の方法、物品等の情報提供等、相談できる窓口があれば少しは安心なのではないか。
②備品の拡充、知識の向上	・新興感染症の感染拡大を防ぐための医療的な備品を拡充することが困難である。 ・感染症対策には、専門的な知識・技能が必要だけでなく、感染症対応備品を購入するとなるとかなりの費用がかかる。 ・空気清浄機等の導入の補助があると良い。 ・感染対策に関する知識の向上や備品の整備などの支援が充実すれば良い。 ・医療的ケアに携わる職員だけでなく、保護者や地域の支援者に対しても研修の場を設け、不安の軽減につなげられるようにすることや、適切な情報発信を行い、地域の理解を深められたら良い。
③対策の重要性	・基本的な感染症防止対策に取り組み、日頃からマニュアルの確認も行い意識を高めることが大切。体調不良の利用者はいないか、常に体調チェックを行う。 ・新型コロナ禍が過ぎ落ち着いてきて、職員も利用者も新型コロナ禍以前のようなマスクを着用せず訪問時や退出時の手洗いも疎かにする生活様式に戻ってきており、新型コロナ禍では体調不良になっていなかった職員や利用者が体調不良になる確率が増えている。
④デジタル化	・人と人の接触回数を減らすことが重要。対面の支援やフォローが必要な部分以外はオンラインでのやり取りなどに切り替えていく。 ・在宅ワークの整備
⑤その他	・感染症がまん延した場合、事業所同士が協力しながら、医療的ケア児等の情報共有を行い、スタッフ確保が困難なときの応援体制が整備できれば良い。 ・医療的ケア児等に限らず、ヘルパー事業所が利用者に対して感染症を持ち込んだ場合、強いバッシングを受けて事業を継続できなくなるリスクがある。いくらヘルパー自身が気を付けていても、他にサービス提供している相手先の利用者の意識が低いこともあるし、子どものいる家庭では限界がある。利用者やその家族からの責めや、風評被害、ネットなどでの攻撃から事業所が守られる仕組みが必要。

令和６年度調査

5．災害対策

（２０）事業所の災害対策（複数回答）



【表の見方】 上段=回答数（事業所） 下段=比率(%)	全体	防災対策を文書で定めている	利用者の安否確認の方法を決めている	災害発生時に、利用者を安全に避難させる対策を立てている	定期的に避難訓練・防災訓練を実施している	災害用備品を備蓄している	災害時の事業継続計画（BCP）を策定している	災害時の被害想定を把握している	災害時に備えて保有している予備動力等がある（人工呼吸器や吸引器の外部バッテリー、電源不要の吸引器等）	その他	特に対策はしていない
全体	158	123	75	95	121	91	141	68	18	3	1
	-	77.8%	47.5%	60.1%	76.6%	57.6%	89.2%	43.0%	11.4%	1.9%	0.6%

令和６年度調査

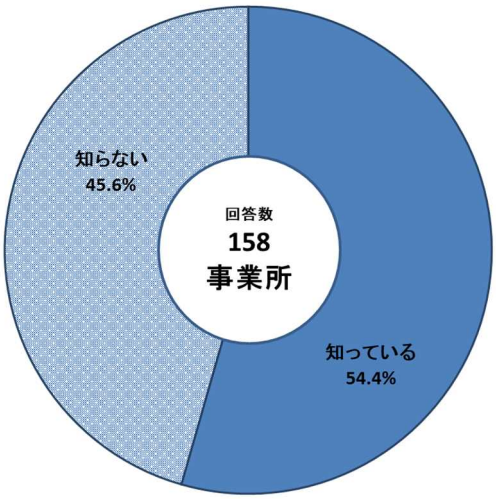
事業所の災害対策について、「災害時の事業継続計画（ＢＣＰ）を策定している」が 89.2%と最も多く、次いで「防災対策を文書で定めている」が 77.8%、「定期的に避難訓練・防災訓練を実施している」が 76.6%となっている。

（２１）災害時の対策や不安（自由記述）

主な意見	具体的な内容
①電源や備品の確保	・人工呼吸器や吸引のバッテリーなど動力に対する不安がある。 ・事業所内で複数台の発電機を準備しているが、一時的な電源の確保にしかならないこと、災害時に各利用者宅に配るのは難しくなることが予想される。そのため、医療的ケアを必要とする利用者宅に医療用蓄電池を確保するための補助が、日常生活用具給付の項目に追加されると、利用者宅に医療用蓄電池が確保され、不安の軽減につながるのではないか。 ・太陽光発電は設置しているが、蓄電器は設置していない。補助金があれば蓄電器又は電気自動車用のスタンドの設備を行いたい。 ・電源の確保が課題。個人の呼吸器、吸引器ともに予備バッテリーはあるが、長時間はもたない。予備電源を事業所で準備するには高額であるため、補助があればありがたい。 ・電源供給のためのポータブル電源や水の必要性を感じる。 ・設備等の心配はないが、かかりつけ医が休業になったときに、薬や導尿に使うカテーテルなど用品不足が起こらないか心配。 ・バッテリーの不足や医療用品の不足が考えられるが、対応できる機材を購入する資金が不足している。
②避難計画	・避難経路及び、被災時に誰がどこに医療的ケア児等を連れて何を持っていくかを具体的に定める必要がある。近隣の民生委員などにも存在を把握してもらう。 ・医療的ケア児等の自宅や学校（保育所）での災害を想定して、実際の荷物を持ってのシミュレーションを行い、周囲のサポートや協力体制の体験が必要だと考える。現在、支援している児の保育所では、毎月、定期的に火災訓練と地震訓練を行っている。 ・行政が実施している災害時における避難計画の状況が分からない。医療的ケア児等等の対象をどこまでにしているのか。 ・被災時の支援については医療的ケア児等のみでなく家族の支援も必要である。防災バッグの配布や非常電源の確保（ケアに必要な備品は基本的に電力が必要）、緊急対策としてのアナログ代用に関する相談支援・指導・準備が必要。（特に吸引機や呼吸器関係） ・ライフラインが停止してしまうと自宅での生活が難しい。主治医は遠方であるため、そうなった場合に近隣病院での受入れが可能か確認しておく必要がある。 ・保護者と災害時の準備物等の確認。保護者に対する事業所が行う災害時の対応等の周知。
③関係者との連携	・避難時の人手不足も心配であり、地域の方や消防、行政の方との日頃からの関わりができるよう工夫が必要と感じる。 ・利用児者の家族との連絡がうまく取れるかという不安がある。 ・家族など、直接支援する人が、他のことに煩わされることなく対応できるよう、連携して負担軽減することには協力できる。この場合も、それをコーディネートする人が必要で、災害以前にそのような協力関係を作っておく必要がある。また、もしそれまで支援していた人が対応できない場合に、一時的に手助けするとした場合を考える。必要な機材のバックアップと、それらを使用する方法の細かなマニュアルが必要。不慣れな中で支援することになるので、不手際があっても免責される制度がないと困る。 ・病院等との連携が重要と思われるが、災害時であるほど、医療従事者の負担が大きくなる。ある程度の裁量が、現場に与えられるといいのではないか。 ・地域の医療関係者やボランティアなど、災害時に医療的ケア児等の支援ができるネットワークを構築し、緊急時に迅速なサポートが得られる体制づくりが必要不可欠。
④発災時の人手不足	・災害が起きた時に職員が応援に駆けつけられず人員不足になることを懸念している。また避難所等に避難した場合に特性を持たれた児者が過ごせるか、周りの協力や理解は求められるのか心配。 ・できる限りの対策は行っているが、実際の災害発生時には職員の確保が難しいと感じる。

６．香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」

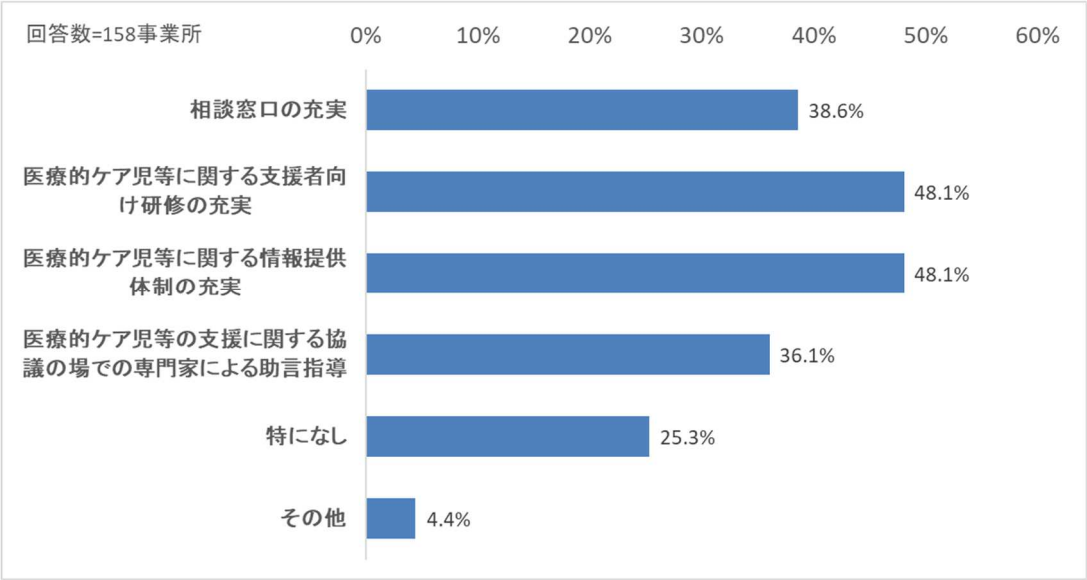
（２２）香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」



令和６年度調査

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」について、「知っているが」が 54.4%、「知らない」が 45.6%となっている。

（２３）香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」の取組み（複数回答）



令和６年度調査

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」でどのような取組みが必要かについて、「医療的ケア児等に関する支援者向け研修の充実」「医療的ケア児等に関する情報提供体制の充実」が 48.1%で最も多く、次いで「相談窓口の充実」が 38.6%となっている。

（２４）医療的ケア児等の支援に関する質問・意見・要望（自由記述）

①事業所の充実	・中讃・西讃地域に医療的ケア児等を受け入れられる事業所が増えて欲しい（保護者が事業所を選べられるくらい事業所があればと思う）。
②事業所での受入れの難しさ	・医療的ケア児等が安心して過ごせる環境整備(物理的・人的)を現行の利用者状況の中では取り組めていない状況。利用希望者に現場を見てもらうと利用しかねるの判断になっている。多動児・幼児が多い環境では難しい、と思っている。 ・施設利用をしている方が医療的ケアが必要になった場合はできる限りの対応を、と思うが、新規受入れで医療的ケアの必要な方を受入れるだけの力はない。看護師の人数の不足や生活支援員による実施も負担を考えると厳しい。 ・居宅介護事業所から見ると、単発で医療的ケアが必要なら、訪問看護など医療の領域、常時待機なら重度訪問介護で、日時を決めて訪問する自社の居宅介護では対応が難しい。現状、医療的ケア児等に関する打診はほぼなく、あっても対応できないと考え、断っている。
③受入体制の充実	・学校の看護師が足りない（急遽不在になる等）時に、保護者が医療的ケアを行いに学校に行っており、保護者の負担が大きい。放課後等デイサービスなどの事業所または訪問看護の事業所等の看護師が出向いて医療的ケアを行うなど、何かしらの対応が必要。 ・医療的ケア児等が安全に生活し、また学校生活を楽しめるように、地域や学校での正しい理解と受入れ体制を整えて欲しい。
④関係者との連携	・医療的ケア児等が病院を退院する時、病院内で退院後のことを話し合う担当者会において、その場に福祉の事業所はほとんど入れない。福祉の事業所が介入できるのは、医療的ケア児等や家族が落ち着くのを待ってからが多く、医療的ケア児等の成長を促すためにも退院前やサービスにつながる前の早い段階から児童発達支援・放課後等デイサービスなど障害福祉サービス事業所の職員（看護師・保育士）が訪問療育を行う等の体制等があれば良い。
⑤研修	・医療的ケア児等の支援の研修がオンライン研修可なら、受講しやすくなる。 ・現時点で医療的ケア児等を受け入れる体制は取れていないが、どのような体制が必要かなどの知識がなく、研修等の機会が増えれば良い。 ・医療的ケア児等への対応で困った時、「ソダテル」への相談がしやすく、他の事業所との連携も手厚く、ありがたい。地域でのフレッシュな情報発信や支援者向けの研修会など情報発信を続けていって欲しい。

令和６年度調査

第５章

参考資料

第5章　参考資料

１．アンケート調査票

（１）香川県医療的ケア児等にかかる実態調査

回答先FAX:087－806－0240　香川県障害福祉課　岡・小笠原　行

香川県医療的ケア児等にかかる実態調査【一次調査】アンケート

医療機関名			回答者名	
医療機関住所	香川県　　郡・市			
回答者連絡先	電話	－　　－	FAX	－　　－

＜対象＞対象は、地域で生活する下記医療的ケア(★)を要する患者です。小児科が引き続き診ている成人やグループホーム居住者も含みます。

★医療的ケアとは下記を行うものを指します。

a. 口、鼻からの吸引　b. エアウェイ挿入　c. 気管切開(喉頭分離術を含む)　d. 在宅酸素
e. 人工呼吸器装着(NPPVを含める)　f. 経管栄養(口からの経管栄養、経鼻栄養、胃瘻、腸瘻)
g. 導尿　h. 中心静脈栄養、腹膜透析、人工肛門

なお、対象者は、下記の在宅療養指導管理料を算定していると考えられるため、今回の調査では令和5年度に算定している患者を抽出してください。

問1 貴医療機関で令和5年度において、在宅療養指導管理料算定患者等がいますか。

	はい		いいえ

「いいえ」の場合、これで回答は終了です。

問2 令和5年度(令和5年4月1日～令和6年3月31日)に下記在宅療養指導管理料を算定している39歳以下(令和6年3月31日時点)の患者を抽出し、下記の様式でリストの作成をお願いします。年齢は令和6年3月31日時点の年齢を記載してください。気管支喘息、糖尿病のみ、あるいは両者の合併症のみの患者、睡眠時無呼吸症候群のみの患者は除外します。

No	居住地	年齢(歳)	性別	在宅療養指導料等											
				①在宅酸素療法指導管理料	②在宅中心静脈栄養法指導管理料	③在宅成分栄養経管栄養法指導管理料	④在宅小児経管栄養法指導管理料	⑤在宅自己導尿指導管理料	⑥在宅人工呼吸指導管理料	⑦在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料	⑧在宅寝たきり患者処置指導管理料	⑨在宅気管切開患者指導管理料	⑩在宅自己腹膜灌流指導管理料	⑪在宅肺高血圧症患者指導管理料	⑫在宅患者訪問診療料(Ⅰ)
				C103	C104	C105	C105-2	C106	C107	C107-2	C109	C112	C102	C111	C001
(例)	高松市	0	女	✓											
1															
2															
3															
4															
5															

項目が足りない場合は、様式をエクセル等でお送りしますので、下記の香川県障害福祉課までご連絡ください。また、7月31日(水)までにご回答いただけていない場合、お電話を差し上げることもありますが、ご了承ください。よろしくお願いいたします。

【回答締切】　令和6年7月31日(水)必着

【本調査に関するお問合せ先】

香川県健康福祉部障害福祉課　地域生活支援グループ　担当:岡、小笠原

電話:087－832－3292　Mail:wk8548@pref.kagawa.lg.jp

（２）医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査

香川県電子申請・届出システム

ログイン

利用者登録

申請団体選択

手続き申込　申込内容照会　電子署名検証

手続き申込

手続き選択をする　メールアドレスの確認　内容を入力する　申し込みをする

申込

選択中の手続き名：医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査

問合せ先　＋開く

説明

香川県医療的ケア児等実態調査
アンケートご協力のお願い

お忙しい中、本サイトにアクセスしていただき、ありがとうございます。
本調査は、医療的ケア児・者のご家族の日常の実態や、希望する生活状況を把握することを目的としております。アンケート回答に対する所要時間はおおむね15分です。
調査結果は、よりよい支援を検討する基礎資料とさせていただく予定です。ご回答しづらい質問もあるかと思いますが、今後の支援策の充実のため、ぜひアンケートにご協力をいただきますようお願いいたします。

※回答期間は令和６年10月29日（火）～令和６年12月16日（月）です。
※医療的ケア児・者とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為を必要とする方たちを指します。
※40歳未満の医療的ケア児・者とともに、ご自宅で生活しているご家族の方で、医療的ケアを主として行っている方がご回答ください。
※回答内容は、ここ最近6か月程度を平均した状態についてお答えください。

受付時期　2024年10月29日9時00分～ 随時

基本情報　質問１　質問２　質問３

本アンケートに関する同意について　必須

本アンケートにご回答いただける方は、下記の同意文をご確認の上、「同意する」にチェックを入れてください。

（同意文）
本調査で回答した医療的ケアを必要とするご本人様（以下、「本人」）の年齢、性別、居住地、障害の状況（障害種別や医療的ケアの内容等）及び障害者総合支援法、児童福祉法に基づくサービスの利用状況等を、行政上の基礎資料としていただいて構いません。

☐ 同意する

１．医療的ケアを必要とするご本人について

お住まいについて　必須

本人の現在のお住まいを選択してください。

- ◯ 高松市
- ◯ 丸亀市
- ◯ 坂出市
- ◯ 善通寺市
- ◯ 観音寺市
- ◯ さぬき市
- ◯ 東かがわ市
- ◯ 三豊市
- ◯ 土庄町
- ◯ 小豆島町
- ◯ 三木町
- ◯ 直島町
- ◯ 宇多津町
- ◯ 綾川町
- ◯ 琴平町
- ◯ 多度津町
- ◯ まんのう町

選択解除

年齢について 必須

本人の年齢を数字のみご記入ください。
（回答例：年齢が10歳の場合、10とご記入ください）
※年齢は2024年9月1日現在でご記入ください。

性別について 必須

本人の性別を選択してください。

- ◯ 男性
- ◯ 女性
- ◯ 非選択

選択解除

同居家族について 必須

本人と同居しているご家族について、該当するものを全て選択してください（複数選択可）。

- [ ] 母
- [ ] 父
- [ ] 兄弟姉妹
- [ ] 祖母
- [ ] 祖父
- [ ] 配偶者
- [ ] その他

現在行っている医療的ケアについて 必須

現在行っている全ての医療的ケアについて、該当するものを全て選択してください（複数選択可）。

- [ ] 吸引（口鼻腔、気管内）
- [ ] 人工呼吸器
- [ ] 気管切開
- [ ] 経管栄養 (胃ろう、 腸ろう、 経鼻)
- [ ] 排尿管理（自己導尿、留置カテーテル、 尿路ストーマ）
- [ ] 在宅酸素療法
- [ ] 鼻咽頭エアウェイ
- [ ] 排便管理（消化管ストーマ等）
- [ ] 中心静脈カテーテル
- [ ] ネブライザーの管理
- [ ] 皮下注射（インスリン注射等）
- [ ] 血糖測定
- [ ] 腹膜透析
- [ ] 血液透析
- [ ] 痙攣時の坐剤挿入等の服薬管理
- [ ] その他
- [ ] あてはまるものはない

障害者手帳等の有無について 必須

本人が所持している障害者手帳等の有無について、該当するものを全て選択してください（複数選択可）。

- [ ] 身体障害者手帳

- [ ] 療育手帳
- [ ] 精神障害者保健福祉手帳
- [ ] 小児慢性特定疾病受給者証
- [ ] 難病医療費受給者証
- [ ] 取得なし

身体障害者手帳の等級について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

本人が身体障害者手帳をお持ちの方にお聞きします。
本人が所持している身体障害者手帳の等級について、該当するものを選択してください。

- ○ 1級
- ○ 2級
- ○ 3級
- ○ 4級
- ○ 5級
- ○ 6級

選択解除

療育手帳の等級について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

本人が療育手帳をお持ちの方にお聞きします。
本人が所持している療育手帳の等級について、該当するものを選択してください。

- ○ マルA
- ○ A
- ○ マルB
- ○ B

選択解除

精神障害者保健福祉手帳の等級について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

本人が精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方にお聞きします。
本人が所持している精神障害者保健福祉手帳の等級について、該当するものを選択してください。

- ○ 1級
- ○ 2級
- ○ 3級

選択解除

主な日中の居場所について 必須

本人の主な日中の居場所について、該当するものを全て選択してください（複数選択可）。

- [ ] 自宅
- [ ] 保育所・認定こども園（保育部分）等
- [ ] 幼稚園・認定こども園（教育部分）
- [ ] 特別支援学校（幼稚部）
- [ ] 小学校（主に通常学級）
- [ ] 小学校（主に特別支援学級）
- [ ] 特別支援学校（小学部）
- [ ] 中学校（主に通常学級）
- [ ] 中学校（主に特別支援学級）
- [ ] 特別支援学校（中学部）
- [ ] 高等学校
- [ ] 特別支援学校（高等部）
- [ ] 通所事業所（児童発達支援・生活介護等）
- [ ] 会社（一般就労）
- [ ] 病院（入院中）
- [ ] 入所施設
- [ ] その他

夜間に過ごす場所について 必須

本人が夜間に過ごす場所について、該当するものを選択してください。

- ○ 自宅
- ○ 病院（入院中）
- ○ 入所施設
- ○ グループホーム
- ○ その他

選択解除

2025/02/18 9:30　　【香川県電子申請・届出システム】手続き申込：申込

香川県電子申請・届出システム

ログイン

利用者登録

申請団体選択

手続き申込　申込内容照会　電子署名検証

手続き申込

手続き選択をする　メールアドレスの確認　内容を入力する　申し込みをする

申込

選択中の手続き名：医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査

問合せ先　＋開く

説明

香川県医療的ケア児等実態調査
アンケートご協力のお願い

お忙しい中、本サイトにアクセスしていただき、ありがとうございます。
本調査は、医療的ケア児・者のご家族の日常の実態や、希望する生活状況を把握することを目的としております。アンケート回答に対する所要時間はおおむね15分です。
調査結果は、よりよい支援を検討する基礎資料とさせていただく予定です。ご回答しづらい質問もあるかと思いますが、今後の支援策の充実のため、ぜひアンケートにご協力をいただきますようお願いいたします。

※回答期間は令和６年10月29日（火）～令和６年12月16日（月）です。
※医療的ケア児・者とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為を必要とする方たちを指します。
※40歳未満の医療的ケア児・者とともに、ご自宅で生活しているご家族の方で、医療的ケアを主として行っている方がご回答ください。
※回答内容は、ここ最近6か月程度を平均した状態についてお答えください。

受付時期　2024年10月29日9時00分～ 随時

基本情報　質問１　質問２　質問３

２．主たる介護者について

主たる介護者について 必須

自宅で主に介護・医療的ケアを実施している方（主たる介護者）はどなたですか。

- ○ 医療的ケアが必要な本人
- ○ 母
- ○ 父
- ○ 兄弟姉妹
- ○ 祖母

○ 祖父
○ 配偶者
○ その他

選択解除

従たる介護者について 必須

自宅で主に介護・医療的ケアを実施している方（主たる介護者）の他に、介護・医療的ケアを実施している方（従たる介護者）はどなたですか（複数選択可）。

□ 医療的ケアが必要な本人
□ 母
□ 父
□ 兄弟姉妹
□ 祖母
□ 祖父
□ 配偶者
□ その他

介護・医療的ケアを依頼している方、サービスについて 必須

主たる介護者、従たる介護者が何らかの理由で介護・医療的ケアをできない時に、介護・医療的ケアを依頼している方（する予定の方）及びサービスを選択してください（複数選択可）。

□ 別居の親族（続柄を記入してください）
□ 知人・友人
□ その他の方
□ 訪問看護
□ 居宅介護（ホームヘルプ）・重度訪問介護
□ 短期入所（ショートステイ）
□ その他のサービス
□ 依頼できる人、サービスがない

相談相手について 必須

ご家族以外に、医療的ケアについての悩みごとや、お困りごとを気軽に相談できる方はどなたですか（複数選択可）。

- [ ] 親族
- [ ] 友人・知人
- [ ] 相談支援専門員
- [ ] 通学先の教員
- [ ] かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員
- [ ] 訪問看護師
- [ ] 保健師
- [ ] 市町の職員
- [ ] 障害福祉サービス事業所の職員（ヘルパー、支援員等）
- [ ] 香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」
- [ ] 相談相手はいない
- [ ] その他

- [ ] 特段の悩みはない

主たる介護者の平均睡眠時間について 必須

「主たる介護者」の睡眠時間の合計（１日平均）について、時間数を選択してください。

- ○ ２時間未満
- ○ ２～３時間未満
- ○ ３～４時間未満
- ○ ４～５時間未満
- ○ ５～６時間未満
- ○ ６～７時間未満
- ○ ７～８時間未満
- ○ ８時間以上

選択解除

主たる介護者の１回の睡眠時間について 必須

「主たる介護者」の１回あたりの睡眠時間について、時間数を選択してください。

- ○ １時間未満
- ○ １～２時間未満

- ○ ２～３時間未満
- ○ ３～４時間未満
- ○ ４～５時間未満
- ○ ５～６時間未満
- ○ ６～７時間未満
- ○ ７～８時間未満
- ○ ８時間以上

選択解除

医療的ケアの代わりを依頼したい時について 必須

医療的ケアの代わりを依頼したいと感じるときはいつですか（複数選択可）。

- □ 介護者が休息を取りたいとき
- □ 学校行事等、兄弟姉妹の用事があるとき
- □ 冠婚葬祭のとき
- □ 家族が病気のとき
- □ 主たる介護者が病気のとき
- □ その他

主たる介護者の医療的ケア等に携わる時間について（１） 必須

主たる介護者が、１日の間に医療的ケアを含む介護を休むことができた合計時間（１日平均）を選択してください。

- ○ ほとんどない
- ○ １時間未満
- ○ １～２時間
- ○ ３～5時間
- ○ 5時間以上

選択解除

主たる介護者の医療的ケア等に携わる時間について（２） 必須

主たる介護者が、１日の間に医療的ケアを含む介護を休むことができた合計時間（１日平均）について、その時間の長さをどう思うか選択してください。

- ○ 非常に短い
- ○ 短い
- ○ 短いと感じない

選択解除

主たる介護者の医療的ケア等に携わる時間について（３） 必須

主たる介護者が、医療的ケアを含む介護を丸1日(24時間)休むことができた直近の日を選択してください。

- ○ １週間以内にあった
- ○ １か月以内にあった
- ○ 2か月以内にあった
- ○ 半年以内にあった
- ○ １年以内にあった
- ○ １年以上休めていない

選択解除

一緒に暮らすご家族の状況について 必須

主たる介護者が、一緒に暮らすご家族について、負担に感じていることはありますか（複数選択可）。

- □ 本人と家族の両方の面倒をみることの負担が大きい
- □ 自分以外の家族に医療的ケアを任せられず、自分の時間が持てない
- □ ほかの兄弟姉妹の育児に手が回らない
- □ ほかの兄弟姉妹が「親を医療的ケア児に奪われている」というような不満足な気持ちを抱えている
- □ ほかの家族も本人の介護等で負担となっている
- □ その他

主たる介護者の就労状況について 必須

主たる介護者の就労状況について、該当するものを選択してください（複数選択可）。

- □ 常勤で就労している
- □ パートで就労している
- □ 就労していない
- □ その他

主たる介護者の就労状況の満足度について 必須

主たる介護者はご自身の就労状況について、どのように感じていますか。

- ○ 満足している

○ どちらともいえない

○ 満足していない

選択解除

３．訪問診療・訪問看護の利用について

訪問診療について 必須

訪問診療の利用について、該当するものを選択してください。なお、複数回の入院歴がある場合は、直近の退院時をもとに選択してください。

○ 退院時も現在も利用していない

○ 退院時は受けていたが、現在は利用していない

○ 退院時は利用していなかったが、現在は利用している

○ 退院時から現在も継続して利用している

○ その他

選択解除

訪問診療を利用しない理由について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

訪問診療の利用について、「退院時も現在も利用していない」「退院時は受けていたが、現在は利用していない」方への質問です。
訪問診療を利用しない理由について、該当するものを選択してください。

○ 主治医のいる病院等への通院で特に支障がない

○ 主治医のいる病院等でないと不安である

○ 利用したいが対応してくれる施設がない

○ 制度自体を知らない

○ その他

選択解除

訪問看護について 必須

訪問看護の利用について、該当するものを選択してください。なお、複数回の入院歴がある場合は、直近の退院時をもとに選択してください。

○ 退院時も現在も利用していない

○ 退院時は受けていたが、現在は利用していない

○ 退院時は利用していなかったが、現在は利用している

◯ 退院時から現在も継続して利用している

◯ その他

選択解除

訪問看護を利用しない理由について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

訪問看護の利用について、「退院時も現在も利用していない」「退院時は受けていたが、現在は利用していない」方への質問です。
訪問看護を利用しない理由について、該当するものを選択してください。

◯ 主治医のいる病院等への通院で特に支障がない

◯ 主治医のいる病院等でないと不安である

◯ 利用したいが対応してくれる病院等がない

◯ 制度自体を知らない

◯ その他

選択解除

< 戻る　　次へ >

確認へ進む >

香川県電子申請・届出システム

ログイン

利用者登録

申請団体選択

手続き申込　申込内容確認　電子署名検証

手続き申込

手続き選択をする　メールアドレスの確認　内容を入力する　申し込みをする

申込

選択中の手続き名：医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査

問合せ先　＋開く

説明

香川県医療的ケア児等実態調査
アンケートご協力のお願い

お忙しい中、本サイトにアクセスしていただき、ありがとうございます。
本調査は、医療的ケア児・者のご家族の日常の実態や、希望する生活状況を把握することを目的としております。アンケート回答に対する所要時間はおおむね15分です。
調査結果は、よりよい支援を検討する基礎資料とさせていただく予定です。ご回答しづらい質問もあるかと思いますが、今後の支援策の充実のため、ぜひアンケートにご協力をいただきますようお願いいたします。

※回答期間は令和６年10月29日（火）～令和６年12月16日（月）です。
※医療的ケア児・者とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為を必要とする方たちを指します。
※40歳未満の医療的ケア児・者とともに、ご自宅で生活しているご家族の方で、医療的ケアを主として行っている方がご回答ください。
※回答内容は、ここ最近6か月程度を平均した状態についてお答えください。

受付時間　2024年10月29日9時00分～ 随時

基本情報　質問１　質問２　質問３

４．障害福祉サービス等の利用について

居宅介護（ホームヘルプ）の利用について　必須

居宅介護（ホームヘルプ）の利用状況について、該当するものを選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない

選択解除

居宅介護（ホームヘルプ）を利用できない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

居宅介護（ホームヘルプ）の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- ☐ 医療的ケアを理由に断られた
- ☐ 定員枠が空いていない
- ☐ 突然の申込みには対応できない
- ☐ 施設・自宅の設備・構造
- ☐ 職員数の不足
- ☐ 本人の特性（多動・自傷行為）
- ☐ 受け入れてくれるところが分からない
- ☐ 送迎のサービスがない
- ☐ サービスを知らない
- ☐ その他

重度訪問介護の利用について 必須

重度訪問介護の利用状況について、該当するものを選択してください。
なお、医療的ケアを必要とする本人の年齢が18歳未満の方は、無回答を選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない
- ○ 無回答

選択解除

重度訪問介護を利用できない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

重度訪問介護の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- ☐ 医療的ケアを理由に断られた
- ☐ 定員枠が空いていない
- ☐ 突然の申込みには対応できない
- ☐ 施設・自宅の設備・構造
- ☐ 職員数の不足
- ☐ 本人の特性（多動・自傷行為）

- [ ] 受け入れてくれるところが分からない
- [ ] 送迎のサービスがない
- [ ] サービスを知らない
- [ ] その他

医療型短期入所の利用について 必須

医療型短期入所の利用状況について、該当するものを選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない

選択解除

医療型短期入所を利用できない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

医療型短期入所の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- [ ] 医療的ケアを理由に断られた
- [ ] 定員枠が空いていない
- [ ] 突然の申込みには対応できない
- [ ] 施設・自宅の設備・構造
- [ ] 職員数の不足
- [ ] 本人の特性（多動・自傷行為）
- [ ] 受け入れてくれるところが分からない
- [ ] 送迎のサービスがない
- [ ] サービスを知らない
- [ ] その他

福祉型短期入所の利用について 必須

福祉型短期入所の利用状況について、該当するものを選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない

選択解除

福祉型短期入所を利用できない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

福祉型短期入所の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- ☐ 医療的ケアを理由に断られた
- ☐ 定員枠が空いていない
- ☐ 突然の申込みには対応できない
- ☐ 施設・自宅の設備・構造
- ☐ 職員数の不足
- ☐ 本人の特性（多動・自傷行為）
- ☐ 受け入れてくれるところが分からない
- ☐ 送迎のサービスがない
- ☐ サービスを知らない
- ☐ その他

生活介護の利用について 必須

生活介護の利用状況について、該当するものを選択してください。
なお、医療的ケアを必要とする本人の年齢が18歳未満の方は、無回答を選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない
- ○ 無回答

選択解除

生活介護を利用できない理由について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

生活介護の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- ☐ 医療的ケアを理由に断られた
- ☐ 定員枠が空いていない
- ☐ 突然の申込みには対応できない
- ☐ 施設・自宅の設備・構造
- ☐ 職員数の不足

- [ ] 本人の特性（多動・自傷行為）
- [ ] 受け入れてくれるところが分からない
- [ ] 送迎のサービスがない
- [ ] サービスを知らない
- [ ] その他

児童発達支援の利用について 必須

児童発達支援の利用状況について、該当するものを選択してください。
なお、医療的ケアを必要とする本人が就学中（小学校、中学校、高校）もしくは高校卒業後の場合は、無回答を選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない
- ○ 無回答

選択解除

児童発達支援を利用できない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

児童発達支援の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- [ ] 医療的ケアを理由に断られた
- [ ] 定員枠が空いていない
- [ ] 突然の申込みには対応できない
- [ ] 施設・自宅の設備・構造
- [ ] 職員数の不足
- [ ] 本人の特性（多動・自傷行為）
- [ ] 受け入れてくれるところが分からない
- [ ] 送迎のサービスがない
- [ ] サービスを知らない
- [ ] その他

放課後等デイサービスの利用について 必須

放課後等デイサービスの利用状況について、該当するものを選択してください。
なお、医療的ケアを必要とする本人が、小学校就学前もしくは高校卒業後の場合は、無回答を選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない
- ○ 無回答

選択解除

放課後等デイサービスを利用できない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

放課後等デイサービスの利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- □ 医療的ケアを理由に断られた
- □ 定員枠が空いていない
- □ 突然の申込みには対応できない
- □ 施設・自宅の設備・構造
- □ 職員数の不足
- □ 本人の特性（多動・自傷行為）
- □ 受け入れてくれるところが分からない
- □ 送迎のサービスがない
- □ サービスを知らない
- □ その他

移動支援の利用について 必須

移動支援の利用状況について、該当するものを選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない

選択解除

移動支援を利用できない理由について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

移動支援の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- □ 医療的ケアを理由に断られた

- [ ] 定員枠が空いていない
- [ ] 突然の申込みには対応できない
- [ ] 施設・自宅の設備・構造
- [ ] 職員数の不足
- [ ] 本人の特性（多動・自傷行為）
- [ ] 受け入れてくれるところが分からない
- [ ] 送迎のサービスがない
- [ ] サービスを知らない
- [ ] その他

日中一時支援の利用について 必須

日中一時支援の利用状況について、該当するものを選択してください。

- ○ 利用している
- ○ 利用していない（利用する必要がない）
- ○ 利用したいが、利用できない

選択解除

日中一時支援を利用できない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

日中一時支援の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- [ ] 医療的ケアを理由に断られた
- [ ] 定員枠が空いていない
- [ ] 突然の申込みには対応できない
- [ ] 施設・自宅の設備・構造
- [ ] 職員数の不足
- [ ] 本人の特性（多動・自傷行為）
- [ ] 受け入れてくれるところが分からない
- [ ] 送迎のサービスがない
- [ ] サービスを知らない
- [ ] その他

相談支援事業の利用について 必須

相談支援事業の利用状況について、該当するものを選択してください。

- ◯ 利用している
- ◯ 利用していない（利用する必要がない）
- ◯ 利用したいが、利用できない

選択解除

相談支援事業を利用できない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

相談支援事業の利用について、「利用したいが、利用できない」方への質問です。利用できない理由について、選択してください（複数選択可）。

- □ 医療的ケアを理由に断られた
- □ 定員枠が空いていない
- □ 突然の申込みには対応できない
- □ 施設・自宅の設備・構造
- □ 職員数の不足
- □ 本人の特性（多動・自傷行為）
- □ 受け入れてくれるところが分からない
- □ 送迎のサービスがない
- □ サービスを知らない
- □ その他

一番利用したいサービスについて 必須

一番利用したいサービスについて、該当するものを２つまで選択してください。

- □ 居宅介護（ホームヘルプ）
- □ 重度訪問介護
- □ 短期入所（ショートステイ）
- □ 療養介護
- □ 生活介護
- □ 施設入所支援
- □ 就労系（就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援）
- □ 共同生活援助（グループホーム）
- □ 相談支援

- [ ] 児童発達支援
- [ ] 放課後等デイサービス
- [ ] 移動支援
- [ ] 日中一時支援
- [ ] 地域活動支援センター
- [ ] その他

サービスや支援の希望について

今後あったらいいな、もっと利用できたらいいなとお考えのサービスや支援はありますか。具体的にご記入ください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 500

５．就園、就学等について

本人の就学状況について 必須

本人の就学状況について、該当するものを選択してください。

- ○ 小学校就学前
- ○ 就学中（小学校、中学校、高校）
- ○ 卒業後、就学していない

選択解除

就園、就学にあたっての相談相手について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

本人が、「小学校就学前」「就学中（小学校、中学校、高校）」の方への質問です。
就園、就学にあたって困ったことや悩んだ時、誰に相談しましたか。また、今後誰に相談したいですか（複数選択可）。

- [ ] 親族
- [ ] 友人・知人
- [ ] 相談支援専門員
- [ ] 就学先の教員等
- [ ] かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員
- [ ] 訪問看護師
- [ ] 保健師
- [ ] 市町の職員
- [ ] 香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」
- [ ] 障害福祉サービス事業所の職員（ヘルパー、支援員等）
- [ ] その他
- [ ] 相談相手がいない
- [ ] 特段の悩みはない

就園、就学先での医療的ケア等の悩みについて 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

本人が、「小学校就学前」「就学中（小学校、中学校、高校）」の方への質問です。
保育所、幼稚園、学校等での医療的ケア等について、悩みはありますか。
悩みがある方は、内容について記載してください。

- ○ ある
- ○ ない
- ○ まだわからない

選択解除

就園、就学先での医療的ケア等の相談相手について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

本人が、「小学校就学前」「就学中（小学校、中学校、高校）」の方への質問です。
保育所、幼稚園、学校等での医療的ケア等について、相談できる人はいますか（複数選択可）。

- [ ] 親族
- [ ] 友人・知人
- [ ] 相談支援専門員

- [ ] 就学先の教員等
- [ ] かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員
- [ ] 訪問看護師
- [ ] 保健師
- [ ] 市町の職員
- [ ] 障害福祉サービス事業所の職員（ヘルパー、支援員等）
- [ ] 香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」
- [ ] その他

- [ ] 相談相手がいない
- [ ] 特段の悩みはない

卒業後の進路選択にあたっての相談相手について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

本人が、「小学校就学前」「就学中（小学校、中学校、高校）」の方への質問です。
卒業後の進路選択について、誰に相談しますか（複数選択可）。

- [ ] 親族
- [ ] 友人・知人
- [ ] 相談支援専門員
- [ ] 就学先の教員等
- [ ] かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員
- [ ] 訪問看護師
- [ ] 保健師
- [ ] 市町の職員
- [ ] 障害福祉サービス事業所の職員（ヘルパー、支援員等）
- [ ] 香川県医療的ケア児等支援セター「ソダテル」
- [ ] その他

- [ ] 相談相手がいない
- [ ] 特段の悩みはない

就園、就学におけるご意見について

就園、就学におけるご意見やご感想を記載してください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 500

将来の介護等について 必須

主たる介護者が高齢になった場合等、将来、本人の介護等をどうしたいと考えていますか。

- ◯ 居宅介護（ホームヘルプ）等の在宅サービスを利用して、できる限り在宅生活を続けたい
- ◯ 将来は入所施設やグループホーム等に預けて、介護等をしてもらいたい
- ◯ 将来、利用できる施設等が分らないため、不安を感じている
- ◯ 本人の将来のイメージが持てず、どうすれば良いか悩んでいる
- ◯ 特に考えていない
- ◯ その他

選択解除

親同士の「交流の場」について 必須

現在、親同士の「交流の場」はありますか。
「交流の場」がある方は、具体的に記載してください。

- ◯ ある
- ◯ ない

選択解除

< 戻る　　次へ >

香川県電子申請・届出システム

ログイン

利用者登録

申請団体選択

手続き申込　申込内容照会　電子署名検証

手続き申込

手続き選択をする　メールアドレスの確認　内容を入力する　申し込みをする

申込

選択中の手続き名：医療的ケアを必要とする方の支援ニーズに関する調査

問合せ先　＋開く

説明

香川県医療的ケア児等実態調査
アンケートご協力のお願い

お忙しい中、本サイトにアクセスしていただき、ありがとうございます。
本調査は、医療的ケア児・者のご家族の日常の実態や、希望する生活状況を把握することを目的としております。アンケート回答に対する所要時間はおおむね15分です。
調査結果は、よりよい支援を検討する基礎資料とさせていただく予定です。ご回答しづらい質問もあるかと思いますが、今後の支援策の充実のため、ぜひアンケートにご協力をいただきますようお願いいたします。

※回答期間は令和６年10月29日（火）～令和６年12月16日（月）です。
※医療的ケア児・者とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為を必要とする方たちを指します。
※40歳未満の医療的ケア児・者とともに、ご自宅で生活しているご家族の方で、医療的ケアをまとして行っている方がご回答ください。
※回答内容は、ここ最近6か月程度を平均した状態についてお答えください。

受付時間　2024年10月29日9時00分～ 随時

基本情報　質問１　質問２　質問３

６．災害時の対策について

災害時の対策について 必須

災害時の対策についてお伺いします。すでに取り組まれている災害時への備えをお選びください（複数選択可）。

- ☐ 自宅がハザードマップ上にあるかどうかを確認している
- ☐ 災害に備えた必要な物品等を確保している
- ☐ 災害時に備えた持ち出し準備が常にできている
- ☐ 災害時に備えて保有している予備動力等がある（人工呼吸器や吸引器の外部バッテリー、電源不要な吸引器等）
- ☐ 避難（移動）の際の家族で共有している連絡方法がある

- [ ] なるべく在宅避難希望で準備している
- [ ] 避難所を決めており、避難経路も計画済みである
- [ ] 近隣の消防署・消防団との日常的なコンタクトや連携を取っている
- [ ] 居住市町に「個別避難計画」を提出している
- [ ] その他
- [ ] 特に用意していない

災害時の非常用電源について 必須

災害時の非常用電源として、用意しているものを全て選択してください（複数回答可）。

- [ ] 各機種用専用外部バッテリー
- [ ] 市販蓄電池（ポータブル電源等）
- [ ] 発電機
- [ ] 自動車（ハイブリット車、ＥＶ車等）
- [ ] その他
- [ ] 対応していない
- [ ] 対応する必要がない

災害対策に関するご意見について

災害対策に関する悩みやご意見などあれば、記載してください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 500

７．感染症対策について

コロナ等新興感染症流行以降、気にかけていることについて 必須

コロナ等新興感染症の流行以降、あなたのお気持ちに当てはまるものをお選びください（複数選択可）。

- ☐ 何が正しい情報かわからず、情報に惑わされることがある
- ☐ いつまでこの状態（コロナ等を気にかけながらの生活）が続くのか、と不安になる
- ☐ 感染拡大時に、学校生活や仕事への影響が出ないか心配だ
- ☐ 感染拡大時に、医療機関での診療や福祉サービスの利用ができるのか心配だ
- ☐ 感染予防の方法を身に着けることができたので、再び流行しても何とか対処できるだろう
- ☐ 感染予防に気を付けながら、趣味の時間や人とのつながりを大切にしたい
- ☐ 本人の感染が怖いので、できるだけ外出や人と関わることは避けたい
- ☐ その他

[　　]

- ☐ あてはまるものはない

８．香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」等について

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」について 必須

医療的ケアを必要とする方とその家族や支援者の相談窓口となり、情報提供や助言などを行う、香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」に連絡、相談をしたことがありますか。

- ○ 連絡、相談をしたことがある
- ○ 名前は知っているが、連絡、相談はしたことがない
- ○ 知らない

選択解除

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」へのご意見について

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」について、ご意見があれば記載してください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 500

医療的ケアを必要とする方やご家族への支援策に関するご意見等について

医療的ケアを必要とする方やご家族への支援策に関することで、感じていること、問題点、ご意見等を記載してください（自由記述）。

入力文字数：0/1000

（３）医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査

香川県電子申請・届出システム

ログイン

利用者登録

申請団体選択

手続き申込　申込内容確認　電子署名検証

手続き申込

手続き選択をする　メールアドレスの確認　内容を入力する　申し込みをする

申込

選択中の手続き名：医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査

問合せ先　＋開く

説明　医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査　ご協力のお願い

日頃から本県の障害福祉施策の推進に、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本県では、平成３０年６月に「香川県自立支援協議会医療的ケア部会」を設置しました。この部会で、県内で医療的ケアを必要とする方に関係している医療や福祉、教育、行政機関等が集まり、意見交換会等を行い、医療的ケアが必要な方が安心して生活するために必要な支援や連携について検討しています。

この調査票は、サービスを提供する事業所の医療的ケアの実施状況、及び実施に伴う課題等を把握し、支援策を検討することを目的としています。アンケート回答に対する所要時間はおおむね１０分です。

ご回答いただいた情報は、医療的ケアを必要とする方の支援に関する目的以外には使用いたしません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、回答への協力をお願いいたします。

※回答期間は令和６年10月29日（火）～令和６年12月16日（月）です。

※医療的ケア児・者とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為を必要とする方たちを指します。

受付期間　2024年10月29日9時00分～随時

基本情報　質問１

１．医療的ケア児等に対するサービス提供の実施状況について

貴事業所の実施事業について　必須

貴事業所の実施事業について、主なものを１つ選択してください。

- ○ 居宅介護
- ○ 重度訪問介護
- ○ 生活介護
- ○ 短期入所
- ○ 就労移行支援
- ○ 就労継続支援Ａ型

- ◯ 就労継続支援Ｂ型
- ◯ 共同生活援助
- ◯ 児童発達支援
- ◯ 放課後等デイサービス
- ◯ 相談支援
- ◯ 移動支援
- ◯ 訪問看護
- ◯ その他

選択解除

貴事業所の所在地について 必須

貴事業所の所在地を選択してください。

- ◯ 高松市
- ◯ 丸亀市
- ◯ 坂出市
- ◯ 善通寺市
- ◯ 観音寺市
- ◯ さぬき市
- ◯ 東かがわ市
- ◯ 三豊市
- ◯ 土庄町
- ◯ 小豆島町
- ◯ 三木町
- ◯ 直島町
- ◯ 宇多津町
- ◯ 綾川町
- ◯ 琴平町
- ◯ 多度津町
- ◯ まんのう町

選択解除

医療的ケア児等やその支援方法について 必須

医療的ケア児等やその支援方法について知っていますか。当てはまるものを選択してください。

○ 医療的ケア児等も、その支援方法も知っている。

○ 医療的ケア児等は知っているが、その支援方法は知らない。

○ 医療的ケア児等も、その支援方法も知らない。

選択解除

医療的ケア児等支援者・コーディネーターについて 必須

貴事業所において、医療的ケア児等支援者・コーディネーターはいますか。
（医療的ケア児等支援者養成研修修了者、医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者をいいます）

○ どちらもいる

○ 医療的ケア児等支援者がいる

○ 医療的ケア児等コーディネーターがいる

○ どちらもいない

選択解除

医療的ケア児等に対する支援の実施状況について 必須

貴事業所において、医療的ケア児等に対する支援を実施していますか。該当するものを選んでください（実施予定の場合は、予定時期をお答えください）。

○ 実施している

○ 未実施だが、今後実施予定

○ 未実施だが、今後、実施を検討したいと考えている

○ 未実施で、実施予定もない

選択解除

医療的ケアを実施している児等の人数について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

医療的ケアを実施又は実施予定の事業所への質問です。
医療的ケアを実施している児者の人数について選択の上、人数をお答えください（実施予定の場合は、現段階での予定人数をお答えください）（複数選択可）。
（回答例：未就学児で５人の場合、未就学児を選択し、テキストボックスに５と入力）

□ 未就学児

□ 就学後～１８歳未満

□ １８歳以上～４０歳未満

- [ ] ４０歳以上

事業運営の工夫等について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

医療的ケアを実施又は実施予定の事業所への質問です。
医療的ケアを実施する（または実施予定とする）ために、貴事業所では、どのような工夫を行っていますか（または、行う予定ですか）。事業運営上の工夫等について、あてはまるものを選択してください（複数選択可）。

- [ ] 看護師等の専門職員の配置
- [ ] 医療的ケア児等の支援に関する研修への参加
- [ ] 医療・教育・福祉等の関係機関との情報共有
- [ ] 介護ベッド・医療機器等の設備の充実
- [ ] 個々の状態に合わせた支援の提供
- [ ] 特になし
- [ ] その他

事業運営の課題について 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります

医療的ケアを実施又は実施予定の事業所への質問です。
医療的ケアの実施（または実施予定）に当たって生じた事業運営への影響や、円滑な事業運営を図る上での課題について、あてはまるものを選択してください（複数選択可）。

- [ ] 人員の確保が困難
- [ ] 医療的ケア児等の支援に関する研修等の機会が少ない
- [ ] 医療・教育・福祉等の関係機関との情報共有が困難
- [ ] 介護ベッド・医療機器等の設備整備が困難
- [ ] 個々の支援に合わせた支援の提供
- [ ] 特になし
- [ ] その他

医療的ケア児等への支援の検討について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

医療的ケア児等への支援は未実施だが、今後、検討したいと考えている事業所への質問です。
今後、医療的ケア児等の実施を積極的に検討するには、どのような事項が重要ですか（複数選択可）。

- [ ] 対象者からの利用希望がある

- [ ] 医療的ケアに関する研修が受講しやすくなる
- [ ] 医療的ケアにおける事故等のリスクを低下させる方法を学ぶことができる
- [ ] 医療的ケアを実施するための職員のスキルアップを図れる
- [ ] その他

医療的ケアを実施していない理由について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

医療的ケア児等への支援を未実施で、実施予定がない事業所への質問です。
医療的ケアを実施していない理由を選択してください（複数選択可）。

- [ ] 対象者からの利用希望がない
- [ ] 人員体制や費用の問題で研修の受講が困難
- [ ] 医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい
- [ ] 医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している
- [ ] その他

次へ >

確認へ進む >

香川県電子申請・届出システム

ログイン

利用者登録

申請団体選択

手続き申込　申込内容照会　電子署名検証

手続き申込

手続き選択をする　メールアドレスの確認　内容を入力する　申し込みをする

申込

選択中の手続き名：医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査

問合せ先　開く

説明　医療的ケア児等の支援に関わる事業所調査　ご協力のお願い

日頃から本県の障害福祉施策の推進に、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本県では、平成３０年６月に「香川県自立支援協議会医療的ケア部会」を設置しました。この部会で、県内で医療的ケアを必要とする方に関係している医療や福祉、教育、行政機関等が集まり、意見交換会等を行い、医療的ケアが必要な方が安心して生活するために必要な支援や連携について検討しています。

この調査票は、サービスを提供する事業所の医療的ケアの実施状況、及び実施に伴う課題等を把握し、支援策を検討することを目的としています。アンケート回答に対する所要時間はおおむね１０分です。

ご回答いただいた情報は、医療的ケアを必要とする方の支援に関する目的以外には使用いたしません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、回答への協力をお願いいたします。

※回答期間は令和６年10月29日（火）～令和６年12月16日（月）です。

※医療的ケア児・者とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為を必要とする方たちを指します。

受付時期　2024年10月29日9時00分～ 随時

基本情報　質問１

２．介護職員による医療的ケアの実施について

医療的ケアを実施できる介護職員について　必須

貴事業所において、医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）がいるかどうかについて、選択してください。

- ○ 医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）がいる
- ○ 医療的ケアを実施できる介護職員（喀痰吸引等研修を修了した介護職員）がいない
- ○ 事業所に介護職員がいない

選択解除

介護職員が研修を受講する際の課題について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

介護職員がいる事業者への質問です。
介護職員が研修を受講する際、課題となることについて選択してください（複数選択可）。

- ☐ 研修費用の負担が大きい
- ☐ 研修場所が遠い
- ☐ 研修で介護職員が不在時、業務体制に支障が出る
- ☐ 研修の機会が少なく、受講するタイミングが合わない
- ☐ その他

介護職員の研修に係る意見について 選択肢の結果によって入力条件が変わります

介護職員がいる事業者への質問です。
介護職員による医療的ケア児等への支援に関する研修についてご意見があれば自由にご記入ください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 200

３．看護師による医療的ケア児等への支援の実施について

看護師による医療的ケア児等への支援について 必須

貴事業所において、医療的ケア児等を支援したことのある看護師がいるかについて、選択してください。

- ○ 医療的ケア児等を支援したことのある看護師がいる
- ○ 医療的ケア児等を支援したことのある看護師がいない
- ○ 事業所に看護師がいない

選択解除

看護師による医療的ケア児等への支援の推進について 必須

選択肢の結果によって入力条件が変わります

看護師がいる事業者への質問です。
看護師による医療的ケア児等への支援を推進するためには、どのような対策が有効だと考えますか（複数選択可）。

- ☐ 医療的ケア児等の支援に関する看護師向けの研修の実施
- ☐ 医療的ケア児等及びその支援方法の周知

- [ ] 看護師のリスク・不安を軽減するためのバックアップする体制の充実
- [ ] 医療的ケア児の支援に関係する多職種連携の推進
- [ ] その他

看護師の医療的ケア児等への支援に係る意見について

選択肢の結果によって入力条件が変わります

看護師がいる事業者への質問です。
その他、看護師による医療的ケア児等への支援に関するご意見があれば自由にご記入ください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 200

４．コロナ等新興感染症について

コロナ等新興感染症への対策について 必須

コロナ等新興感染症の流行に伴い、実施している対策はありますか（複数選択可）。

- [ ] 対応マニュアルの整備
- [ ] 遠隔コミュニケーションツールの活用
- [ ] 事業所内の衛生管理の徹底
- [ ] 職員の健康管理
- [ ] 利用者の健康管理
- [ ] サービス利用の制限
- [ ] その他
- [ ] 特に対応していない

コロナ等新興感染症への課題について 必須

コロナ等新興感染症の流行以降に伴い、回答時点で、困難に感じていることはありますか（複数選択可）。

- [ ] 対応マニュアルの整備
- [ ] 遠隔コミュニケーションツールの活用
- [ ] 事業所内の衛生管理の徹底

- [ ] 職員の健康管理
- [ ] 利用者の健康管理
- [ ] サービス利用の継続
- [ ] その他

- [ ] 特に課題はない

コロナ等新興感染症に関するご意見について

コロナ等新興感染症の流行以降を踏まえ、医療的ケア児等への支援に関するリスク・不安を軽減するために、どのような支援が必要か、ご意見をご記入ください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 400

５．災害対策について

事業所の災害対策について 必須

事業所で実施している災害対策について選択してください（複数選択可）。

- [ ] 防災対策を文書で定めている
- [ ] 利用者の安否確認の方法を決めている
- [ ] 災害発生時に、利用者を安全に避難させる対策を立てている
- [ ] 定期的に避難訓練・防災訓練を実施している
- [ ] 災害用備品を備蓄している
- [ ] 災害時の事業継続計画（ＢＣＰ）を策定している
- [ ] 災害時の被害想定を把握している
- [ ] 災害時に備えて保有している予備動力等がある（人工呼吸器や吸引器の外部バッテリー、電源不要の吸引器等）
- [ ] その他

☐ 特に対策はしていない

災害時の対策や不安について

災害時における、医療的ケア児等への支援に関するリスク・不安を軽減するために、どのような支援が必要か、ご意見をご記入ください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 500

６．香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」について

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」について 必須

医療的ケアを必要とする方とその家族や支援者の相談窓口となり、情報提供や助言などを行う、香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」を知っていますか。

○ 知っている

○ 知らない

選択解除

香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」の取組みについて 必須

医療的ケア児等の受け入れや支援に対して、香川県医療的ケア児等支援センター「ソダテル」において、どのような取組みが必要だと思いますか（複数選択可）。

☐ 相談窓口の充実

☐ 医療的ケア児等に関する支援者向け研修の充実

☐ 医療的ケア児等に関する情報提供体制の充実

☐ 医療的ケア児等の支援に関する協議の場での専門家による助言指導

☐ 特になし

☐ その他

医療的ケア児等の支援に関する質問・意見・要望について

医療的ケア児等の支援に関する質問・意見・要望などがあればご記入ください（自由記述）。

入力文字数： 0/ 500